別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力	地域創生のための社会デザイン＆イノベーション	持続可能な地域社会の創生にとって重要な課題（社会福祉，人間，防災，環境，ものづくり，農林業）を題材として，一つのテーマに対して社会デザインとイノベーションの両方の観点から現状・課題・未来について講義し，それを受けて学生のグループ討論（分野横断グループ）を行い，地域創生に関する学際的な見方・思考力の基礎を養成する。 全学生を専門の区別なくグループ化（５名～10名）し，専門が異なる学生間の意見交換やグループワークを通して，学際的な見方・思考力や実践力の基礎を養成する。 各テーマについての導入を受講した後，グループ討論の成果を合わせて，レポートとしてまとめ提出する。提出されたレポートをプレゼンテーションし全体での討論を行う。 ＜オムニバス方式／全１５回＞ （18　横尾昇剛／５回） （第１回）オリエンテーション（グループ分け（5～10名程度）、本講義の趣旨説明、講義の実施・評価方法など） （第２回）ビックデータから見える地域：　RESAS（(Regional Economy and Society Analyzing System)地域経済分析システム）等を題材にして，ビックデータの活用によって地域課題の抽出と解決の理解を深める （第５～６回）環境：　持続可能な開発目標（SDGｓ（Sustainable Development Goals））：2015年の国連サミットで設定）における環境（生物多様性，気象変動，セロエミッションなど）に関連して，現状と課題への理解を深める（第１５回）プレゼンテーションと全体討論とまとめ及び全体講評 （64　古賀誉章／２回） （第３～４回）社会福祉：　超高齢社会等を題材として，コミュニティの役割や福祉社会を支える技術開発・まちづくり等への理解を深める （ (100) 長谷川光司・ (105) 渡邊信一／２回）（共同） （第７～８回）ものづくり：　ものづくりを題材として，民間企業等における技術開発の組織体制などマネジメントと技術開発等の実際と課題について理解を深める （ (80) 川島芳昭・ (81) 上原秀一／２回）（共同） （第９～１０回）人間：　人間発達の諸要因と支援体制及び「ヒト」と「モノ」を結びつける教育などについて，現状と課題の理解を深める （72　近藤伸也／２回） （第１１～１２回）防災：　防災を題材として，コミュニティの役割や防災を支える技術開発等への理解を深める （ (104) 前田　勇・164　池田裕樹／２回）（共同） （第１３～１４回）農林業：　食料・農林業を題材として，技術普及と技術開発等の実際と課題について理解を深める	オムニバス方式 共同（一部）講義18時間 演習12時間
		現代社会を見通す：生命と感性の科学	文系や理系の区別なく，21世紀の人間社会を考える基盤として生命と感性の素養を深めることによって，根源的視野と俯瞰的視野の涵養を図る。専門が異なる学生間の意見交換やグループワークを通して，分野横断的な思考力やコミュニケーション能力の伸張を図る。 ＜オムニバス方式／全８回＞ （ (96) 松田　勝・149　児玉　豊／２回）（共同） （第１回）オリエンテーション（グループ分け（5～10名），本講義の趣旨説明，講義の実施・評価方法など）。第2回目以降の各テーマについて課題を与え，グループでその内容を事前調査レポートとしてまとめておく。 （第８回）全体討論とまとめ及びレポート提出 （ (101) 山根健治／１回） （第２回）講義「生命とは何か，ヒトはどのように進化してきたのか」 （150　鈴木智大・151　宮川一志／３回）（共同） （第３回）グループワーク（課題に対して，講義と事前調査レポートを踏まえてグループで考察を深め纏める） （第５回）グループワーク（課題に対して，講義と事前調査レポートを踏まえてグループで考察を深め纏める） （第７回）グループワーク（課題に対して，講義と事前調査レポートを踏まえてグループで考察を深め纏める） （ (95) 湯上　登／１回） （第４回）講義「人間生活とオプティクス技術」 （ (100) 長谷川光司／１回） （第６回）講義「感性と表現の科学」	オムニバス方式 共同（一部） 講義8時間 演習7時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力	グローカルな視座を養う	21世紀の人間社会をとりまく諸課題についてグローバル，ローカルの両視点から深くかつ学際的に考えるために文・理を問わず必要な高度な知的基盤の形成を見据え，多岐な分野にわたる社会的課題に対応するためのリテラシーと発信力を涵養する。 具体的には，「授業計画」に示すトピック・内容に沿って，グローバル社会と地域の政策，文化，生活等のかかわりに関する問題を適確に理解し思考を深めるための導入的講義等を行う。 ＜オムニバス方式／全８回＞ （⑤ 中村祐司／１回） （第１回）グローバル化とローカルガバナンス グローバルな課題と国内の諸課題の解決というローカルなガバナンス政策との関係を行政学の視点から理解する。 （⑬ 齋藤　潔／１回） （第２回）アグリビジネス 農業ビジネスのモデルを解き明かすためのツールを学ぶとともに、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスなどニュービジネスの動向を理解する。（英語により行う） （ (55) 藤本郷史／１回） （第３回）国際規格ISO 国際規格ISOの制定プロセスを学び，工学技術等の国際的普及と運用を目的とした国際標準化についての理解を深める。 （19　山岡　暁・71　藤倉修一／１回）（共同） （第４回）国際的なキャリア開発 国際的に通用するプロジェクトマネジャーやエンジニアとなるために必要な知識・技法・ツールを学ぶ。 （⑯ 重田康博／１回） （第５回）グローバル・エリアスタディーズ導入 政治・経済・社会の領域で地球規模で発生する諸問題を理解し，分析する方法を具体的事例とともに学ぶ。 （ (70) Andrew Neal Reimann／１回） （第６回）多文化理解・異文化理解 文化やコミュニケーションに関する国内外のさまざまなトピックにそくして、「文化とアイディンティティ」がどのように形成され、維持されているかを国際的，多角的な視点から理解し学ぶ。（英語により行う） （ (64) Barbara Morrison／１回） （第７回）クリティカル・シンキング 現代社会の様々な課題に対する健全な批判的思考のあり方を客観的に理解し身につける。（英語により行う） （㊱　小宮秀明・㊲　赤塚朋子／１回）（共同） （第８回）ライフマネジメント 人間の発達・成長を踏まえ，生活・家族経営や健康などの観点から社会との関係性を理解する手法を理解し学ぶ。	オムニバス方式 共同（一部）
		アカデミックコミュニケーション	研究室にとどまらない多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が自由闊達に意見交換・議論を行う「オープンゼミ」により，広い視点から専門知識への理解度を深めると共に，より高度な専門知識・技術及び学際的思考力と実践力を養成する。 具体的には，各学位プログラムが主宰する「オープンゼミ」で，多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が，それぞれの専門分野における先端研究の動向や，分野を取り巻く課題，或いは，各個人の研究活動・調査活動に即した分析手法や実験手法等について，意見交換・議論を行う。 （㊸　阪田和哉） コミュニティデザイン学分野に係る，オープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （⑪ 大栗　行昭） 農業・農村経済学分野に係る，オープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力	アカデミックコミュニケーション	（ (55) 藤本郷史） 建築学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （⑭ 池田裕一） 土木工学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （⑮ 松井　宏之） 農業土木学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （ (63) 松村史紀） グローバル・エリアスタディーズ分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （㉟　米山　正文） 多文化共生学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （㊶　佐々木　和也） 地域人間発達支援学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （ (95) 湯上　登） 光工学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （ (96) 松田　勝） 分子農学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （ (97) 大庭　亨） 物質環境化学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （ (104) 前田　勇） 農芸化学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （ (98) 横田(小川)　和隆） 機械知能工学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （ (99) 古神　義則） 情報電気電子システム工学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力		アカデミックコミュニケーション	（ 101 山根　健治） 農業生産環境保全学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。 （ 102 飯塚　和也） 森林生産保全学分野に係るオープンゼミを設け，異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め，高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。	
		文系科目群	実践経営マネジメント概論	経営トップなど組織の長にある複数の学外講師の講義を通して，経営に関する基礎知識，戦略的意志決定手法とその組織運営方法，マーケティング，国際化戦略などを学ぶ。また，組織の運営，経営における情報の役割（経営と情報，情報処理技術）などを，具体的な事例によって理解する。なお，アメリカでは工学と経営学の両方を学んだ大学院修了者をゴールデンキャリアと呼び，高い社会的，企業的評価を受けている。	
			農業・農村の組織マネジメント	雇用を抱える農業経営や、複数の人が集まっての農村起業における、組織マネジメントを学修する。特にそこでのリーダーシップ、及びリーダー人材の育成に焦点を当てる。 文献を基本として実際の調査経験も取り入れた講義の上で、議論を行って学習を進めていく。 具体的には組織理論におけるリーダー論の位置づけ，かつての農村社会と，そこでのリーダー形成，農村社会における組織機能の変化，農村社会におけるリーダー形成の変容，農業経営のおける組織機能の問題，農村起業組織における組織問題，現代農村社会におけるリーダー形成の問題などの授業を計画している。	講義10時間 演習５時間
			観光地理学研究	日本および特定地域における農村観光の特徴を学習し，今後の農村観光による地域振興の可能性を議論する。 具体的には，日本における農村観光地域の分布，大都市近郊の農村観光，首都圏外縁部の農村観光，過疎地域の取り組み島嶼地域の取り組み，農村観光による地域振興に向けた議論などの授業を計画している。	
			ソーシャルビジネス論	経済的利益と社会的利益の両方が期待できるソーシャルビジネスを農村地域資源の持続的管理のための手法として講義する。理論的整理に加えて、具体的なデータを用いて事例分析も行う。具体的には、ソーシャルビジネスの定義、ソーシャルビジネスの理論、ソーシャルビジネスの事例分析、農村におけるソーシャルビジネスの役割などの授業を計画している。	
			防災と国際協力Ⅰ	防災は災害が多発する日本だけでなく世界的に大きな課題である。本講義では防災と国際協力をめぐる論点や現状、及び課題を解説し、国内外の事例を用いて議論をすすめる。具体的には、災害発生前の備え、災害発生時後の緊急、復旧、復興期の取り組みや対策を含む「防災サイクル」の考え方を視点に、近年国内外で発生した大災害の事例を検証する。特にこれまでの開発途上国で防災国際協力事業に携わった経験を生かして、海外の被災地の現状や特性について解説し、日本、ベトナム、及びスリランカ等で実際に行った先進事例を用いて議論する。	
			環境問題とガバナンスⅠ	グローバリゼーションが進行する今日、国家は地球規模の環境問題と局地的な環境問題に同時に対応することを求められている。問題は深刻化する一方、持続可能な発展に向けての様々な画期的取組みも、先進国・途上国双方において進行中である。授業では、経済活動に伴う環境問題の受苦・受益の関係性を構造的に捉え、社会的ジレンマを解消していくために、国際・国内社会がどのように向ってきたかを学び、持続可能な発展にむけたガバナンスの在り方について考察する。	講義５時間 演習10時間
			人間の安全保障と国連Ⅰ	本講義では、人間の安全保障（human security）概念の歴史的展開について検討しつつ、同概念が主に国連の安全保障分野の意思決定や活動に与えている影響について、国際関係論、国際機構論の手法を用いながら検討する。具体的には、関連する先行研究に加えて、国連機関の報告書等を資料として用いつつ、国連安全保障体制における文民の保護の位置づけとその実行について、国連平和維持活動(PKO)や「保護する責任（responsibiity to protect）」との関係性に注目しつつ研究する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力	文系科目群	国際人権保障と平和構築Ⅰ	本科目では、国際人権法、国際人道法および国際刑事法が形成され発展してきた経緯を概観し、国連、各地域機構および日本で、人の権利保障についての問題がどのように取り組まれてきたのか普遍的な視座から理解する。さらに、紛争下における大規模な人権侵害の具体的な事例を取り上げることで、理論上および実務上の様々な課題に対し、社会と私達がどう向き合うべきか分析、検討および発信する能力の一端を身につけることを目的とする。 本科目は、紛争後の平和構築において国際的な人権保障システムが如何に機能しているのか、また如何なる課題に直面しているのかを専門的に考察し、分析するためのスキルを習得するための基本的な枠組みを理解することが目的である。特に、国際人権法、国際人道法および国際刑事法の形成過程とこれらの法律に関わる国際的な裁判所、国際機関および市民社会などの多様なアクター達とのつながりに焦点を当てる。 グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「国際人権保障と平和構築Ⅱ」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。	講義10時間 演習５時間
			東アジアの国際政治と歴史Ⅰ	東アジア国際政治の歴史を専門的に理解・分析するための導入科目であり、当該地域の国際秩序が歴史的にどのように形成されてきたのかを専門的に理解・分析するための基本的知識を修得することが目的である。（１）世界戦争と戦後平和秩序という近現代国際政治史全体のダイナミズム、（２）第二次世界大戦後の地域秩序の特徴、（３）冷戦後の地域秩序の特徴について理解を深める。 具体的には、専門文献の輪読と相互討論（近現代国際政治史の全般、国際政治理論、近代東アジア国際政治史、現代東アジア国際政治史、東アジア冷戦と冷戦後）、受講生の個別研究報告、などの授業を計画している。	講義５時間 演習10時間
			ラテンアメリカの経済と社会Ⅰ	After a decade of neoliberal economic policies in most countries of the region, in the 2000s a trend to implement leftist and populist policies was observed amongst several governments. This pendulum-like movement, from pure free-market strategies to regulatory government intervention, has been one of the most salient characteristics of the region in the last quarter-century, and it serves as a framework to study the effects and multiple responses from domestic and foreign actors. This class is open to graduate students interested in Latin American issues, particularly Latin American politics, economy and society. 【和訳】本地域における自由主義政策の世紀の後、2000年代には、複数の政府が、左派ポピュリズム政策がみられた。純粋な自由主義政策から、政府の規制・介入政策へのの振り子のような動きは、この地域の四半世紀の顕著な特徴として挙げられる。また国内・海外アクターの複数の対応や影響を研究する枠組みにも寄与している。本授業は、ラテン・アメリカ、特にラテン・アメリカの政治・経済・社会に関心のある大学院生を対象とする。	
			東アフリカの社会開発と文化Ⅰ	社会開発に関する基礎的な理論理解とともに，東アフリカにおける社会開発の状況と，該当地域における文化について学ぶことを目的とする。 授業においては，以下の4点について学ぶ。（１）「社会開発」に関する先行研究に基づき，複数の視点を学ぶ。（２）東アフリカの地理・言語・民族・歴史・文化について学ぶ。（３）東アフリカの事例としてタンザニアを取り上げ，社会開発の状況について時代を追って，独立以降，構造調整時代，貧困削減・経済自由化時代における状況を分析する。具体的には，それぞれの時代の政策を精査するとともに，経済，生計戦略，教育，保健などの分野における統計的を分析する。 （４）タンザニア国内における地域差とその背景を理解する。 グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には，本科目とともに「東アフリカの社会開発と文化Ⅱ」を履修し，より専門的な知識を修得することが求められる。	講義５時間 演習10時間
			感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ	社会的共生とは、文化、性別、ハンディキャップの有無など異なる背景をもつ複数の集団が、たとえ利害が対立していても相互に排他的にふるまうことなく、一定のレベルで対等な関係を維持しつつ生活している状況である。この授業では、社会的共生の基盤となる感情と対人コミュニケーションに関する研究分野において，とくに表情を媒体にした感情のコミュニケーションに焦点を当てる。まず、感情、コミュニケーション、共感をキーワードとし、これらのキーワードに関する基礎的知見と最新の研究に関する情報を提供するとともに、他者の感情や心理状態への共感のプロセスに関する近年の研究や理論を紹介する。これらの知見と理論に基づき、感情コミュニケーションと共感が、どのように社会的共生の実現に貢献しうるのか、もしくは阻害要因として作用するのかについて検討する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力	文系科目群	グローバル化と国際的な人の移動Ⅰ	国際的な人の移動をめぐるアジア地域の今日的な（おおよそ25年）状況や問題点を大まかに探ったうえで、日本における外国人労働者問題と外国人児童生徒教育問題を中心に「地域のグローバル化にどのように向き合うか」について考える。外国人労働者問題については、「単純労働力分野」を主に担ってきた非正規滞在者、日系人、研修生・技能実習生の動向を整理し、「単純労働力分野での外国人の就労は原則認めない」としてきた日本の政策が生み出してきた問題や課題を見る。外国人児童生教育問題については、外国人労働力の受け入れを曖昧に進めてきた日本の政策が外国人児童生徒教育問題を生み出してきたことを明らかにするとともに、特に日本語指導を必要とする外国人生徒の高校進学が厳しい現実を主に「適格者主義」等の制度的な観点から問題視する。その上で、都道府県単位で実施されているポジティブ・アクションとしての進路保障の実態・成果・課題について検証する。	
			日本語論述表現法Ⅰ	本講義は、日本語で学術的なレポートや論文を作成するために必要な知識と表現技術を学ぶものである。その中でも、１）論理学の基礎とそれを応用した論述法、および、２）明瞭であいまいさのない文章の作成法を主たる内容とする。１については日本語母語話者の受講者と非母語話者の受講者とで異なる点は何もないが、２についてはコミュニケーション経験や登録時の日本語表現力に応じて目標設定をする。論文の各構成要素の有無や、注の内容、および注と文献情報の論文中の位置などは、研究分野ごとに異なっているので、受講者各人が自身の研究分野の代表的な論文の実物を持ち寄り、比較することで分野ごとの特徴をつかむとともに、効率性の観点からの検討も行う。また、その論文で行われている論証に関して、説得性の観点からの分析を行う。さらに、課題作文を行い、教師の添削を受けて改善を試みることで、説得性のある文章表現力を身に付ける。	講義11時間 演習４時間
			アメリカ文化研究Ⅰ	アメリカ合衆国の文化や歴史について多元的な観点から概観する。特に民族的また地域的な多元性について考察する。言語については米国英語の歴史的発展（イギリスからの移民英語の混交と変遷）と地域的拡散、地域については北東部、南部、中西部、西部、（南西部）の歴史的発展、宗教については、北東部における清教徒の伝統、英国国教会以外の各セクトの移住と拡散、カトリックへの排斥、ユダヤ教の北東部を中心とした広がり、イスラム教など多元的に扱うが、市民宗教や国民統合としてのキリスト教の役割も考察する。さらに、思想については、米国で生まれたプラグマティズムの発展に注目し、民族については、旧移民（北西ヨーロッパ系）と新移民（南東ヨーロッパ系）、先住民、アフリカ系米国人、アジア系（主に日系）、ユダヤ系、アラブ系、ヒスパニック系などの多元的歴史を考察する。	
			フランス思想・文化研究Ⅰ	多国籍化・多民族化・多元主義化する２１世紀のグローバル社会の現実を見据え、複雑な諸仮説やその典拠を検証する「資料批評」の方法を学修するとともに、多文化共生の理念を探究するための知識と思考力の養成を図る。この目的に資するフランスの思想について、本授業では講義形式で取り上げる。具体的には、比較文明論的な視座に基づいて、フランスの合理主義とイギリスの経験主義を思想史的に対照し、西洋社会と未開社会の性習俗を比較する。また、価値多元主義の起源というべき宗教的寛容概念の理解を深めるため、フランスにおけるナント勅令の発布とその破棄に見られる寛容思想の変遷等について検証する。講義の要所要所で、原典の鑑賞を織り交ぜることで、資料批評に基づく多元的視点の意義を理解することを目指す。	
			西洋史研究Ⅰ	本授業は西洋史・ヨーロッパ史・ドイツ史を専門的に学ぶための演習・授業である。とくに１６世紀から現代までを対象として、具体的には以下のようなテーマ・課題を扱い、文献理解と講義、討論を行い、総括する。（１）西洋史研究の方法、つまり文献探索、論文読解、先行研究理解などを教授すること、（２）宗教改革後のヨーロッパ宗教史を主要国別に整理し、国教会制という制度を理解させること、（３）フランス革命に始まる「世俗化」概念を説明すること、（４）１６世紀から１９世紀における民衆宗教、つまり制度化されたキリスト教とは異質の民衆レヴェルの信仰を説明、理解させること、（５）ドイツを例に、教区教会とは何か、その役割を理解させること、（６）世俗共同体とは別の教区共同体の意味と機能を理解させること、（７）教会が担った洗礼・結婚・葬儀の実態を理解させる。	講義11時間 演習４時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力	文系科目群	東アジア比較文学比較文化研究Ⅰ	東アジアは植民地支配や戦争の時期を挟みながら、実に多様で豊かな人的かつ知的交流が行われていた地域である。例えば19世紀末から20世紀初頭においては、魯迅や李光洙、金東仁といった中国と朝鮮の若き知識人たちが日本に留学して日本文学や日本語に訳された西欧文学を手掛かりとして「近代文学」のあるべき姿を獲得するなど多くの知的な文学交流が行なわれている。反日政策下で政府同士の公式的な交流が絶たれた戦後においても、個人レベルでの知的な文化交流（映画など）が盛んに行なわれている。21世紀に入ると、韓国や中国、台湾他中華圏では日本のアニメや漫画、ゲーム、ドラマなど日本の大衆文化がブームとなり、とりわけ村上春樹の小説が各国でベストセラーになるなど「日流」とよばれる現象が巻き起こっている。一方、日本でも「韓流」「華流」とよばれる韓国や中国、台湾の大衆文化への関心が高まっている。そうした知的生産性を持った空間として東アジアは捉えられるべきだと考えている。 そこで本授業では、1910年代から20年代、30年代にかけて東アジア各国で翻訳（翻案）発表された日本人文学者の作品をとりあげ、それらの作品が東アジアの知識人たちに受容された背景と意図、そして社会と文化に与えた影響について考察を行なう。	
			ジェンダーとアイデンティティⅠ	この授業はジェンダーというテーマについて受講生が議論できるようにするための基礎的な文献や語彙を学ぶことを目的とした授業である。ジェンダーを論じる際、アイデンティティがどのように構築されるかという問題を議論してゆくが，より具体的には，フェミニズムの概観・俯瞰をはかりつつ，フェミニズムと世界の歴史的な事象や公民権などを巡る社会的変動との関連にかかる具体的な課題や論点，フェミニズムのこれまでの潮流と歴史的展望等についての理解をはかり、さらに，ジェンダーは受講生１人１人に関わるテーマでもあるという観点から、文献輪読解題や発表活動を通して受講生が批判的考察ができるよう促進する。その際、受講生がグローバルな視点を身につけると同時に、地域的な問題にも関与できるようになることも促進する。	
			多文化教育研究Ⅰ	経済のグローバル化・ボーダレス化が進むにつれ、民族・文化等の違いがより強く意識されるようになってきている。従来、多文化論は、異なる文化背景を持つ人間同士が相互に「交流・理解できること」を前提に展開されてきた。ところが、紛争の絶えない世界の現実から、他者を理解したつもりのミスコミュニケーションが他者を理解する障害になるとも考えられる。そこで、本講義では、「理解可能な他者」を前提とすることよりも、越えられない「文化的な溝」について、歴史的、社会的および教育的見地から分析を試みると同時に、異なる民族や異なる文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と、その実現を確固たるものにするための教育の有り方について探求する。多文化教育の理論や方法論，日米欧における多文化教育の共通点・相違点が生まれた社会的・歴史的背景についても考察を加える。	
			シティズンシップ教育Ⅰ	定住する外国人の増加や2020オリンピック・パラリンピックを契機とした多文化共生社会推進の機運の高まりを受け、多文化共生社会を形成する一員としての意欲や態度としてのシティズンシップ(市民性)を理解し、シティズンシップを育成するための教育、すなわちシティズンシップ教育が必要となってきている。本講義ではこのような社会の要請を前提に、シティズンシップ教育の在り方や進め方について理解を深めるために、主として日本での現状について文献や資料を読み議論を深める。また、日本のシティズンシップ教育の議論に影響を与えている英国におけるシティズンシップ教育の展開や、シティズンシップ教育の具体的実践領域として主権者教育、福祉教育、サービスラーニング、ボランティア学習をとりあげ、実践上の課題についても検討する。	
			日本文化研究Ⅰ	日本文化は、伝統的には中国からの影響を受け、さらに、西洋からの影響を受けて近代化した。近代化を経て、現代に継承されている日本文化には多文化との融合性が内包されている。その一方で、日本文化には、同質性が高いという特徴があり、日本文化以外の文化、他文化を異文化として認識する傾向が強い。このような特質を持つ日本文化を基盤として、多文化共生を考えるためには、自己と他者の差異をとらえるのみにとどまることなく、他者との異質性と同質性の両面から考察することが重要である。多文化共生に関連する先行研究を検討し、自文化を土台として、他文化を相対化してとらえるための高度な思考訓練を行う。合わせて、文化を形成する重要な要素の一つである言語にも目を向け、日本語に対する感覚を高めることを通して、日本文化に対する理解を深める。日本文化研究と他分野の研究の異質性と同質性を活かし、融合して、多文化環境における日本文化について探究する。	
			文化人類学研究Ⅰ	文化人類学の理論における文化概念の違いと、それぞれの文化概念の社会背景と役割を、代表的な専門論文の発表・討論によって検討する。文化人類学研究Ⅰでは参与観察に基づくフィールドワークと文化相対主義という近代人類学の理論貢献を検討する。始めに18世紀における「洗練された文化」を批判する生活様式としての文化観の成立、文化の多様性を発展段階とする19世紀文化進化論の成立の意義とこれにする批判を検討する。その後フィールドワークが切り開いた、社会構造の構造機能論的理解、文化を意味の様式の統合と捉える象徴人類学、文化社会多様性を深層構造の変換と捉えるフランス構造主義など、文化相対主義の基盤を構成する代表的な理論を検討し評価する。これらの検討により多文化共生に対する文化人類学の理論的貢献を評価する。	講義８時間 演習７時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力	文系科目群	英語学研究Ⅰ	英語統語論と英語形態論への理解を深めながら，一般文法理論とのかかわりにも注意を払う。研究活動への基礎を固めるために，専門文献の読解力を養いつつ，いくつかの主要なアプローチについて，思考法の要諦を学ぶ。その際，現代英語を具体例に取り上げながら考察を深めるが，本コースで特に注意を払う点として，話し言葉と書き言葉の対比，標準的な言葉と非標準的な言葉の対比，自発的な言葉と準備された言葉の対比，および文法と使用（用法）の対比を挙げることができる。このような点から得られる知見は，構文，オンラインでの処理，言語類型論，第一言語習得理論などの様々な領域において，自発的な話し言葉の研究が不可欠であるということである。授業は主として講義形式であるが，第一次言語資料分析の練習を含むため，参加者は新聞，小説，脚本，会話の記録，映画，ラジオなど，英語の実態を広範に観察することが要求される。	
			外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ	本授業では、多文化共生に関して、わが国で現代的な課題になっている「外国人児童生徒教育」の問題を取り上げる。そして、（１）国際的な移民問題、（２）日本における在日朝鮮人と彼らに対する教育、（３）ニューカマーと彼らに対する教育、（４）就学や高等学校・大学進学問題、（５）先進地域（愛知県豊田市・小牧市、神奈川県大和市など）の教育実践、特に母語・母文化教育を重視し、より自分らしく生きられることをめざした教育実践、等に関して、意義、歴史的背景、現状、論点、課題がわかるように講義を行う。また併せて各回の授業において、関連するテーマの代表的な先行研究を批評し、研究の余地も明らかにしながら当該分野の研究を行うための準備ができるようにする。毎回の授業では受講者による意見発表・意見交換を行い、自ら考えざるを得なくなる機会を設け、理解が深まるようにする。	
			西洋近現代哲学研究Ⅰ	「西洋」とは何か、「哲学」とは何か、という大前提を問うことから始め、次に、古代ギリシャから現代哲学にいたるまでを概観する。その際、ヘーゲルの『歴史哲学講義』（英訳と日本語訳を併用）を講読しながら、哲学史そのものの意味についても考える。その上でとくに「近代」と「現代」に着目し、「科学」と「自由」を主軸に、「西洋哲学」の本質およびその問題点を探っていく。併せて、古典テキスト（カント「啓蒙とは何か」）、および、現代哲学のテキスト（ヨナス『責任という原理』）を講読する（英訳と日本語訳を併用）。そのことを通じ、先人たちの哲学・思想と現代社会に生きる我々のそれとの比較および前者から後者への影響について考えながら、我々が直面する現代社会における応用倫理の諸問題（生命倫理・医療倫理・環境問題・情報倫理等々）を最終的に考察する。	
			Comparative Study of Contemporary Cultures Ⅰ	この授業では、ジェンダー、人種、ステレオタイプ、環境、コンフリクトといったさまざまなトピックにふれ、文化やアイデンティティがいかに現代社会において構築され、維持されているかについて理解を深める。それぞれのテーマについて講義を行うが、受講者には自身の経験や研究に基づいて積極的に各テーマに関する理解を深めることが求められる。授業では人類学、歴史学、文学など様々な学問領域を利用し、また様々な方法を分析ツールとして利用する。方法については質的および量的な方法の両方を用い、様々な文化現象を分析し、自文化および他文化の理解を目指す。また、様々な文化の分析や理解のため比較というアプローチを取り入れる。受講生は考察のため現代的な問題に関わる教材を提示される。	
			日本語史と日本語研究Ⅰ	この授業では日本語学および日本語史の各領域（音声・音韻、語彙、文法、社会言語学、歴史言語学等）のいずれかの領域に関する基礎的な専門文献をとりあげ（参加者の希望により年度ごとにとりあげる領域を選定する）、文献の精読と検討をおこなう。例えば、文法領域の文献をとりあげる場合、「音韻と文法との関係」、「語彙的なものと文法的なもの」「言語の形式」「語形変化システム」等、各回のテーマを設定し、それぞれのテーマにそって演習形式で授業をおこなう。授業活動をとおして、当該専門領域における学問的状況と課題とを理解するとともに、各自の母語の言語変化に関する現象について主体的に観察するとともに、自らが理解、考察した内容を、他の受講者とともに検討できるように整理し、表現する力を身につける。こうした活動をとおして、主体的に研究を進めていくための思考力、表現力の基礎を養うことを目標とする。	講義８時間 演習７時間
			技術日本語	大学院の授業や研究室、学会で使用する日本語に特化し、表現や発表技術を学びます。学生がそれぞれ自分の専門についてポスター発表を行います。聞き手の立場に立って分かりやすく伝えるためにはどうすればいいのか実践をふまえ、日本語の表現力を磨きます。 具体的には，授業およびポスター発表についての説明，日本語表現／伝える技術，日本語表現／ポスター作成，ポスター発表会，などの授業を計画しています。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力	理系科目群	文系のためのオプト・バイオサイエンス入門	光が，これまで科学の発展にどのようにかかわってきたか，これからどのような発展に寄与していくかをいくつかの例をとおして議論する．光が，これまで産業の発展にどのようにかかわってきたか，これからどのような発展に寄与していくかをいくつかの例をとおして議論する．光が，計算機技術や通信技術，情報記録技術など情報技術の発展にどのようにかかわってきたか，これからどのような発展に寄与していくかをいくつかの例をとおして議論する．最後に，光が我々の身の回りの生活の中で，どのように係わっているかを，これから，我々の生活をより良くするために関係してくるかを議論する． バイオサイエンス（生物学・生命科学）の発達により，社会生活が大きく変わってきました．しかし，その原理を理解していないと誤った報道に流され判断を誤る場合もあります．基本原理を正しく理解することで，正しい判断をすることができます．バイオサイエンス分野の技術が身の回りの生活の中で，どのように係わっているか，またこれから我々の生活をより良くするためにどのように関係してくるかを議論する． ＜オムニバス方式／全８回＞ (127　早崎芳夫／１回) 第１回：光と科学 (　(95)　湯上 登／１回) 第２回：光と産業 (125　杉原興浩／１回) 第３回：光と情報 (126　大谷幸利／１回) 第４回：光と生活 (148　西川尚志／１回) 第５回：遺伝子と生物 (　(96)　松田勝／１回) 第６回：発生学と再生医療 (158　黒倉　健／１回) 第７回：遺伝子組換え生物とは (168　岡本昌憲／１回) 第８回：遺伝子組換え生物と生活	オムニバス方式
			社会現象の数理	都市を分析するうえでの高度な分析手法およびデザイン理論，技術者倫理について学ぶ。 本科目では，地域における現在の社会問題を，統計や数理，地理情報システム（GIS）やRESAS等で読み解く,数理的解釈や数理的論理性を取得することを目的とする。講義では，現象の読み解き方，統計の扱い方，解析の手法等，基礎的な分析手法を学ぶとともに，それらが制度や法律等に実装されるまでの一連の流れを学ぶ。またそれらの各種手法を用い，各々が設定した社会現象について，数理的解釈の演習を行う。さらには，数理的解釈を行う上での倫理的教育も行う。	
			食品機能科学	健全な食品を提供するためには，食品が持つ様々な特性を理解することが不可欠となる。この講義では，食品の美味しさを構成する成分とその化学変化について解説する。また，乳化などの工学的なアプローチも食品の美味しさの重要な要素であることを学ぶ。さらに，発がんリスク低下や免疫系調節などの生体機能調節に関わる成分について理解を深める。 健全な食品を提供するためには，食品が持つ様々な特性を理解することが不可欠となる。この講義では，食品の美味しさを構成する成分とその化学変化について解説する。また，乳化などの工学的なアプローチも食品の美味しさの重要な要素であることを学ぶ。さらに，発がんリスク低下や免疫系調節などの生体機能調節に関わる成分について理解を深める。 ＜オムニバス方式／全８回＞ （132　橋本　啓／３回） 　第１回　アブラナ科野菜のフレーバーの化学　第２回　ユリ科野菜のフレーバーの化学 　第３回　食品の色の化学 （130　東　徳洋／３回） 　第４回　畜産食品の機能成分－乳 　第５回　畜産食品の機能成分－肉，卵　第６回　畜産食品の機能成分－乳化 （159　山田　潔／２回） 　第７回　食品成分が作用する免疫系と腸内微生物　第８回　食品成分による免疫系調節	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	学際的思考力	理系科目群	メカニカル・エンジニアリング	機械工学の基盤となる熱流体、マテリアル工学、マイクロ・ナノ工学、先端的なロボットやバイオメカニクス、航空宇宙分野、ヒューマン・ダイナミクス、オプトメカトロニクスなどの領域について概説する。 ＜オムニバス方式／全８回＞ ((98) 横田和隆／３回) 第１回：ガイダンス 第２回：組立計画の自動化 第７回：ロボティクス メカトロニクス (136　尾崎功一／１回) 第３回：ロボティクス 自律移動技術 農業ロボティクス ロボット技術応用 (138　嶋脇聡／１回) 第４回：光を用いた生体計測 バイオメカニクス数値解析 福祉工学 (133　高山善匡／１回) 第５回：環境負荷低減を目指した構造材料の組織制御と材料特性 摩擦攪拌接合 (135　長谷川裕晃／１回) 第６回：流体力学を基にした航空・宇宙、医療、スポーツ分野への応用 (137　吉田勝俊／１回) 第８回：マルチヒューマンダイナミクス 非線形力学 確率力学	オムニバス方式
			情報電気電子システム工学概論	文系の学生が情報電気電子技術の概要を学ぶための講義。基礎知識だけでなく、現在社会的に注目を集めているようなトピカルな当該分野の技術ついて、各分野を専門とする講師がオムニバス形式で解説する。 ＜オムニバス方式／全８回＞ ((99) 古神義則／２回) 第1回・第2回 ガイダンス・情報電気電子分野の注目技術１（通信分野） (139　川田重夫／２回) 第3回・第4回 情報電気電子分野の注目技術２（電磁エネルギー分野） (140　横田隆史／２回) 第5回・第6回 情報電気電子分野の注目技術３（計算機システム分野） (144　長谷川まどか／１回) 第7回 情報電気電子分野の注目技術４（画像符号化分野） (141　伊藤聡志／１回) 第8回 情報電気電子分野の注目技術５（医用画像処理分野）	オムニバス方式
			博物学史	生物学をはじめ、幅広い自然科学の分野が博物学から分化してきた。つまり、自然科学のそれぞれの分野は他の分野と呼応しながら、また、個々の時代の社会情勢や風潮に後押しされながら、発展してきたのである。本講義では、博物学の中の特に生物学について、その発展と広がりの歴史を見ていく。 ＜オムニバス方式／全８回＞ (160　栗原望／５回) 1.イントロダクション 2.紀元前～16世紀の西洋における博物学（博物学の黎明期、ルネサンス、大航海時代など） 3.17世紀～19世紀の西洋における博物学（分類学から進化論、遺伝学の時代へ） 4.17世紀までの日本の博物学（本草学の時代） 8.総合討論（栗原） (147　松本浩道／３回) 5.18世紀～19世紀の日本の博物学（西洋の医学と分類学の影響） 6.20世紀以降の西洋における博物学（博物学から生物学へ）　7.20世紀以降の日本における博物学（博物学から生物学へ）	オムニバス方式
			文系のためのデータサイエンス	文系の学生向けの統計学についてパソコンを使って講義を行う。 具体的には、ビッグデータとデータ処理の意義、統計学の基礎知識、調査論の基礎、データ集計、データの差の検定、データの関係性の構築、モデルの構築などの授業を計画している。実際のデータ解析の方法を身につけ、応用する能力を付けるとともに、さらに高度な分析能力の養成を目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	実践力	実践インターンシップ	机の前に座って教員の講義を受けたり自分で本を読んだりして勉強することは重要なことであるが，実際に企業，自治体の事業所あるいはNPO，教育機関，その他の団体など（以下「企業等」と略す）で実社会での実務あるいは実践活動（以下「実務等」と略す）を体験することも重要である。この授業では，実際に企業等において，経験豊富な実務者，特に建築設計の分野では一級建築士の指導を受け，建築士事務所における建築設計，工事監理の補助等の実務を体験するものである。 具体的には，事前指導において，大学院の専門領域や境界領域に関連したリスクマネジメント等を指導し，その後，実際に企業等において実務等の体験を行い，企業等への報告を兼ねたレポートを提出する。インターンシップ終了後には，事後指導として，提出されたレポートに基づいた発表会を実施し，学修効果の確認を行う。	共同
		実践フィールドワーク	学外で行う調査研究活動（原則としてグループで実施）をフィールドワークと位置づけ，その計画，実践，分析，結果（提言）の纏めに至る一連のスキームを体験学修します。調査研究対象の選定から，現地調査地・機関等の連絡調整，現地でのインタビュー・アンケート調査，観察等を分析して，得られた知見を広く社会に公表できる形式で纏めます。 具体的には，活動の方法と計画（フィールドワーク先の選定，フィールドワーク先の予備調査及び課題の整理と具体的な調査項目の洗い出しなど），実践活動（調査結果を随時まとめると同時に，レポートとして全体の調査結果・その分析結果・考察として調査方法等の改善案をまとめる。），実践報告会，レポート提出（プレゼンテーションを行い，討論をする。）などの授業を計画しています。	
		創成工学プロジェクト演習	原則，学生の専門の区別をせず，文理融合のメンバーにより，主に商品開発を目的としたプロジェクトチーム（3～5名）を結成し，実践的な視点から開発プロセスの計画を立案する。 プロジェクトの進捗状況にも依存するが，基本的には以下のスケジュールに従い講義を実施する。 ＜オムニバス方式／全１５回＞ （ (105) 渡邊　信一／５回） （第１回）オリエンテーション等 （第７～８回）中間発表（ワールドカフェ） （第１４～１５回）企画書修正・提出 （ (111) 原　紳／８回） （第２～６回）プロジェクトの企画書作成，試作・予備実験・モックアップの製作（第９～１１回）企画書の修正，報告会資料作成 （ (100) 長谷川　光司／２回） （第１２～１３回）報告会（企画書に沿った仮想上司・役員向けプレゼン）	オムニバス方式 共同
		International Political Economy	The course introduces students to some major topics in IPE, such as globalization, free trade, inequality, and the decline of US power. It does so by critically examining major theoretical approaches and concepts. （和訳） この科目では、グローバル化、自由貿易、不平等、アメリカの衰退などの国際政治経済における主要なトピックスを紹介する。主要な理論的アプローチと概念を批判的に検討することによって、授業を進める。	
		Global Management	This course provides students with the opportunities for critically reviewing and analyzing the on-going global challenges, beyond borders and across disciplines around the world. Through providing conceptual clarity and concrete case studies, students will be directed to understanding and drawing an overall picture of global issues. Students will also learn about some practical technics and tools for problem analysis, in order to analyze the global issues and seek the real global agenda. Globalization is a relatively new aspect, in association with economic activities, political interventions, social network and many more aspects beyond borders. Therefore, it is also critical to learn and explore about the new actors in the scene such as NGOs and Civil Society. The course will then finally explore the possible ways and alternatives of solution for global issues, examining the major key actors. （和訳） 本コースは、国境や分野を越えた様々な様々なグローバリゼーションの問題を分析・検証していく。概念を明確化したうえで事例を紹介し、学生が現在のグローバルな問題を理解できる道筋を提示する。加えて、問題分析手法を紹介し、また実際に授業内で試用することにより、グローバルな問題を自ら分析し解決の道筋を見出す力をつける。 グローバリゼーションは比較的近年になり脚光を浴び始めた。経済、政治、そして社会ネットワーク等様々な側面が国境を越えて複雑に絡み合っている。そのため、市民社会やNGOなど比較的新しい関係者の役割を理解することは重要である。 本コースでは、最終的にグローバリゼーションに関係する問題を理解し、また関係者を分析することにより、問題解決のための道筋を検証する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域創生リテラシー	実践力	Globalization and Society	In this course, we learn and discuss about what "globalization" is and what have been going on in this global society. This course introduces some basic ideas of "globalization" and "global issues" in local and global communities. Also, through some groupworks and workshops, some participatory learning skills of global education will be introduced so that we can understand those global issues and take actions for our common future. (和訳) 本講では、「グローバリゼーション」とは何か、このグローバル社会で何が起こっているのかを学び、議論するほか、地域社会やグローバル社会における「グローバリゼーション」と「地球的課題」の基本的なアイデアを紹介する。 また、いくつかのグループワークやワークショップを通じ、地球的規模の課題の理解や共通の未来に向けた行動を促すグローバル教育における参加型学習のスキルを紹介する予定である。	講義20時間 演習10時間
		国際インターンシップ	机の前に座って教員の講義を受けたり自分で本を読んだりして勉強することは重要なことであるが，実際に海外の企業やNPOや公的機関（以下「企業等」と略す）などで実社会での実務を体験することも重要である。この授業では，実際に海外の企業等に赴き，経験豊富な実務者等の指導のもとに実務の一端に触れるものである。なお，建築設計の分野では、一級建築士事務所相当の設計事務所等とし、指導者は、建築設計の実務経験が豊富な一級建築士相当の国ごとに定められた有資格者とする。	
		臨地研究	実地調査・研究を行うために必要な基礎的な知識と技能を習得する。 具体的には、調査の目的、方法（アンケート調査、インタビュー調査、統計的調査、参与観察）、調査計画の立案（テーマ、リサーチクエスションと調査の方法、調査対象者の選定と調査項目、質問文の作成方法）、実地調査、データ収集、分析、報告書の作成、報告会でのプレゼンテーション、などの一連のプロセスを、講義や実践をとおして体験する。	共同
境界・学際領域科目		地域社会デザイン学分析展開論：実践を問い，現場に還す	コミュニティデザイン学プログラムと農村・農業経済学プログラムが対象とする計２か所の現場に足を運び、それぞれの現場での実習を通じて、地域社会の現状と課題について理解を深めるとともに、現場の多様な実践を問い直し、現場に還して展開できる能力を養成する。 ＜オムニバス方式／全８回＞ （① 陣内雄次・③　梶原良成／４回）（共同） （第１回）ガイダンス　演習に関わる視点と手法の解説 （第２～４回）コミュニティデザイン学における課題と現場の実践についての演習 （⑫ 秋山　満・ (54) 神代英昭／４回）（共同） （第５～７回）農業・農村経済学における課題と現場の実践についての演習 （第８回）　総括　実践を問い，現場に還す	オムニバス方式 共同
		地域デザイン工学プロジェクト	総合的トレーニングの題材として建築プロジェクトを取り上げ，地域デザインのプロセスを学ぶ。建築設計の分野（建築士試験の実務経験とする場合）では、一級建築士の資格を有し、建築設計実務に精通した教員の下での実施を前提とした建築プロジェクトに従事する。 第１回 オリエンテーション （65 安森亮雄，64 古賀誉章，66 中野達也， 18 横尾昇剛，　(55) 藤本郷史）（共同） 第２～７回 企画書の作成、建築プロジェクトの実施、報告書の作成 （66　中野達也）　構造系課題 （65　安森亮雄）　意匠系課題 （64　古賀誉章）　計画系課題 （18　横尾昇剛）　環境系課題 （ (55) 藤本郷史）　材料系課題 第８回 発表会 （65 安森亮雄，64 古賀誉章，66 中野達也， 18 横尾昇剛，　(55) 藤本郷史）（共同）	共同
		地域デザイン工学インターンシップ	地域デザイン工学に関する企業等の協力の元，実習を通じて，総合的な実務経験を積むとともに倫理観を養成する。建築設計の分野（建築士試験の実務経験とする場合）では、建築士または建築設備士の指導を受け実務を体験するものである。 １．インターンシップオリエンテーションを４～７月に実施する（安森，古賀）。２．実施：建築系企業等でインターンシップを実施する。 ３．提出物：終了後、日誌、報告書、レポートを提出する。 ４．報告会：地域デザイン工学プログラム主催の報告会で報告し講評（安森，古賀）。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
境界・学際領域科目	Communication Skills for Engineers	各学生の修士論文研究をプロポーザル形式にまとめる。研究分野の近い学生がグループを形成し、途中経過をグループ内でピアレビューする。 ・プロポーザルの形式 ・パラグラフライティング ・技術英文を書く時の留意点 ・プロポーザル発表のスライド/ポスターの構成 ・発表原稿の作成 ・発表と質疑応答（公開で）	
	グローバル・エリアスタディーズ総合講義	本授業は、グローバル・エリアスタディーズプログラムでの学修に必要な共通知識を養成し、国際的な事象を普遍的な視座と地域の固有性への深い知識に基づいて理解・分析・対処する能力を獲得するため、グローバル・エリアスタディーズプログラムの二つの領域（「グローバル・スタディーズ」と「エリア・スタディーズ」）を架橋し、本プログラムの体系的知識を身につけることを目的とする。授業では、本プログラムで用いられる多様な分析手法を複合的に用いることで可能となった研究成果を、研究論文や学会発表等の具体的な事例に基づき、解説する。特に、本プログラムの基礎となる、普遍的な視座に基づく国際的な事象の把握方法、数理分析の活用方法、国際開発援助の具体的方法、地域の固有性を析出する手法について、実際の研究事例に基づいて学習する。 ＜オムニバス方式／８回＞ （⑰ 磯谷　玲／２回） 第１回　オリエンテーション 第２回　グローバル・イシューの解釈方法 （⑯ 重田康博／２回） 第３回　国際開発援助に対する学術研究の方法 第４回　国際開発援助の現実的対応 （⑲ 倪　永茂／２回） 第５回　数理分析の社会科学への適用 第６回　数理分析を用いたグローバル・イシュー研究の最前線 （ ㊿ 松尾昌樹／２回） 第７回　地域の固有性の析出方法 第８回　普遍的視座と地域の固有性を融合する	オムニバス方式
	共生社会論	近年、日本でも、定住する外国人の増加や2020オリンピック・パラリンピックを契機として多文化共生社会推進の機運が高まっている。多文化共生社会の前提として、子どもの権利条約や国連障害者権利条約にあるように、社会を構成するすべての人々の基本的な人権が守られ、様々な立場にある人々がともに安心して暮らせる社会を実現するための法制度の整備するだけでなく、当事者の声に耳を傾けることからともに生きる＝共生のナラティブ(物語)を構築していくことが必要である。このような問題意識から、本講義では共生社会の社会的、歴史的背景や法制度について理解したうえで、多様な分野に触れることにより、国内外における文化的・社会的多様性を理解し、共生社会、とくに様々な問題の当事者との共生の物語の探求を深める。	
	地域人間発達支援の実際と課題	地域の創造性と持続可能性を支えるのは人であり，その人を育てるのは地域の教育力である。しかしながら，地域力の低下，地域の人間関係の希薄化，少子高齢化により，多様な地域支援のあり方と人材育成の方法を模索していく必要がある。本プログラムは，地域支援に欠かせない人材を，人間の根源的な発達における諸課題をベースに，多様な教育的視点から育成することを目標にしている。本授業は，心理・教育学系，環境・身体・健康科学系，言語・表現系の３つの専門領域における学術的なトピックスをクロスオーバーさせながら，地域創造の諸課題と地域支援のあり方について理解を深めるための導入的講義・演習等を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
境界・学際領域科目			地域人間発達支援の実際と課題	＜オムニバス方式/全8回＞ （㊶　佐々木和也/２回） （第１回）イントロダクション 　授業設置の社会的背景に関する講義と授業の進め方等のガイダンス（第８回）全体討論 示された課題について受講者全体で討論をした上で今後の修学につなげる （　㊸　石川隆行/１回） （第２回）人間発達支援の実際と課題① 人間の心の発達と成長を理解し，その発達と成長を支援する技能を探求する （　㊹　熊田禎介/１回） （第３回）人間発達支援の実際と課題② 　子どもたち・青少年の発達・成長と地域との関係について，社会科における地域学習の成果と課題を通して考える。 （㊳　加藤謙一/１回） （第４回）環境と発達支援① 身体性コンピテンスの発達からみた体育・スポーツの役割 （　㊷　小原一馬/１回） （第５回）環境と発達支援② 　スクールカーストと地域の居場所について （㊴　小原伸一/１回） （第６回）表現と発達支援① 地域における音楽活動の支援とその課題について （㊵　松島さくら子/１回） （第７回）表現と発達支援② 県内外や国際的な美術の普及に関わる取り組みとその課題について	￥
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目	基盤科目	政策形成と協働	地域における政策の立案、決定、実施、評価といった一連のさまざまな政策形成（政策のライフサイクル）において、関連の諸アクターが織りなす協働のネットワーク形成に注目する。講義では政策研究をめぐる従来の理論研究を提示した上で、諸アクター間関係（組織間関係）に注目することの研究上の有用性について説明する。そして、たとえば地方大学を含む協働による政策形成の諸事例を紹介する。受講生には各自の今後の修士論文ないしは研究成果報告の作成において、関連の制度、法律、組織間関係など政策的諸要素を論文・報告の一部（節レベル）として盛り込ませるべく指導を行う。	講義　5時間 演習　10時間
			コミュニティ政策論	コミュニティ政策を、地域的まとまりにおける、コミュニティの持続可能性を目指した仕組づくりと捉える。そしてその仕組づくりは、もはや行政的な解決や、市場による解決は難しい。こうありたいと願う住民（当事者）を中心として、地域の中のさまざまな主体が結びつき協働によって解決していくことが基礎となる。 こうした基本的な考え方を持ちつつ、これまでのコミュニティ政策の歴史や制度を学び、現代的な課題とコミュニティ政策の関連について把握する。中でも2010年以降から増えつつある、地方都市や中山間地域における新たな地域運営組織に着目し、その組織生成、サービス資源開発・経営について、実践事例と最新の研究から学び、受講者なりの問題発見、解決の道筋を提示し、これからの地域ガバナンスのあり方を考察する。	講義　10時間 演習　5時間
			住環境・まちづくり論	本科目では，住居及びまちづくりに関する近年のトレンドと課題を明らかにしつつ，将来のあるべき方向性を検討する．具体的には，超高齢社会，少子化，ユニバーサルデザイン，景観，歴史的街並み保存，市民参画，エコロジーなどをテーマに，持続可能なコミュニティ形成の観点から住まいとまちづくりのあり方について考察する．基本は講義形式であるが，適宜，ワークショップにて受講生一人ひとりの理解と思考を深める．また，各テーマについてのレポート提出，発表，ディスカッションを行い，受講生一人ひとりの「問う力」「考え抜く力」「伝える力」を高める．	講義　10時間 演習　5時間
			自然共生デザイン論	自然と共生した持続可能な地域デザイン手法について、地域生態学を応用した実践的な方法を始め，地域課題の解決や地域の再生・活性化につなげるための諸方策を論じる。 具体的には、自然共生と地域生態学，自然共生デザインの方法，自然共生と地域デザイン，生物多様性保全と地域デザイン，野生鳥獣管理と地域デザイン，里山保全と地域デザイン，自然再生と地域デザイン，自然共生の実践，市民参加による自然共生デザイン，自然共生デザインの展望などの授業を計画している。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目	基盤科目	福祉経営論	福祉サービスを提供する非営利組織の運営管理に関する理論と実際について学ぶことを目的とする。具体的には、事例研究やフィールドワークを通して、社会福祉法人やNPO法人などの地域福祉活動やサービス提供の現状および課題を分析し、地域を基盤とした法人経営のあり方や実践方法について議論するなど、地域福祉やソーシャルワークの視点から福祉経営を学ぶ。	講義　10時間 演習　5時間
		社会システムデザイン科目	政策分析とガバナンス	公共政策はどのように形成され、なぜその政策が選択されるのだろうか、本講義では、政策選択の要因や既存の政策の課題について、ガバナンスの視点や制度論の視点を示したうえで、各事例について議論を通じて考察することを目的とする。 安全保障、環境、福祉の多様な政策に対して、そのプロセスに接近する多様なアプローチがある。また、政策分析には、内容の分析や決定過程の分析があるが、本講義は後者に軸足を置く。政府と国民の関係、国家と市場の関係、国家へ国際社会からの影響などを関する研究、様々なガバナンス論や新制度論、民主主義の理論に基づいて、政府の役割や国民・住民の役割の変化から、ガバナンスのあり方とそれによる公共政策のあり方を検討する。国民のニーズや国際情勢の変化により一層対応した形で公共政策が選択される民主的方法について検討する。	講義　10時間 演習　5時間
			まちをつくる経済評価の技法	公共プロジェクトの経済評価の手法について学習する。それを踏まえて、今後のまちづくりのために必要な事業を的確に選別、運用していくため、その経済評価の目的、意義を深慮し、適切な評価手法を検討するにはどうすればよいかを考える。具体的には，費用便益分析の基礎，費用対効果と採算性，便益計測の事例と主な技法，評価者の掌から零れる効果項目，プロジェクト評価の目的と意義，事例研究とディスカッションなどの授業を計画している。	講義　10時間 演習　5時間
			経済政策論	政府の活動に関わる公共経済学や財政政策や金融政策といったマクロ経済政策に関わる基礎的な概念を確認する。そのあと、国民経済、地域経済などに関わるトピックスについて現実の具体的経済事象を取り上げ、教師からの解説、受講者による発表そして全員での討論により、経済学的なものの見方と考え方を修得する。具体的には，地域社会での経済分野：市場経済と公共部門，政府の経済活動（日本の財政・戦後日本経済と財政運営），財政政策の効果（わが国の公的部門と予算制度），資産について，金融政策の効果，景気の現状と経済政策，経済政策の実際，マクロ経済政策のまとめなどの授業を計画している。	講義　10時間 演習　5時間
			福祉会話分析	本講義では、会話という一つの社会現象に着目することで社会秩序の解明を目指す、社会学の一つのアプローチである会話分析を用いて、福祉とその隣接領域がどのように考察可能かを学ぶことを目的とする。本講義を通じて、受講生は、順場交代・連鎖組織・修復組織・行為の構成・優先組織などに関する、基本的な概念を習得した上で、高齢者福祉、障害者福祉さらには隣接領域である医療コミュニケーションなどを対象とした会話分析の論文などを読み、その分析の実際と、知見について習得していく。なお適宜、実際の音声を用いて、受講生自らが分析を行う形で学びを深める。	講義　10時間 演習　5時間
			地域スポーツ行政論	生涯スポーツ社会の実現に向けて、国や地方（都道府県・市町村）が進めるスポーツ行政（政策）の制度・仕組みについて概説する。 具体的には、スポーツ行政の基礎知識、国のスポーツ振興計画等に関する基本的知識（スポーツ基本法等）、地方におけるスポーツ推進・振興計画等について、地方のスポーツ振興計画を事例としたグループ課題，などの授業を計画している。	講義　10時間 演習　5時間
			地域社会教育論	社会教育における基本的な「単位」としては「地域」がある。急速な社会変容のもと、これを取り巻く課題は多様化しており、その解決への道筋を模索するためには地域を構成する一人一人が課題に対して主体的に取り組むことが重要であると考えられる。しかし、そのためには地域の現状について認識し、地域における学習を支援しあうシステムが必要であるといえる。そこで本時では参加型学習のあり方や学校・家庭・地域の連携等、現代の社会教育における課題について考察していく。	講義　10時間 演習　5時間
			地域住民の意識・行動の調査法	地域住民の意識・行動についての現状および，何らかの介入による変化や効果を量的に把握・分析することはよくある。その際，社会調査とあわせ，心理調査の方法論についても専門的な知識の運用力をもつことが役に立つであろう。 本授業では，心理調査法の知識を踏まえた上で，地域研究における心理調査の実際について批判的検討を行う。そして，受講生自ら，自身の関心に応じて調査計画を立案する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目	地域資源マネジメント科目	生活文化デザイン論	日本の伝統的な生活文化は、永い歴史のなかに「型」として伝わるものが多い。現代社会においては、グローバル化の進展により画一化された近代的な生活が送られるようになった。また、そのような画一化は近年に始まったともいえるが、この時代に観ておくべきことは、日本の伝統の姿そのものであり、「温故知新」とでもいうべき今の創造のあり方である。授業では、「生活文化の設計と提案」という観点から、身近な文化を観る。	講義　5時間 演習　10時間
			地域活動の心理学	ヴィゴツキイ，ルリヤ，レオンチェフなどに代表される文化･歴史的心理学派は，活動とは対象的であるとした。人の欲求は対象と出会ってはじめて動機に転化し，人の活動を引き起こす。文化(地域）の中に既に人の振舞い方の在り様が刻印されているのである。つまり，活動を通して人々は，地域の文化を獲得し，創り変えつつ生活する。 本講義では，地域で行われている，母子支援活動や図書館での識字・生涯学習活動（読みあいボランティア養成講座）等を題材としながら，地域での人々の活動が，自分の手持ちの力を使って生きる人の生涯発達に如何に影響し，また，人は地域の新たな活動を生み出す必要を感じるのか。地域活動を通して共に生きあう人と人との関係の育ちを心理学的に紐解く。	講義　10時間 演習　5時間
			デザインと地域	地域社会に関わるソフトウェアをデザインするのがコミュニティデザインであるが，ハードウェアが無縁であるかというとそうではない。 実際のまちづくりにおいては、例えば、地域を魅力的に広報しようとするとき，地域ならではの素材を活かした商品を企画し販売しようとするとき、あるいは空き家を改修してコミュニティのための場をつくっていこうというときなど、ソフトウェアと緊密に連携した具体的なモノのカタチや場の空間を構想することで新たなコミュニティデザインの可能性が拡がるような局面が多々出てくる。 地域のためのモノや場につながる「こと」を糸口に、何をめざしてどのようにつくっていくのか，実際に地域に向かい合って課題を見つけ，それに応答するデザイン提案をするまでの実践的な演習を行う。	
			合奏による参加型デザイン	吹奏楽器（管楽器・打楽器群）構造とその奏法を理解し管打合奏の基本を習得し、演奏を通じて社会に対してどのように貢献していくか探求する。 また、合奏の仕組み、各楽器の役割を楽器学的、教育的視点より学ぶ。そして大学内の機関、企業や社会団体、教育団体等と連携し、参加型の合奏体を確立し、発表までの流れを学びながら、合奏内外のコミュニケーション能力を高め、長期にわたり継続させていく。さらには地域のニーズに応えるべく、音楽形態（ジャンル）と管打合奏との可能性を追求し、楽曲選択と楽曲研究に取り組み、発表に至るまでの企画力を身につけ、演奏研究と共に発展させながら、地域、社会に貢献できる人間を形成する。	講義　5時間 演習　10時間
			地域食生活論	私たちの食生活の営みは，住まう地域の歴史や文化，風土や環境等に影響を受けながら発展し，私たち自身の健康のみならず，地域全体の健康に繋がっている。本授業では，食生活と健康に関わる既存研究や既存資料をもとに食生活に影響を与える要因を探究し，食生活に関わる現代の課題を見出し，どのような施策展開が食生活の課題解決に有効であるか，提案し討議する。	講義　5時間 演習　10時間
			農業・農村の組織マネジメント	雇用を抱える農業経営や、複数の人が集まっての農村起業における、組織マネジメントを学修する。特にそこでのリーダーシップ、及びリーダー人材の育成に焦点を当てる。 文献を基本として実際の調査経験も取り入れた講義の上で、議論を行って学習を進めていく。 具体的には組織理論におけるリーダー論の位置づけ，かつての農村社会と，そこでのリーダー形成，農村社会における組織機能の変化，農村社会におけるリーダー形成の変容，農業経営のおける組織機能の問題，農村起業組織における組織問題，現代農村社会におけるリーダー形成の問題などの授業を計画している。	講義　10時間 演習　5時間
			観光地理学研究	日本および特定地域における農村観光の特徴を学習し，今後の農村観光による地域振興の可能性を議論する。 具体的には，日本における農村観光地域の分布，大都市近郊の農村観光，首都圏外縁部の農村観光，過疎地域の取り組み島嶼地域の取り組み，農村観光による地域振興に向けた議論などの授業を計画している。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目	コミュニティデザイン学特別演習	指導教員とのディスカッションを通じた，修士論文作成のためにコミュニティデザイン学分野（含む，農業・農村経済学，地域人間発達支援学）における，分析手法の確立と，適切な資料・データ収集方針の確定を目的とする演習科目。 研究計画の作成とその実施，修正必要箇所の確認と研究方針の更新を繰り返し，１年次後期の間に研究計画を確定させる。 研究に必要な分析手法や資料・データの探索方法を会得し，研究計画を立案・実施する能力を養う。この成果を確認するために，2年次の初めに「研究計画発表会」を実施する。 （①　陣内雄次） 住環境・まちづくりに関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （②　塚本　純） 経済政策に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （③　梶原良成） デザインと地域に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （④　中島　望） 生活文化デザインに関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑤　中村祐司） 政策形成と協働に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑥　原田　淳） 農業・農村の組織マネジメント関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑦　黒後　洋） 地域スポーツ行政に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑧　髙橋俊守） 自然共生デザインに関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑨　大森玲子） 地域食生活に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊷　石川由美子） 地域で実際に取り組まれている子育て，母子保健，生涯学習等の文献を活動・発達心理学的視点から検討し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊸　阪田和哉） プロジェクトの経済評価に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊹　石井大一朗） コミュニティ政策に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊺　髙島章悟） 合奏による参加型デザインに関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目	コミュニティデザイン学特別演習	（㊻　三田妃路佳） 公共政策や政治過程に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊼　若園雄志郎） 地域社会教育に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊽　中川　敦） 福祉会話分析に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊾　白石(菅村)智子） 地域住民の意識・行動に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (86) 呉　世雄） 福祉経営に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (87) 鈴木富之） 観光地理学に関する論文を検討し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑩ 安藤　益夫） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学の分野に係る地域農業論に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑪ 大栗　行昭） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農業・農村史に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑫ 秋山　満） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農政学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊱　小宮　秀明） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る生活習慣病予防および健康管理に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊲　赤塚　朋子） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る生活経営および消費者教育を中心に生活科学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊳　加藤　謙一） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る発育発達学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊶　佐々木　和也） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る生活環境学および衣生活を中心に生活科学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (51) 松村　啓子） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農村地理学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目	コミュニティデザイン学特別演習	（ (52) 加藤　弘二） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る環境資源経済学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (54) 神代　英昭） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係るフードシステム学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (82) 小原　一馬） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る社会学および遊びに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (83) 石川　隆行） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る発達心理学および子どもの社会性を中心に心理学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。具体的には、子どもの社会性について、地域・コミュニティから多文化間にわたる様々なレベルに関する知見と方法を融合し、問題解決に資する論文の作成に向けて指導する。 （ (84) 熊田　禎介） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る社会科教育学および歴史教育に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	
		コミュニティデザイン学特別研究	「コミュニティデザイン学特別研究」は，修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。コミュニティデザイン学プログラムを専攻する学生の研究テーマは，経済学，政治学，心理学，食生活学ほか広範囲に渡るため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては，まず研究テーマを決定し，研究内容を十分に把握した上で，到達目標に向けた種々の内容を，研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。またことの過程で，コミュニティデザイン学分野（含む，農業・農村経済学分野，地域人間発達支援学分野）における方法論の検討も行う．成果は随時とりまとめ，主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。２年次前期終了時には，プログラム担当教員の参加のもと，修士論文研究の達成状況の報告を行う。 （①　陣内雄次） 住環境・まちづくりに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （②　塚本　純） 経済政策に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （③　梶原良成） デザインと地域に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （④　中島　望） 生活文化デザインに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑤　中村祐司） 政策形成と協働に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑥　原田　淳） 農業・農村の組織マネジメントに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑦　黒後　洋） 地域スポーツ行政に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目	コミュニティデザイン学特別研究	（⑧　髙橋俊守） 自然共生デザインに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑨　大森玲子） 地域食生活に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊷　石川由美子） 地域で実際に行なわれいる取り組みをテーマに研究活動を遂行し，教員の指導の下で，人々がともに生きることで生じる活動の意味を心理学に探究し，その成果を学位論文にまとめる。 （㊸　阪田和哉） プロジェクトの経済評価に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊹　石井大一朗） コミュニティ政策に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊺　髙島章悟） 合奏による参加型デザインに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊻　三田妃路佳） 公共政策や政治過程に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊼　若園雄志郎） 地域社会教育に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊽　中川　敦） 福祉会話分析に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊾　白石(菅村)智子） 地域住民の意識・行動に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ 86 呉　世雄） 福祉経営に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ 87 鈴木富之） 観光地理学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑩　安藤　益夫） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る地域農業論に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （⑪　大栗　行昭） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農業・農村史に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （⑫　秋山　満） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農政学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊱　小宮　秀明） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る生活習慣病予防および健康管理に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目	コミュニティデザイン学特別研究	（㊲　赤塚　朋子） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る生活経営および消費生活を中心に生活科学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊳　加藤　謙一） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る発育発達学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊶　佐々木　和也） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る生活環境学および衣生活を中心に生活科学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 51　松村　啓子） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農村地理学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 52　加藤　弘二） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る環境資源経済学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 54　神代　英昭） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係るフードシステム学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 82　小原　一馬） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る社会学および遊びに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 83　石川　隆行） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る発達心理学および子どもの社会性を中心に心理学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。具体的には、子どもの社会性について、地域・コミュニティから多文化間にわたる様々なレベルに関する知見と方法を融合し、問題解決に資する論文の作成に向けて指導する。 （ 84　熊田　禎介） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る社会科教育学および歴史教育に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	
		コミュニティデザイン学実践プロジェクト	本科目は，修士論文を課さないコースワークを選択する学生が受講し，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を，コースの専門教員が掲げる特定課題に沿って実施するとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。コースワークを希望する学生は，入学時点で，主指導の教員が提示する特定課題に沿って，自らの２年間のプロジェクト計画を提示することが求められる。　プロジェクト計画の作成とその実施，修正必要箇所の確認と方針の更新を繰り返し，１年次前期の間にプロジェクト計画を確定させる。主に1年次後期～2年次前期にかけてプロジェクトを実施し，2年後期に実施したプロジェクトの成果についての検証を行う．プロジェクトの実施や成果の検証に必要な文献検討を通じて，成果に結びつくプロジェクトを立案・実施する能力を養う。 また、学生は，プロジェクトを通じて遂行された地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明の成果を，ワーキングペーパーとしてまとめ上げる。具体的には，当該実践的活動あるいは，学的解明を先行する研究成果や活動報告の中に位置づけた上で，その対象・方法・プロセスなどを説明した上で，分析・考察・報告などを詳述し，結論づける。以上の作業を担当教員の指導の下に実施する。 （① 陣内雄次） 住環境・まちづくりに関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目	コミュニティデザイン学実践プロジェクト	（② 塚本　純） 経済政策に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （③　梶原良成） デザインと地域に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。 さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （④　中島　望） 生活文化デザインに関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑤　中村祐司） 政策形成と協働に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑥　原田　淳） 農業・農村の組織マネジメントに関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。 さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑦　黒後　洋） 地域スポーツ行政に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑧　髙橋俊守） 自然共生デザインに関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑨　大森玲子） 地域食生活に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊷　石川由美子） 地域で実際に取り組まれている子育て，母子保健，生涯学習等に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊸　阪田和哉） プロジェクトの経済評価に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学プログラム	プログラム専門科目		コミュニティデザイン学実践プロジェクト	（㊹　石井大一朗） コミュニティ政策に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊺　髙島章悟） 合奏による参加型デザインに関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊻　三田妃路佳） 公共政策や政治過程に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊼　若園雄志郎） 地域社会教育に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊽　中川　敦） 福祉会話分析に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊾　白石(菅村)智子） 地域住民の意識・行動に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ 86 呉　世雄） 福祉経営に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ 87 鈴木富之） 観光地理学に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	
農業・農村経済学プログラム	プログラム専門科目	基盤科目	農業・農村経済学	農業･農村経済学を構成する専門領域の理論と問題構図を今日の食料･農業･農村問題に引きつけて講義する。農業･農村経済学を中心に関連する社会科学分野の現代的課題を整理して講義すると共に、修論作成のための基礎的視点と分野間の関連領域相互の関係構図の理解を高める。 ＜オムニバス方式／全8回＞ （⑫ 秋山満／４回） 第1回　農業問題の歴史的展開 第2回　国際化の進展と農政改革の現段階 第5回　農業構造の変貌と生産組織再編の課題 第6回　農業経営の変貌と企業的農業経営の課題 （ 52 加藤弘二／４回） 第3回　食料消費の変貌と食料問題の構図 第4回　フードシステムの変貌と食料産業組織の課題 第7回　農村社会の変貌と農村ソーシャルビジネスの課題 第8回　農村空間の変貌と環境･資源保全の課題	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
農業・農村経済学プログラム	プログラム専門科目	基盤科目	農政学	院生の修論テーマも参考にしながら、現下の日本の農政課題を具体的に検討する。その過程で修論に関係した分野の院生の発表の機会も作る予定。 具体的には、食料・農業・農村白書を素材に、農政の展開と制度の概要を検討する。 食料政策の動向として、自給率、食生活、国際化、国境調整措置等、食料生産、米政策改革の動向、経営展開、担い手の育成について。また、農村政策の動向として、農村地域政策、中山間地対策、農村活性化、農商工連携の動向など。また、修論テーマに関わる農政課題の検討を計画している。	
			農業生産組織論	わが国における農業生産組織化の歴史的展開をレビューするとともに、農業生産組織の管理運営及び展開条件について、農業経済学、農業経営学、さらに一般組織論の視点から考察する。 具体的には、農業生産組織の背景・概念を軸とした農業生産組織の諸類型と特徴農業生産組織に対する基本的理解、農業生産組織の歴史的展開として、集団栽培組織の展開、機械利用組織の展開、集団転作組織展開、集落営農の展開などの授業を計画している。	
			農業・農村史	現在のような日本の農村や農家が成立した近世（江戸時代）から近代（明治以降の戦前期）を経て現代（戦後からこんにち）までの農業・農村の通史を理解する。 具体的には、近世、明治維新・近代化開始期、明治後期・日本資本主義確立期、第一次大戦・大正デモクラシー期、第二次大戦期、戦後復興期、高度成長期、国際化時代の農業と農村などの授業を計画している。	
			農村社会学	日本の農村社会学には戦前からモノグラフ研究の伝統があり、農村の社会構造、生活組織、生活意識（村の精神）などに関する分析手法が蓄積されてきた。本講義では、教員が直接関与した中国と日本の農山村における調査事例をもとに、農山村に暮らす人びとがどのような生活意識をもって自らの地域を創りあげようとしているのかを、質的調査法の特徴の理解も含めて、解明していく。	
			アグリビジネス論	アグリビジネスの基礎知識を学び､ビジネススキルを修得しながら､アグリビジネス視点で農業経営を分析する。 具体的には、アグリビジネスとは何か、日本のアグリビジネス、欧米諸国のアグリビジネス、アグリビジネスの視点、アグリビジネスで解く農業のビジネスモデル、ソーシャルビジネスの視点、農業以外のビジネス、アグリビジネスの全体像などの授業を計画している。	
			農村地理学	農村地域そのものを取り上げ、地形図や空中写真の読図、統計の活用、GISによる地図作成、現地踏査を通じて自然的特性、社会経済的特性について学ぶ。実際のフィールドにおける地域資源の維持管理、住民の就業構造および通勤行動、都市農村交流事業などを、調査分析する力を習得することを目指す。 具体的には、農村研究の視座　－日欧の比較－、農村環境の地図化、村落社会の維持と世帯再生産メカニズム、中山間地域の営農と多面的機能 、鳥獣被害対策の実際、農村空間の商品化、巡検の実施計画、巡検の振り返り、などの授業を計画している。	
		応用科目	マーケティング論	応用的なレベルのマーケティングに関する理論・知識の習得を目指す。 具体的には、市場細分化、ブランドとは何か、ブランド戦略、地域ブランド、経済のサービス化とマーケティング、サービスと関係性、サービスの品質、サービスと利益などの授業を計画している。	
			ソーシャルビジネス論	経済的利益と社会的利益の両方が期待できるソーシャルビジネスを農村地域資源の持続的管理のための手法として講義する。理論的整理に加えて、具体的なデータを用いて事例分析も行う。具体的には、ソーシャルビジネスの定義、ソーシャルビジネスの理論、ソーシャルビジネスの事例分析、農村におけるソーシャルビジネスの役割などの授業を計画している。	
			統計分析論	統計学の講義とパソコンを使った統計解析の実践演習を行う。 具体的には、統計学の基礎知識、統計学の基礎知識、単回帰分析、多変量回帰分析、多変量回帰分析、時系列回帰分析、質的変数の分析、パネルデータの分析などの授業を計画している。特に、食料・農業・農村に関する様々なテーマに対して、適切な分析アプローチを深い理解とともに適用する能力の修得に関連する。	
			環境経済学	ミクロ経済学の理論をベースに、環境や地域資源の管理に関わる問題の現状や要因について理解を深めるとともに、環境保全や資源管理を実現する政策や制度変化のあり方を検討する。 具体的には、経済成長と環境・資源問題、外部性と環境政策、農業・農村の多面的機能と農業環境政策、自然資源の最適利用、コモンズの理論、農村におけるバイオマス資源の利用、農地管理に関する諸問題、貧困と環境・資源問題などの授業を計画している。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
農業・農村経済学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	フードシステム学	応用的なレベルでのフードシステム学に関する理論と知識の習得を目指す。 具体的には、フードシステムと主体間関係、食品産業の役割（外食産業、食品小売業、食品製造業）、食生活の変化と消費者の意識・行動、農業生産者の状況と取り組み　、グローバル化と国際フードシステムなどの授業を計画している。	
			農業・農村経済学特別演習	主指導教員と副指導教員は，農業・農村経済学の分野に関連する学生の研究テーマ・修士論文に即して，ディスカッションやリサーチワーク（先行論文考察，実験，データ解析，フィールド調査設計，など）等を行い，専門知識・技術の深化を図る。なお，境界領域・学際的領域の観点からコミュニティデザイン学分野・グローバルエリアスタディー分野に関するディスカッション等も含む。 （⑩　安藤益夫） 地域農業論に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑪　大栗行昭） 農業・農村史に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑫　秋山　満） 農政学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑬ 齋藤　潔） アグリビジネス学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊿　西山(鈴木)未真） 地域資源管理論に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (51) 松村啓子） 農村地理学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (52) 加藤弘二） 環境資源経済学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (53) 児玉剛史） 食料経済学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (54) 神代英昭） フードシステム学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (88) 閻　美芳） 農村社会学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （② 塚本　純） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る経済政策に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
農業・農村経済学プログラム	プログラム専門科目	農業・農村経済学特別演習	（⑤ 中村　祐司） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る政策形成と協働に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑥ 原田　淳） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る農業・農村の組織マネジメントに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （76　田村　孝浩） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る農村計画に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ ㊺ 阪本公美子） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係るアフリカの社会経済、開発、歴史・文化・生活に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ ㊻ 呉　世雄） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る福祉経営に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ ㊼ 鈴木　富之） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る観光地理学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	
		農業・農村経済学特別研究	「農業・農村経済学特別研究」は，修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。農業・農村経済学プログラムを専攻する学生の研究テーマは，食料分野，農業分野及び農村分野と広範囲に渡るため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては，まず研究テーマを決定し，研究内容を十分に把握した上で，到達目標に向けた種々の内容を，研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。なお，境界領域・学際的領域の観点からコメュニティデザイン学分野・グローバルエリアスタディ―分野に関するディスカッション等も含む。成果は随時とりまとめ，主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。２年次前期終了時には，プログラム担当教員の参加のもと，研究成果の模擬報告・発表を行う。 （⑩　安藤益夫） 地域農業論に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑪　大栗行昭） 農業・農村史に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑫　秋山　満） 農政学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑬　齋藤　潔） アグリビジネス学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊿　西山(鈴木)未真） 地域資源管理論に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ (51) 松村啓子） 農村地理学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ (52) 加藤弘二） 環境資源経済学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
農業・農村経済学プログラム	プログラム専門科目	農業・農村経済学特別研究	（ (53) 児玉剛史） 食料経済学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ (54) 神代英昭） フードシステム学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ (88) 閻　美芳） 農村社会学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （② 塚本　純） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る経済政策に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （⑤　中村　祐司） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る政策形成と協働に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （⑥　原田　淳） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る農業・農村の組織マネジメントに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （76　田村　孝浩） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る農村計画に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ (59) 阪本公美子） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係るアフリカの社会経済、開発、歴史・文化・生活に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ (86) 呉　世雄） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る福祉経営に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ (87) 鈴木　富之） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る観光地理学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	
		農業・農村経済学実践プロジェクト	本科目は，修士論文を課さないコースワークを選択する学生が受講し，研究者として必要な倫理観を養成するとともに，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を，コースの専門教員が掲げる特定課題に沿って実施する。コースワークを希望する学生は，入学時点で，主指導の教員が提示する特定課題に沿って，自らの２年間のプロジェクト計画を提示することが求められる。プロジェクト計画の作成とその実施，修正必要箇所の確認と方針の更新を繰り返し，１年次前期の間にプロジェクト計画を確定させる。主に1年次後期～2年次前期にかけてプロジェクトを実施し，2年後期に実施したプロジェクトの成果についての検証を行う．プロジェクトの実施や成果の検証に必要な文献検討を通じて，成果に結びつくプロジェクトを立案・実施する能力を養う。 また，プロジェクトを通じて遂行された地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明の成果を，ワーキングペーパーとしてまとめ上げる。具体的には，当該する実践的活動あるいは，実践地の解明をもとに、先行する研究成果や活動報告の中に位置づけた上で，その対象・方法・プロセスなどを説明した上で，分析・考察・報告などを詳述し，結論づける。以上の作業を担当教員の指導の下に実施する。 （⑩ 安藤益夫） 地域農業論に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
農業・農村経済学プログラム	プログラム専門科目	農業・農村経済学実践プロジェクト	（⑪ 大栗行昭） 農業・農村史に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑫ 秋山　満） 農政学に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。 さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑬ 齋藤　潔） アグリビジネス学に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊿　西山(鈴木)未真） 地域資源管理論に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ 51　松村　啓子） 農村地理学に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ 52　加藤　弘二） 環境資源経済学に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ 53　児玉　剛史） 食料経済学に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ 54　神代　英昭） フードシステム学に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ 88　閻　美芳） 農村社会学に関する特定課題に沿って，地域の課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を、具体的なプロジェクトとして実際に展開するための，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築学プログラム	プログラム専門科目	建築構造学特論Ａ	弾性設計および塑性設計の計算手法，構造設計手法について講義し，建物を想定した骨組モデルを用いて実際に応力解析や保有耐力の設計を行う。塑性設計特有の考え方を身に付け，構造設計手法を学ぶ。また，構造設計における安全性の考え方を理解すること，鋼構造建築物を対象として，実務における構造設計ルートおよび流れを理解すること，弾性設計および塑性設計の計算手法を体得することを目的とする。	
		建築構造学特論Ｂ	弾性設計および塑性設計の計算手法，構造設計手法について講義し，建物を想定した骨組モデルを用いて実際に応力解析や保有耐力の設計を行う。塑性設計特有の考え方を身に付け，構造設計手法を学ぶ。また，構造設計における安全性の考え方を理解すること，鋼構造建築物を対象として，実務における構造設計ルートおよび流れを理解すること，弾性設計および塑性設計の計算手法を体得することを目的とする。各自がそれぞれ自由に鋼構造建築物を設計し，これを対象に構造検討を行う。	
		建築耐震設計特論Ａ	建築物の耐震設計に関わる構造技術を学ぶ．「鉄骨構造」，「鉄筋コンクリート構造」，「木質構造」など，従来の主要な構造形式による建築物を取り上げ，種々の構造技術とその設計・施工法を理解，耐震設計の実践的リテラシーを身につけること，情報の取捨選択を的確に行い，整理した情報に対する考察をまとめ，効果的にプレゼンテーションする手法を身につけることを目標とする。	
		建築耐震設計特論Ｂ	建築耐震設計特論Ａに引き続き，建築物の耐震設計に関わる構造技術を学ぶ．超高層建築物で発展してきた「制振構造」，「免震構造」など，近年の最新の技術を広く取り上げ，種々の構造技術とその設計・施工法を理解，耐震設計の実践的リテラシーを身につけること，情報の取捨選択を的確に行い，整理した情報に対する考察をまとめ，効果的にプレゼンテーションする手法を身につけることを目標とする．	
		建築構造解析特論Ａ	鋼構造建築物の骨組を対象として，有限要素法解析に関わる基本理論と応用手法を学び，弾塑性増分解析に関わる基本理論を学ぶ。 具体的には，有限要素解析の基本理論（材料力学と有限要素法・トラス要素・ソリッド要素），有限要素解析の実践（入力条件・出力の検証と分析），弾塑性増分解析の基本理論（マトリックス変位法・トラス材の剛性行列・部材の剛性行列）などの授業を計画している。	
		建築構造解析特論Ｂ	建築構造解析特論Ａに引き続き，鋼構造建築物の骨組を対象として，弾塑性増分解析に関わる応用手法を学び，時刻歴応答解析に関わる基本理論と応用手法を学ぶ。具体的には，弾塑性増分解析の実践（荷重増分法・変位増分法），時刻歴応答解析の基本理論（運動方程式・運動方程式の数値積分・エネルギーの釣合），時刻歴応答解析の実践（骨組設計と入力・出力の検証と分析），鋼構造骨組の構造解析と設計などの授業を計画している。	
		建築構造材料特論Ａ	主要建築構造材料であるコンクリート、鋼材等を対象に、品質基準、製造・施工方法等を習得する。特に、実際の設計・工事監理の現場を念頭に置き、基本的な事項から技術者倫理まで広く学習する。 具体的には，生コンクリートの規格，高強度コンクリート・高流動コンクリート，かぶり厚さの確保および検査，コンクリートのリサイクル，鉄筋の規格，鉄筋の接合方法，製鉄と金属のリサイクルなどの授業を計画している。	
		建築構造材料特論Ｂ	主要建築構造材料であるコンクリート、鋼材等に関連した最新の技術、近年のトピックス、関連法規等を習得する。特に、実務に必要な最新の話題を深く学習する。 具体的には，工業副産物の有効利用，長期間劣化が進行した建築構造材料，自然災害を受けた建築構造材料，日本建築学会建築工事標準仕様書・同解説，住宅の品質確保の促進等に関する法律，住宅瑕疵担保履行法，コンクリートや鋼材に関連した国際規格などの授業を計画している。	
		木造建築特論Ａ	木造建築の基礎として以下の事項について習得する． ①木造建築の歴史． ②木造建築物に使用する材料の特性と規格． ③木造建築物の各種構法のうち軸組構法と枠組壁工法． ④木造建築物に固有の簡易構造設計法． 実際の設計と施工を念頭に置き，基本的な事項から技術者倫理，最新の話題について学習する．	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築学プログラム	プログラム専門科目	木造建築特論Ｂ	木造建築に関する幅広い知識を身に付けることを目標として，以下の各項目についての講義を行う． ①木質パネル構法と丸太組構法 ②大規模木造建築に使われる構法とその設計法 ③木造建築物の耐久設計 ④木造建築物の防耐火設計 ⑤木造建築の地域振興と地球温暖化に対する役割 実際の設計と施工を念頭に置き，基本的な事項から技術者倫理について学習する．また、木造建築を取り巻く近年の状況に対する理解を深める．	
		既存建築物分析学特論Ａ	維持保全・解体・情報管理などの既存建築物を対象としたトピックをとりあげ，基本的な事項から最新の動向までを広く学修する。 既存建築物の維持保全をおこなうための，建築物の物理的な劣化現象，既存建築物を構成する資源のフロー・ストック，既存建築物を適切に保全するための情報管理の在り方，既存建築物を更新するにあたっての環境配慮，既存建築物が寿命を迎えた時の解体などを取り扱う． 具体的には、調査分析方法の概説、建築材料の資源採取・設計選定、建築物の維持・劣化現象およびその対策などの授業を計画している。	
		既存建築物分析学特論Ｂ	維持保全・解体・情報管理などの既存建築物を対象としたトピックをとりあげ，基本的な事項から最新の動向までを広く学修する。 既存建築物の維持保全をおこなうための，建築物の物理的な劣化現象，既存建築物を構成する資源のフロー・ストック，既存建築物を適切に保全するための情報管理の在り方，既存建築物を更新するにあたっての環境配慮，既存建築物が寿命を迎えた時の解体などを取り扱う． 具体的には、数理的手法の解説と演習、手法の適用事例などの授業を計画している．	
		エコロジカル建築特論Ａ	環境に適合した建築のあり方を把握するため、主として建築物及び建築設備システムの環境性能に着目し、講義を行う。また、建築設計の実務における環境・設備面の設計プロセスを理解するための基礎的な情報を提示するとともに技術者倫理についてもふれる。 具体的には，エコシステム，エコロジカルフットプリント，サステナビリティと建築都市，土地利用・気候風土，パッシブデザイン，設計実務と環境配慮設計，環境建築と技術者倫理などの授業を計画している。	
		エコロジカル建築特論Ｂ	環境に適合した建築のあり方を把握するため、主として建築物及び建築設備システムの環境性能に着目し、講義を行う。また、建築設計の実務における環境・設備面の設計プロセスを理解するための基礎的な情報を提示するとともに技術者倫理についてもふれる。地区・都市レベルの内容についてもふれる。 具体的には，資源材料消費，水消費，エネルギー消費とCO排出，ライフサイクル評価，環境配慮型地域再創生，設計実務での総合的な環境性能評価，建築都市における環境配慮と技術者倫理などの授業を計画している。	
		環境設備特論Ａ	建築環境・エネルギーに関わる最近の技術のうち、建築の性能に関する技術を中心に学ぶ。これは、インターンシップを利用し、建築・設備システムの設計施工実務研修を行う際に必要な知識である。授業で扱うテーマは、大きく人、建築の環境性能、都市気候・地球環境、建築環境評価法などに分類され、それぞれについて設計の視点から技術を学ぶ。また、技術者倫理についても学ぶ。	
		環境設備特論Ｂ	建築環境・エネルギーに関わる最近の技術のうち、設備システムや建築・設備の融合システムに関する技術を中心に学ぶ。これは、インターンシップを利用し、建築・設備システムの設計施工実務研修を行う際に必要な知識である。授業で扱うテーマは、大きくエネルギー有効利用と設備システム、室内環境デザインと空調システム、建築・設備の融合システムと環境・エネルギーの総合性能などに分類され、それぞれについて設計の視点から技術を学ぶ。また、技術者倫理についても学ぶ。	
		建築設計特論Ａ	維持保全・解体・情報管理などの既存建築物を対象としたトピックをとりあげ，基本的な事項から最新の動向までを広く学修する。 既存建築物の維持保全をおこなうための，建築物の物理的な劣化現象，既存建築物を構成する資源のフロー・ストック，既存建築物を適切に保全するための情報管理の在り方，既存建築物を更新するにあたっての環境配慮，既存建築物が寿命を迎えた時の解体などを取り扱う． 具体的には、調査分析方法の概説、建築材料の資源採取・設計選定、建築物の維持・劣化現象およびその対策などの授業を計画している。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築学プログラム	プログラム専門科目	建築設計特論Ｂ	建築設計者が実践している設計手法およびその背景となる設計理論について、主に20世紀以降の近現代の建築家を中心に講ずる。日本および海外の建築作品や、設計論、都市論を対象として、その時代や地域における社会的・技術的背景を含めて論じ、あわせて専門用語について解説する。 具体的には，日本の近現代建築における設計手法と設計論，海外の近現代建築における設計手法と設計論，日本の都市における設計手法と設計論，海外の都市における設計手法と設計論などの授業を計画している。	
		建築計画特論Ａ	大学で学んだ技術や知識がどのように実物の建物等の計画・設計に役立っていくのか、また机上と現実の違いは何か、実際の計画・設計事例を例に取りながら解説します。 本講義では、主に高齢者施設・学校施設を中心に事例をとりあげます。 具体的には、高齢者福祉施設、福祉複合施設、高校・大学、中学校、小学校など、特定のビルディングタイプまたは要素技術を取り上げます。計画的な知見やトレンドとともに、実物件での実務作業の経緯や経験する出来事を語っていきます。	
		建築計画特論Ｂ	大学で学んだ技術や知識がどのように実物の建物等の計画・設計に役立っていくのか、また机上と現実の違いは何か、実際の計画・設計事例を例に取りながら解説します。 本講義では、主に住宅・交通施設・建築設備等を中心に事例をとりあげます。 具体的には、外構・庭，高齢者居住施設、新築住宅、住宅改修、駅設備、照明設備、排水・温熱設備など、毎回、特定のビルディングタイプまたは要素技術を取り上げます。計画的な知見やトレンドとともに、実物件での実務作業の経緯や経験する出来事を語っていきます。	
		都市解析特論Ａ	都市を分析するうえでの高度な分析手法およびデザイン理論，技術者倫理について学ぶ。 本科目では，取り上げる都市問題に対し講義を行った後，各々が問題解決策を検討し，都市解析手法を用いたレポートをプロポーザル形式でまとめる。受講者全員のレポートを受講者が評価し，優秀提案を選定する（AL50）。また優秀提案に対し講評を行う．取り上げる都市問題は１つ程度で各年で異なる（以下では例を示す）。また都市解析に関する技術者倫理，研究者倫理についても講義する。	
		都市解析特論Ｂ	都市を分析するうえでの高度な分析手法およびデザイン理論，技術者倫理について学ぶ。 本科目では，都市解析特論Ａに引き続き，取り上げる都市問題に対し講義を行った後，各々が問題解決策を検討し，都市解析手法を用いたレポートをプロポーザル形式でまとめる。受講者全員のレポートを受講者が評価し，優秀提案を選定する（AL50）。また優秀提案に対し講評を行う．取り上げる都市問題は１つ程度で各年で異なる（以下では例を示す）。また都市解析に関する技術者倫理，研究者倫理についても講義する。	
		建築インターンシップⅠ	【学内】 一級建築士の資格を有し、建築設計実務に精通した学内教員の下での実施を前提とした建築プロジェクトについて、一定期間建築設計の設計補助（学内インターンシップ）に従事する。 【学外】 建築設計事務所や建設会社など（以下「建築系企業等」と略す）で建築設計（意匠設計、構造設計、設備設計）ならびに工事監理に関する実務を体験する。建築士または建築設備士が指導を行う。実施期間は１週間程度（おおむね３０時間以上）を標準とする。	共同
		建築インターンシップⅡ	【学内】 一級建築士の資格を有し、建築設計実務に精通した学内教員の下での実施を前提とした建築プロジェクトについて、一定期間建築設計の設計補助（学内インターンシップ）に従事する。 【学外】 建築設計事務所や建設会社など（以下「建築系企業等」と略す）で建築設計（意匠設計、構造設計、設備設計）ならびに工事監理に関する実務を体験する。建築士または建築設備士が指導を行う。実施期間は２週間程度（おおむね６０時間以上）を標準とする。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築学プログラム	プログラム専門科目	建築インターンシップⅢ	【学内】 一級建築士の資格を有し、建築設計実務に精通した学内教員の下での実施を前提とした建築プロジェクトについて、一定期間建築設計の設計補助（学内インターンシップ）に従事する。 【学外】 建築設計事務所や建設会社など（以下「建築系企業等」と略す）で建築設計（意匠設計、構造設計、設備設計）ならびに工事監理に関する実務を体験する。建築士または建築設備士が指導を行う。実施期間は３週間程度（おおむね９０時間以上）を標準とする。	共同
		建築インターンシップⅣ	【学内】 一級建築士の資格を有し、建築設計実務に精通した学内教員の下での実施を前提とした建築プロジェクトについて、一定期間建築設計の設計補助（学内インターンシップ）に従事する。 【学外】 建築設計事務所や建設会社など（以下「建築系企業等」と略す）で建築設計（意匠設計、構造設計、設備設計）ならびに工事監理に関する実務を体験する。建築士または建築設備士が指導を行う。実施期間は２週間程度（おおむね６０時間以上）を標準とする。 本講義は、「建築インターンシップⅡ」を既に履修した学生が、別の課題のインターンシップに取組む際に、履修する科目である。	共同
		建築インターンシップⅤ	【学内】 一級建築士の資格を有し、建築設計実務に精通した学内教員の下での実施を前提とした建築プロジェクトについて、一定期間建築設計の設計補助（学内インターンシップ）に従事する。 【学外】 建築設計事務所や建設会社など（以下「建築系企業等」と略す）で建築設計（意匠設計、構造設計、設備設計）ならびに工事監理に関する実務を体験する。建築士または建築設備士が指導を行う。実施期間は２週間程度（おおむね６０時間以上）を標準とする。 本講義は、「建築インターンシップⅡ」および「建築インターンシップⅣ」を既に履修した学生が、さらに別の課題のインターンシップに取り組む際に、履修する科目である。	共同
		建築インターンシップⅥ	【学内】 一級建築士の資格を有し、建築設計実務に精通した学内教員の下での実施を前提とした建築プロジェクトについて、一定期間建築設計の設計補助（学内インターンシップ）に従事する。 【学外】 建築設計事務所や建設会社など（以下「建築系企業等」と略す）で建築設計（意匠設計、構造設計、設備設計）ならびに工事監理に関する実務を体験する。建築士または建築設備士が指導を行う。実施期間は２週間程度（おおむね６０時間以上）を標準とする。 本講義は、「建築インターンシップⅡ」・「建築インターンシップⅣ」および「建築インターンシップⅤ」を既に履修した学生が、さらに別の課題のインターンシップに取り組む際に、履修する科目である。	共同
		建築設計演習Ⅰ	具体的・実践的な建築設計課題について、定められた日程に従い、計画・設計案のとりまとめと図面表現、および発表を行います。 具体的には、建築計画・設計プロジェクトまたは建築設計競技（アイデアコンペではなく実務的な提案を行うもの）へ参加し（グループも可）、教員の指導のもとに規定の設計図書を作成するとともに、学内での発表・展示を行います。	共同
		建築設計演習Ⅱ	本講義は、「建築設計演習Ⅰ」を既に履修した学生が、さらに別の課題の演習に取り組む際に、履修する科目である。 具体的・実践的な建築設計課題について、定められた日程に従い、計画・設計案のとりまとめと図面表現、および発表を行います。 具体的には、建築計画・設計プロジェクトまたは建築設計競技（アイデアコンペではなく実務的な提案を行うもの）へ参加し（グループも可）、教員の指導のもとに規定の設計図書を作成するとともに、学内での発表・展示を行います。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築学プログラム	プログラム専門科目	建築学特別演習Ｉ	リサーチワークや教員や学生とのディスカッションを通して，専門知識・技術の深化を図る。これには，境界領域・学際領域の観点から地域デザイン工学分野等に関する内容も含む。主な内容は，次のとおりである。 ●建築学に関する古典的な研究を含めた既往研究をサーベイして，高度な専門的知識を体系的に理解する。 ●建築学に関する新技術の創造あるいは地域課題の解決のために，具体的な課題について演習を行う。 ●演習内容について段階的に成果を発表し，教員や学生とのディスカッションを通して，より高い視点で深く掘り下げた内容として取り纏める。 （14　郡　公子） 建築環境・設備に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （15　中島史郎） 木造建築の工法・構造・材料に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （16　増田浩志） 建築構造に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （17　杉山　央） 建築材料、生産および施工に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （18　横尾昇剛） 建築環境・都市環境に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （64　古賀誉章） 建築計画および環境デザイン等に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （65　安森亮雄） 建築意匠・建築設計・都市デザインに関する事例や文献を調査し課題発見や解決手法について学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （66　中野達也） 建築構造，鋼構造，耐震工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （67　佐藤栄治） 建築計画および都市計画等に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 55 藤本郷史） 建築材料・構工法に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （115　糸井川高穂） 建築室内環境および建築エネルギー消費に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （116　大嶽陽徳） 建築意匠、建築設計、およびそれらの理論に関する事例や文献を調査し課題発見や解決手法について学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築学プログラム	プログラム専門科目	建築学特別演習Ⅰ	（③ 梶原　良成） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係るデザインと地域に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （20　藤原　浩巳） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係るコンクリート工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （22　大森　宣暁） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る都市計画，交通計画に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊹　石井　大一朗） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係るコミュニティ政策に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （70　丸岡　正知） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る建設材料学・エコマテリアルに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （71　藤倉　修一） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る構造工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （72　近藤　伸也） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る防災マネジメントに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （120　NGUYEN MINH HAI） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る構造工学・地震工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	
		建築学特別演習Ⅱ	「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，リサーチワークや教員や学生とのディスカッションを通して，専門知識・技術の深化を図る。これには，境界領域・学際領域の観点から地域デザイン工学分野等に関する内容も含む。主な内容は，次のとおりである。 ●建築学に関する古典的な研究を含めた既往研究をサーベイして，高度な専門的知識を体系的に理解する。 ●建築学に関する新技術の創造あるいは地域課題の解決のために，具体的な課題について演習を行う。 ●演習内容について段階的に成果を発表し，教員や学生とのディスカッションを通して，より高い視点で深く掘り下げた内容として取り纏める。 （14　郡　公子） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築環境・設備に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （15　中島史郎） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，木造建築の工法・構造・材料に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築学プログラム	プログラム専門科目	建築学特別演習Ⅱ	（16　増田浩志） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築構造に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （17　杉山　央） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築材料、生産および施工に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （18　横尾昇剛） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築環境・都市環境に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （64　古賀誉章） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築計画および環境デザイン等に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （65　安森亮雄） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築意匠・建築設計・都市デザインに関する事例や文献を調査し課題発見や解決手法について学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （66　中野達也） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築構造，鋼構造，耐震工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （67　佐藤栄治） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築計画および都市計画等に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 55 藤本郷史） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築材料・構工法に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （115　糸井川高穂） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築室内環境および建築エネルギー消費に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （116　大嶽陽徳） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，建築意匠、建築設計、およびそれらの理論に関する事例や文献を調査し課題発見や解決手法について学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （③ 梶原　良成） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係るデザインと地域に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （20　藤原　浩巳） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，境界領域・学際領域の土木工学分野に係るコンクリート工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （22　大森　宣暁） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，境界領域・学際領域の土木工学分野に係る都市計画，交通計画に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築学プログラム	プログラム専門科目	建築学特別演習Ⅱ	（㊹　石井　大一朗） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として、境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係るコミュニティ政策に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （70　丸岡　正知） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，境界領域・学際領域の土木工学分野に係る建設材料学・エコマテリアルに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （71　藤倉　修一） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，境界領域・学際領域の土木工学分野に係る構造工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （72　近藤　伸也） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，境界領域・学際領域の土木工学分野に係る防災マネジメントに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （120　NGUYEN MINH HAI） 「建築学特別演習Ⅰ」で修得した内容を基礎として，境界領域・学際領域の土木工学分野に係る構造工学・地震工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	
		建築学特別研究	「建築学特別研究」は，修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。建築学プログラムを専攻する学生の研究テーマは，構造分野，計画分野，環境分野，材料分野と広範囲に渡るため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては，まず研究テーマを決定し，研究内容を十分に把握した上で，到達目標に向けた種々の内容を，研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。成果は随時とりまとめ，主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。これには，境界領域・学際領域の観点から地域デザイン工学分野等に関する内容も含むものとする。２年次前期終了時には，プログラム担当教員の参加のもと，修士論文研究の達成状況の報告を行う。建築設計分野（建築士試験における実務経験２年を取得する場合）においては，修士論文の執筆の前段階において、建築物の設計または監理に関する調査・実験等を含む。 （14　郡　公子） 建築環境・設備に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （15　中島　史郎） 木造建築に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （16　増田浩志） 建築構造に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （17　杉山　央） 建築材料、生産および施工に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （18　横尾昇剛） 建築環境・都市環境に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （64　古賀誉章） 建築計画および環境デザイン等に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （65　安森亮雄） 建築意匠・建築設計・都市デザインに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （66　中野達也） 建築構造，鋼構造，耐震工学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （67　佐藤栄治） 建築計画および都市計画等に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築学プログラム	プログラム専門科目	建築学特別研究	（ ㊺ 藤本郷史） 建築材料・構工法に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （115　糸井川高穂） 建築室内環境および建築エネルギー消費に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （116　大嶽陽徳） 建築意匠、建築設計、およびそれらの理論に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （③ 梶原　良成） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係るデザインと地域に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （20　藤原　浩巳） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係るコンクリート工学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （22　大森　宣暁） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る都市計画，交通計画に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊹　石井　大一朗） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係るコミュニティ政策に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （70　丸岡　正知） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る建設材料学・エコマテリアルに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （71　藤倉　修一） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る構造工学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （72　近藤　伸也） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る防災マネジメントに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （120　NGUYEN MINH HAI） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る構造工学・地震工学にに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	
		建築学特別設計	「建築学特別設計」は，修士設計の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。建築学プログラムを専攻する学生の修士設計テーマは，広範囲に渡るため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士設計の作成にあたっては，まず設計テーマを決定し，設計内容を十分に把握した上で，到達目標に向けた種々の内容を，設計の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。成果は随時とりまとめ，主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。これには，境界領域・学際領域の観点から地域デザイン工学分野等に関する内容も含むものとする。２年次前期終了時には，プログラム担当教員の参加のもと，修士設計の達成状況の報告を行う。 （64　古賀誉章） 建築計画および環境デザイン等に関する計画・設計活動を遂行し，教員の指導のもとで成果を設計提案としてまとめる。 （65　安森亮雄） 建築意匠・建築設計・都市デザインに関する研究・設計活動を遂行し，教員の指導のもとで設計提案としてまとめる。 （67　佐藤栄治） 建築計画および都市計画等に関する計画・設計活動を遂行し，教員の指導のもとで成果を設計提案としてまとめる。 （116　大嶽陽徳） 建築意匠、建築設計、およびそれらの理論に関する研究・設計活動を遂行し，教員の指導のもとで設計提案としてまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
土木工学プログラム	プログラム専門科目	橋梁工学特論	橋梁には種々の形式があり，その外観からも注目を浴びる社会基盤構造物のひとつである。本講義では，おもに鋼橋や鋼コンクリート複合橋を対象として，種々の橋梁形式の外観的特徴に加えて，その構造的・力学的特徴を中心に学習する。 具体的には，各種橋梁形式，橋梁の作用荷重，橋梁の設計概念，桁橋の特徴・設計，合成桁橋の特徴・設計，トラス橋の特徴・設計，アーチ橋の特徴・設計，吊橋，斜張橋，橋梁の施工，維持管理などの授業を計画している。	
		耐震工学特論	わが国では，社会基盤構造物を設計するに際して，地震の影響を無視することはできない。したがって，構造物を設計する場合には，地震に対する構造物の挙動を知る必要がある。本講義では，地震に対する構造物の動的挙動を把握するための，振動に関する基礎理論や地震のメカニズムおよび地震に対する構造物の設計法を学習する。 具体的には，耐震工学概論，自由振動，強制振動，モード解析法，ラグランジュの運動方程式，弾性体の振動，はりの曲げ振動，数値計算法，橋梁の耐震設計などの授業を計画している。	
		岩盤力学特論	地盤を構成する岩盤を岩石，不連続面との関連について扱う手順を説明し，工学的に扱い，構造物の建設や防災などとの関連について，講義を通して習得します。具体的には，ロックメカニクスとその応用，地質調査との関連，岩石の力学特性,岩盤の力学特性と評価，ロックメカニクスのための力学基礎，岩盤不連続面の評価と不連続性岩盤の力学，岩盤の水理特性，岩盤構物の設計論などの授業を計画している。	
		地盤力学特論	地盤工学は建設工学や防災工学の分野で重要な学問である。本授業では、地盤を構成する土の種類と工学的性質、その力学挙動および水との相互作用について、最新の話題や実務に関連した内容について講義と演習を通して学ぶ。また講義で紹介した地盤工学の内容と各受講者の専門分野・研究テーマと関連付けたテーマについて調査し、プレゼンテーションを行う。	
		土木材料学特論	現在の社会基盤を構成する建設材料に関する実戦的な知識の修得と現場応用力の育成目指すと共に、最新の技術および研究動向を紹介する。 具体的には，セメント技術の最先端（セメント製造・セメント特性），骨材技術の最先端（骨材特性・各種骨材），化学混和材技術の最先端（作用機構・各種混和剤），無機混和剤技術の最先端（作用機構、各種無機混和材）などの授業を計画している。	
		エコマテリアル工学特論	社会基盤整備を主目的とする建設事業においても多種多様な材料が用いられるが，その種類および量は膨大なものとなる．今後，持続可能な社会の形成に対し，ライフサイクルコストの低減を前提とし，各種産業から排出される産業副産物や社会活動による廃棄物を有効活用するためのリサイクル技術の活用，環境調和型の建設材料の積極的な利用が求められる． 本講義では，種々の材料について，様々な手法により環境に配慮し，使用されている現状について解説する．また，社会基盤構築と材料選定に関するディスカッションを行い，問題解決に対して考慮が必要な点について検討する．	
		河川工学特論	河川を工学的に扱うに必要な流体力学および土砂水理学について講義し，その解析手法について実践的に学ぶ。具体的には，１次元流れの方程式とその解法，２・３次元流れとその解析ソフトウェア，乱流現象，土砂輸送形態とそのモデル化，河床形態と河川地形などを扱い，河川における流体力学および土砂運動の基本的事項を理解し，それを具体的に計算する手法を身につけることを目標とする。	
		海岸工学特論	波に関する理論，解析法や海岸における災害や防災・減災について最新の事例を取り入れながら講義を行う。 具体的には，波の基本的性質，波の伝播とそれに伴う変形，海岸の保全（津波・高潮対策，流体の運動方程式（Navier-Stokes equations），微小振幅波理論と有限振幅波，非線形長波方程式の導出，非線形長波方程式の差分化などの授業を計画している。	
		水圏環境工学特論	河川などの水域における環境流体力学ならびに生態系保全について講義し，その解析手法について実践的に学ぶ。具体的には，拡散・分散現象とその支配方程式，密度差を考慮した流れの支配方程式，河川・湖沼における密度流現象，水域生態系モデル，植生成長モデルなどを扱い，陸水域における環境水理学おとび数理生態学の基本事項を理解し，それを具体的に計算する手法を身につけることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
土木工学プログラム	プログラム専門科目	地圏環境工学特論	本授業では、地圏環境を構成する岩盤や土，土壌など社会基盤の基礎部分の環境に関する内容について講義と演習を通して学ぶ。 第 1週：ガイダンス 第 2週：土壌汚染と公害 第 3週：舗装工学における環境問題 第 4週：建設現場における環境問題 第 5週：地圏環境と岩盤工学 第 6週：岩盤構造物の建設と環境問題 第 7週：岩盤構造物と防災 第 8週：地圏環境工学のまとめ	共同
		都市計画特論	都市計画における諸問題に対して、今後の計画立案に必要な概念について学習します。特に、「持続可能な都市」の実現に向けて、世界中の最新の動向について討議します。 具体的には，少子高齢社会における都市計画に関する講義・演習，土地利用と交通計画に関する講義・演習，ICTと都市計画に関する講義・演習，持続可能な都市計画に関する講義・演習などの授業を計画しています。	
		都市交通特論	都市交通における諸問題に対して、今後の計画立案に必要な概念について学習します。特に、「持続可能な交通」の実現に向けて、世界中の最新の動向について討議します。 具体的には，人の生活活動と交通行動に関する講義・演習，交通調査に関する講義・演習，少子高齢社会における交通計画に関する講義・演習，持続可能な交通計画に関する講義・演習などの授業を計画している。	
		防災マネジメント特論	地域や組織などで防災を実施するために必要となる防災や災害事例を再確認し，これらを実際に地域や組織での防災に応用できるように学習する。 具体的には，防災マネジメントに係る人材育成の課題，防災に関する研修事例，防災マネジメントに係る人材育成の課題，国際的な防災マネジメントに係る課題，近年の防災の課題の提起と討論，近年の災害事例の課題の提起と討論などの授業を計画している。	
		海外プロジェクト特論	海外で社会基盤を整備するために必要となるプロジェクトマネジメントの総合的な知識を再確認し，その知識を実際のプロジェクトに応用できるように学習する。 具体的には，プロジェクトマネジメント（総合・時間・コスト・リスク），海外プロジェクトの事例の解説と課題分析，海外の社会基盤整備における環境社会配慮，社会基盤整備の経済評価などの授業を計画している。	
		土木工学特別演習	リサーチワークや教員や学生とのディスカッションを通して，専門知識・技術の深化を図る。これには，境界領域・学際領域の観点から地域デザイン工学分野等に関する内容も含む。主な内容は，次のとおりである。 ●土木工学に関する古典的な研究を含めた既往研究をサーベイして，高度な専門的知識を体系的に理解する。 ●土木工学に関する新技術の創造あるいは地域課題の解決のために，具体的な課題について演習を行う。 ●演習内容について段階的に成果を発表し，教員や学生とのディスカッションを通して，より高い視点で深く掘り下げた内容として取り纏める。 （19　山岡　暁） プロジェクトマネジメントに関する論文・事例を調査し課題解決手法を学び，それを実際の調査や分析で活用するとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なマネジメント能力や課題発見・解決能力を修得する。 （20　藤原浩巳） コンクリート工学に関する論文・事例を調査し課題解決手法を学び，それを実際の調査、実験、解析で活用するとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑭ 池田裕一） 水工学に関する論文・事例を調査し課題解決手法を学び，それを実際の調査、実験、解析で活用するとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （22　大森宣暁） 都市計画，交通計画に関する論文・事例を調査し課題解決手法を学び，それを実際の調査，実験，解析で活用するとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
土木工学プログラム	プログラム専門科目	土木工学特別演習	（69　清木隆文） 岩盤工学や地下空間設計学に関する論文や事例を調査して課題解決手法を習得し，調査、実験、解析などで活用するとともに、学生や教員等との討論で実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （70　丸岡正知） 建設材料学・エコマテリアルに関する論文・事例を調査し課題解決手法を学び，それを実際の調査、実験、解析で活用するとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （71　藤倉修一） 構造工学に関する論文・実例を調査し課題解決手法を学び，それを実際の実験及び解析で活用するとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （72　近藤伸也） 防災マネジメントに関する論文・事例を調査し課題解決手法を学び，それを実際の調査、実験、解析で活用するとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （73　海野寿康） 地盤工学に関する論文や災害事例、工法開発資料を通じて課題解決手法を学び、それを実際の研究で活用するとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （117　松本美紀） 建設マネジメントに関する論文等を調査し課題解決手法を学び，それを実際の調査、解析で活用するとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （118　長田哲平） 都市計画・交通計画ならびに情報関連技術に関する論文・事例を調査し課題解決手法を学ぶとともに、それを実際の調査、実験、解析などに活用するとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （119　飯村耕介） 海岸工学に関する論文・事例を調査し課題解決手法を学び，それを実際の調査、実験、解析で活用するとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （120　NGUYEN MINH HAI） 構造工学・地震工学に関する論文・事例を調査し課題解決手法を学び，それを実際の調査、実験、解析で活用するとともに、学生や教員等との討論を通じてコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑧ 高橋　俊守） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る自然共生デザインに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （14　郡　公子） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築環境・設備に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （15　中島　史郎） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る木造建築の工法・構造・材料に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （16　増田　浩志） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築構造に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
土木工学プログラム	プログラム専門科目	土木工学特別演習	（17　杉山　央） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築材料、生産および施工に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑮ 松井　宏之） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る農業水利に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊸　阪田　和哉） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係るプロジェクトの経済評価に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （66　中野　達也） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築構造，鋼構造，耐震工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 55 藤本　郷史） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築材料・構工法に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （74　福村　一成） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る農業農村開発や乾燥地農業と水や土壌に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （75　飯山　一平） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る土壌を介した熱・物質の輸送・保持に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （78　大澤　和敏） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る農地保全に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	
		土木工学特別研究	「土木工学特別研究」は，修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。土木工学プログラムを専攻する学生の研究テーマは，構造工学分野，水工学分野，地盤工学分野，材料工学分野，計画学分野，マネジメント分野及び環境システム分野など広範囲に渡るため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては，まず研究テーマを決定し，研究内容を十分に把握した上で，到達目標に向けた種々の内容を，研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。成果は随時段階的にとりまとめ，主としてゼミナール形式で指導教員などに報告する。これには，境界領域・学際領域の観点から地域デザイン工学分野等に関する内容も含むものとする。２年次後期の後半には，おおよその研究成果を取り纏め，プログラム担当教員の参加のもとで報告発表を行う。 （19　山岡　暁） プロジェクトマネジメントに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （20　藤原浩巳） コンクリート工学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑭ 池田裕一） 水工学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （22　大森宣暁） 都市計画、交通計画に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
土木工学プログラム	プログラム専門科目	土木工学特別研究	（69　清木隆文） 岩盤工学や地下空間設計学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （70　丸岡正知） 建設材料学・エコマテリアル工学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （71　藤倉修一） 構造工学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （72　近藤伸也） 防災マネジメントに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （73　海野寿康） 地盤工学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （117　松本美紀） 建設マネジメントに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （118　長田哲平） 都市計画・交通計画に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （119　飯村耕介） 海岸工学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （120　NGUYEN MINH HAI） 構造工学・地震工学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑧ 高橋　俊守） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る自然共生デザインに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （14　郡　公子） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築環境・設備に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （15　中島　史郎） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る木造建築の工法・構造・材料に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （16　増田　浩志） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築構造に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （17　杉山　央） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築材料、生産および施工に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （⑮ 松井　宏之） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る農業水利に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊸　阪田　和哉） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係るプロジェクトの経済評価に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （66　中野　達也） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築構造，鋼構造，耐震工学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
土木工学プログラム	プログラム専門科目	土木工学特別研究	（55　藤本　郷史） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築材料・構工法に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （74　福村　一成） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る農業農村開発や乾燥地農業と水や土壌に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （75　飯山　一平） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る土壌を介した熱・物質の輸送・保持に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （78　大澤　和敏） 境界領域・学際領域の農業土木学分野に係る農地保全に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	
農業土木学プログラム	プログラム専門科目	環境数理Ａ	１．微分方程式の誘導と式の工学的意味の理解，及び解析的な解法のいくつかを修得する。 ２．解析解を具体的に数値化，図式化することも修得する。 具体的には、微分方程式の基礎概念とアイディア、数学モデルのつくりかた、成長と減衰、変数分離形微分方程式、線形１階微分方程式、などの授業を計画している。	
		環境数理Ｂ	微分方程式の誘導，式の工学的意味の理解，解析的な解法，解析解の数値化・図式化などを講義するとともに，演習によりそれらを修得する。 農地および農村空間における物質・エネルギー動態に関わる高度な数理的手法および物理的視点を醸成することで，地球環境の変化に適応した良好な農業農村基盤の整備に関わる高度な工学的能力を修得する。	
		土壌環境物理学Ａ	土壌が備える物理的機能としての物質の輸送・保持機能の定量法、および、これらの機能の物理数学的表現法を修得する。 具体的には、物理次元、熱・物質輸送方程式概説、土壌の物理的性質(各種の物理量の定義、物理量同士の関係、典型値)、水分ポテンシャル(各種のポテンシャルの定義、土壌水分特性の定義・性質・予測)、透水性と水分輸送方程式(土壌水の力学、飽和流の表現、飽和透水係数のモデル化と予測、不飽和透水性、非定常流問題)、土壌中のガス(ガスの流れの支配法則、土壌の通気性)、地温と熱の流れ(熱の流れの支配法則、土壌の熱容量、土壌の熱伝導性)、などの授業を計画している。	
		土壌環境物理学Ｂ	土壌中あるいは土壌を介した熱・物質の輸送・保持現象に関する数値解析手法を修得し、現象を数値的に再現・予測する。 具体的には、土壌の物理性の変動性(確率密度関数、空間的相関、確率モデル化)、浸潤(浸潤のモデル化、成層土への浸潤、浸潤の数値解析の定式化、境界条件、非線形方程式の数値解)、再分布(再分布のモデル化、再分布の数値解析の定式化、境界条件、2次元問題の数値解)、蒸発(液状水・水蒸気同時輸送問題(等温)、非等温問題、熱輸送の水蒸気輸送への影響)、溶質輸送(移流・拡散・分散、溶質-土粒子間相互作用、溶質輸送の数値解析、定常問題、非定常問題)、蒸散と植物-水分関係(土壌・植物・大気系、植物体内水分輸送、植物体内水分輸送と外的環境、植物根、数値解析)、大気境界条件(地表面放射収支、境界層の熱・水蒸気コンダクタンス、蒸発散、蒸散・蒸発の分離)、などの授業を計画している。	
		農地保全学	農業活動が自然環境へ大きな影響を与えている現況に対応して，農地や農業生産のあり方を多面的に考え，農業基盤と地域環境基盤の要である農地や農地を含む流域の適切な管理・保全技術を修得する。 具体的には、農地の役割と多面的機能、物質循環（水，土砂）、物質循環（栄養塩，化学物質）、農地保全の技術、土壌侵食の理論、土壌侵食モデル、物質動態シミュレーション（農地スケール、流域スケール）、などの授業を計画している。	
		農業水利学	作物生産を計画的，効率的に行うためには，灌漑が不可欠である。灌漑を支える農業水利の役割，農業水利の諸課題を分析する視点に加えて，大学が位置する鬼怒・小貝川水系の農業水利について講義する。加えて，任意の地区を対象として農業水利が果たす役割，直面する課題およびその解決策について，受講者自ら整理し，発表する。 具体的には、水資源と農業水利、バーチャルウォーター、圃場外水利、圃場内水利、鬼怒・小貝川水系の農業水利、などの授業を計画している。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
農業土木学プログラム	プログラム専門科目	応用田園生態工学Ａ	土地改良事業実施時に取り組まれる環境配慮対策のうち、生態系についての配慮策について講義する。また、自然環境の変化を考慮して農業農村整備に関わる課題の解決策を提案し、マネジメントする能力を養成する。生態工学の視点で、どのように生態系配慮対策を実施すればよいか、ワークショップを中心としたPBL型講義により、図上プランニングに取り組む。	
		応用田園生態工学Ｂ	田園生態工学分野における応用面として重要となる地域住民の合意形成について講義する。講義には複数のテキストを用い、輪読を実施する。また、田園生態工学分野における応用面として重要となる地域住民の合意形成について講義する。講義には複数のテキストを用い、輪読を実施する。後半回では、地域住民の合意形成の視点からワークショップ形式のPBL型講義を実施する。	
		地域マネジメントＡ	農業・農村の振興に携わる現場では，「開発と保全」に代表されるような二律背反する課題への対応や，地域社会に潜在する利害調整や合意形成への対応が求められることが少なくない。この講義では，農村計画と環境評価の素養を持った技術者育成のために，農業農村整備事業が地域社会に果たす役割と課題について解説するとともに，事業推進に伴って生じる対立課題の解消（コンフクリクト・マネジメント）のあり方や合意形成の方法などについて講述します。 具体的には、農村の資源・環境管理をめぐる今日的課題、農業農村整備事業と関係法、農業農村における住民参加などについての授業を計画している。	
		地域マネジメントＢ	農業・農村の振興に携わる現場では，「開発と保全」に代表されるような二律背反する課題への対応や，地域社会に潜在する利害調整や合意形成への対応が求められることが少なくない。この講義では，農村計画と環境評価の素養を持った技術者育成のために，農業農村整備事業が地域社会に果たす役割と課題について解説するとともに，事業推進に伴って生じる対立課題の解消（コンフクリクト・マネジメント）のあり方や合意形成の方法などについて講述します。 また、地域マネジメント論Aの講義内容を踏まえて，農業農村をめぐる今日的課題を採り上げ，その解決方策についてグループワークを行います。	
		農業農村開発と技術協力	発展途上国への農業農村開発分野の技術協力について概観し ・途上国における開発協力の特徴 ・協力主体ごとの具体的な協力事例から技術協力について ・専門技術分野とプロジェクトマネージメント ・プロジェクトサイクルマネージメントと計画立案 ・農業分野の途上国研修員への聞き取り調査 ・プロジェクトの計画立案を試行(グループワーク) ・立案プロジェクトの発表	
		農業土木学特別演習	農業土木学に関する修士論文作成のための資料・データ収集方針の確定，分析手法の確立を通じて，研究計画を立案し，研究を実施する能力を養成することを目指し，指導教員等とのディスカッションを行う。 ２年次は，必要な資料・データの探索方法および分析方法をより実践的に習得するとともに，解析能力，ローカルかつグローバルな視点のみならず地域デザイン工学等の視点から課題を解決・改善する能力を養う。 （⑮ 松井宏之） 農業水利およびその影響・評価に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （74　福村一成） 農業農村開発や乾燥地農業と水や土壌に関する論文を調査し課題の発見や分析、解決手法を学ぶとともに，学生や教員や実務家等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （75　飯山一平） 土壌を介した熱・物質の輸送・保持に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （76　田村孝浩） 農村計画に関する論文のレビューを行い、農業農村に関する課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
農業土木学プログラム	プログラム専門科目	農業土木学特別演習	（77　守山拓弥） 農村生態工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （78　大澤和敏） 農地保全に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （18　横尾　昇剛） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築環境・都市環境に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （19　山岡　暁） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係るプロジェクトマネジメントに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑭ 池田　裕一） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る水工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （64　古賀　誉章） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築計画および環境デザイン等に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （65　安森　亮雄） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築意匠・建築設計・都市デザインに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （67　佐藤　栄治） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築計画および都市計画等に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （69　清木　隆文） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る岩盤工学や地下空間設計学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （73　海野　寿康） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る地盤工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （117　松本　美紀） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る建設マネジメントに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （118　長田　哲平） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る都市計画・交通計画に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
農業土木学プログラム	プログラム専門科目	農業土木学特別演習	（119　飯村　耕介） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る海岸工学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	
		農業土木学特別研究	地域デザイン工学（農業土木学）プログラムを専攻する学生の研究テーマは，農業農村基盤に関わる広範囲の分野に渡るため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては，まず研究テーマを決定し，研究内容を十分に把握する。その上で，到達目標に向けた種々の内容を，研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに，地域デザイン工学としての学際的視点，研究者として必要な倫理観を養成する。成果は随時とりまとめ，主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。２年次前期終了時には，プログラム担当教員の参加のもと，修士論文研究の達成状況の報告を行う。 （⑮ 松井宏之） 農業水利およびその影響・評価に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （74　福村一成） 農業農村開発や乾燥地農業と水や土壌に関する課題の分析に基づいて、教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （75　飯山一平） 土壌を介した熱・物質の輸送・保持に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （76　田村孝浩） 農村計画に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 （77　守山拓弥） 農村生態工学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （78　大澤和敏） 農地保全に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （18　横尾　昇剛） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築環境・都市環境に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （19　山岡　暁） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係るプロジェクトマネジメントに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （⑭ 池田　裕一） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る水工学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （64　古賀　誉章） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築計画および環境デザイン等に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （65　安森　亮雄） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築意匠・建築設計・都市デザインに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （67　佐藤　栄治） 境界領域・学際領域の建築学分野に係る建築計画および都市計画等に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （69　清木　隆文） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る岩盤工学や地下空間設計学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
農業土木学プログラム	プログラム専門科目		農業土木学特別研究	（73　海野　寿康） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る地盤工学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （117　松本　美紀） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る建設マネジメントに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （118　長田　哲平） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る都市計画・交通計画に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （119　飯村　耕介） 境界領域・学際領域の土木工学分野に係る海岸工学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	基盤科目	貧困問題と国際協力Ⅰ	本科目は、貧困問題とは何か、どのような貧困問題があるのか、国際協力はどのように行われているのか、政府による援助（ODA）、世界銀行や国連など国際機関援による援助、国際NGOによる援助を事例に考える。持続可能な開発目標（SDGs)、パートシップによる援助、援助効果の議論も取り上げて考える。本当の国際貢献のためにはどのような方法や援助が良いのかを考察する。履修生は事前の文献読解，レジュメの用意，議論への参加，発表を行うNGOことが求められる。テキストは，追って指示する。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「貧困問題と国際協力Ⅱ」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。	講義　10時間 演習　5時間
			防災と国際協力Ⅰ	防災は災害が多発する日本だけでなく世界的に大きな課題である。本講義では防災と国際協力をめぐる論点や現状、及び課題を解説し、国内外の事例を用いて議論をすすめる。具体的には、災害発生前の備え、災害発生時後の緊急、復旧、復興期の取り組みや対策を含む「防災サイクル」の考え方を視点に、近年国内外で発生した大災害の事例を検証する。特にこれまでの開発途上国で防災国際協力事業に携わった経験を生かして、海外の被災地の現状や特性について解説し、日本、ベトナム、及びスリランカ等で実際に行った先進事例を用いて議論する。	
			環境問題とガバナンスⅠ	グローバリゼーションが進行する今日、国家は地球規模の環境問題と局地的な環境問題に同時に対応することを求められている。問題は深刻化する一方、持続可能な発展に向けての様々な画期的取組みも、先進国・途上国双方において進行中である。授業では、経済活動に伴う環境問題の受苦・受益の関係性を構造的に捉え、社会的ジレンマを解消していくために、国際・国内社会がどのように向ってきたかを学び、持続可能な発展にむけたガバナンスの在り方について考察する。	講義　5時間 演習　10時間
			情報ネットワークと技術Ⅰ	今日の情報化社会において，情報ネットワークシステムはコミュニケーションの基礎となりつつあり，インターネットとして広く利用されています．本授業では，グローバル社会の変容を理解する新しい手段の一つとして情報ネットワークシステムを捉え，ひとびとが情報ネットワークを利活用する現状と問題点及び将来における可能性についてさまざまな角度から考察します。 具体的には、情報ネットワークシステムモデルとインターネット、インターネット上で展開されているさまざまなサービス、などの授業を計画しています。	
			人間の安全保障と国連Ⅰ	本講義では、人間の安全保障（human security）概念の歴史的展開について検討しつつ、同概念が主に国連の安全保障分野の意思決定や活動に与えている影響について、国際関係論、国際機構論の手法を用いながら検討する。具体的には、関連する先行研究に加えて、国連機関の報告書等を資料として用いつつ、国連安全保障体制における文民の保護の位置づけとその実行について、国連平和維持活動(PKO)や「保護する責任（responsibiity to protect）」との関係性に注目しつつ研究する。	
			国際人権保障と平和構築Ⅰ	本科目では、国際人権法、国際人道法および国際刑事法が形成され発展してきた経緯を概観し、国連、各地域機構および日本で、人の権利保障についての問題がどのように取り組まれてきたのか普遍的な視座から理解する。さらに、紛争下における大規模な人権侵害の具体的な事例を取り上げることで、理論上および実務上の様々な課題に対し、社会と私達がどう向き合うべきか分析、検討および発信する能力の一端を身につけることを目的とする。 本科目は、紛争後の平和構築において国際的な人権保障システムが如何に機能しているのか、また如何なる課題に直面しているのかを専門的に考察し、分析するためのスキルを習得するための基本的な枠組みを理解することが目的である。特に、国際人権法、国際人道法および国際刑事法の形成過程とこれらの法律に関わる国際的な裁判所、国際機関および市民社会などの多様なアクター達とのつながりに焦点を当てる。 グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「国際人権保障と平和構築Ⅱ」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。	講義　10時間 演習　5時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	基盤科目	Globalization and Project Management Ⅰ	国際開発における、プロジェクト形成のための事前調査、プロジェクトの形成から開始準備および実施、そして終了までの一連のプロセスを学ぶとともに、プロジェクト実施におけるモニタリングと評価手法を事例を交えて紹介し、案件形成能力および実践力を付けることを目指す。	
			グローバル教育と開発教育Ⅰ	今や73億人を越える人々が暮らす地球社会は、開発や環境、平和や人権、文化や福祉、資源やエネルギーなどに関わる地球的規模の諸問題に直面しており、こうした諸問題を早急に解決していくことが人類共通の地球的課題（global issues）とされている。こうした諸問題の改善や解決に向けては、長年にわたって各国政府や国連機関をはじめ、NGOなどの市民組織による国際協力活動が展開され、その是非や賛否が常に論じられてきた。本講では、こうした地球的諸問題の理解や解決に向けて、主に「先進国」内で実施されてきた教育実践の試みとして、グローバル教育や開発教育を取り上げ、その理念や実践に着目しながら、オルタナティブな教育としての今後の役割や可能性について検討していく。 具体的には、地球的諸問題の概要や鍵概念を確認した上で、グローバル教育や開発教育に影響を及ぼした国際開発論やＮＧＯ等による国際開発協力との関連、英国や日本におけるグローバル教育や開発教育の歴史や現状などについて解説する。	講義　10時間 演習　5時間
			国際NPO起業とその実践Ⅰ	本科目では、栃木のNPO、国際協力、国際交流に関わるNPOに焦点をあて、国際NPOの起業の理念、それぞれの団体における 起業の方法と活動、持続可能性、国際貢献と地域貢献の事例について、国際協力や地域のNGONPOの経験者を講師に招いて学ぶ。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「国際NPO起業とその実践Ⅱ」を履修すること、国際NPOの具体的な実践活動を通じてより専門的な知識とそのを修得することが求められる。 ＜オムニバス方式/全8回＞ （⑯ 重田康博／1回） 1 オリエンテーション （167　矢野正広／3回） 2　栃木のNPOの起業 3　起業と持続可能性 4　起業における課題―どのように地域貢献を行うのか （168　筒井哲朗／4回） 5　国際NPOシャプラニールの現状 6　国際NPOの起業　筒井哲朗 7　起業と持続可能性　筒井哲朗 8　起業における課題―どのように国際貢献を行うのか	オムニバス方式 講義　10時間 演習　5時間
		グローバル・スタディーズ科目	貧困問題と国際協力Ⅱ	本科目は、貧困問題とは何か、どのような貧困問題があるのか、国際協力はどのように行われているのか、政府による援助（ODA）、世界銀行や国連など国際機関援による援助、国際NGOによる援助を事例に考える。持続可能な開発目標（SDGs）、パートシップによる援助、援助効果の議論も取り上げて考える。本当の国際貢献のためにはどのような方法や援助が良いのかを考察する。履修生は事前の文献読解，レジュメの用意，議論への参加，発表を行うNGOことが求められる。テキストは，追って指示する。また，フィールドワークとして，国際協力機関や国際NGOを訪問しインタビューを行うこともある。過去には、アジア学院を訪問した。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「貧困問題と国際協力Ⅰ」を履修し、より基礎的な知識を修得することが求められる。	講義　10時間 演習　5時間
			防災と国際協力Ⅱ	防災は災害が多発する日本だけでなく世界的に大きな課題である。日本で発生する災害と海外、特に開発途上国で発生する災害の被害や復旧、復興過程には違いがあるのだろうか。本講義では開発途上国で災害が発生する社会経済的な背景や、貧困層や弱者に被害が集中する格差、防災国際協力の課題や現状、今後のあり方について議論する。その過程で、緊急援助ワークショップやジェンダーワークショップ等を行い、被災政府、国連機関、国際NGO、ボランティアといった様々な立場から、今後の防災国際協力のあり方を議論する。	
			環境問題とガバナンスⅡ	グローバリゼーションが進行する今日、国家は地球規模の環境問題と局地的な環境問題に同時に対応することを求められている。問題は深刻化する一方、持続可能な発展に向けての様々な画期的取組みが、先進国・途上国双方において進行中である。しかし、その取り組み内容や運用は、国によっても地域によっても大幅に異なっている。授業では、各国・地域の差異を説明するための基本的な政治学上の概念を学んだ上で、循環型社会形成や再生可能エネルギーを事例に、複数事例をとりあげて比較対照し、理解を深めていく。	講義　5時間 演習　10時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	グローバル・スタディーズ科目	情報ネットワークと技術Ⅱ	情報化社会において，新しい技術が次々と生まれてきます。AI（人工知能）、Big Data、ブロックチェーン等など。これらの技術の枠組みや基本的仕組み、グローバル社会との関連性、各種技術の応用される現状と課題等をテーマに考察していきます。 本科目は「情報ネットワークと技術Ⅰ」を履修した者のみが履修可能であり、「情報ネットワークと技術Ⅰ」の知識を前提として進められる。グローバル社会における情報ネットワークとその技術をより高度な専門性の観点から学習するための科目である。	
			人間の安全保障と国連Ⅱ	本講義では、人間の安全保障概念が武力紛争下の文民の保護といった安全保障分野のみならず、原発事故や大規模災害時の人権保障や、ジェンダー格差に関わる社会的課題に対応する際にも重視されるようになった経緯と、実際の適用事例について、国際機構論、平和研究の手法を用いて検討する。具体的には、関連する先行研究を踏まえつつ、国連人権機関の一次資料やNGOの活動についても射程を入れつつ、平時における人間の安全保障の課題について研究する。	
			国際人権保障と平和構築Ⅱ	本科目では、国際人権法、国際人道法および国際刑事法が形成され発展してきた経緯を概観し、国連、各地域機構および日本で、人の権利保障についての問題がどのように取り組まれてきたのか普遍的な視座から理解する。さらに、紛争下における大規模な人権侵害の具体的な事例を取り上げることで、理論上および実務上の様々な課題に対し、社会と私達がどう向き合うべきか分析、検討および発信する能力を身につけることを目的とする。 本科目は、「国際人権保障と平和構築Ⅰ」での学びを踏まえ、紛争後の平和構築において国際的な人権保障システムの役割についての理解を更に促進し、その課題と分析を可能とするための高度に専門的な知識を修得するための科目である。国連平和維持活動が展開している地域を中心とした事例研究に取り組んだ後に、国際的に評価の高い論文や学術書を通して、批判的かつ建設的に考察することで、さらなる実践力の向上も目指す。 本科目は「国際人権保障と平和構築Ⅰ」を履修した者のみ、履修可能であり、「国際人権保障と平和構築Ⅰ」の知識を前提として進められる。平和と人権保障のつながりをより高度な専門性の観点から学習するための科目である。	講義　10時間 演習　5時間
			Globalization and Project Management Ⅱ	組織運営の観点からプロジェクト・マネージャーとしてのリーダーシップおよびプロジェクト・メンバーの能力を効果的に引き出すための人材育成の知識と技術も体系的に学ぶ。また、国際開発の現場においての多文化および多言語な職場環境を想定し、異文化コミュニケーションの知識も学び、実際に国際開発の現場において実務的に応用できることを目指す。	
			グローバル教育と開発教育Ⅱ	今や73億人を越える人々が暮らす地球社会は、開発や環境、平和や人権、文化や福祉、資源やエネルギーなどに関わる地球的規模の諸問題に直面しており、こうした諸問題を早急に解決していくことが人類共通の地球的課題（global issues）とされている。こうした諸問題の改善や解決に向けては、長年にわたって各国政府や国連機関をはじめ、NGOなどの市民組織による国際協力活動が展開され、その是非や賛否が常に論じられてきた。本講では、こうした地球的諸問題の理解や解決に向けて、主に「先進国」内で実施されてきた教育実践の試みとして、グローバル教育や開発教育を取り上げ、その理念や実践に着目しながら、オルタナティブな教育としての今後の役割や可能性について検討していく。 具体的には、グローバル教育のひとつの出発点となったユネスコの国際理解教育やその後のＥＳＤを含む国際教育政策をはじめ、欧州各国が推進してきたグローバル教育の政策や実践について、関係文書を参考にしながら検討する。	講義　10時間 演習　5時間
			国際NPO起業とその実践Ⅱ	本科目では、栃木のNPO、国際協力、国際交流に関わるNPOに焦点をあて、国際NPOの起業の理念、それぞれの団体における 起業の方法と活動、持続可能性、国際貢献と地域貢献の事例について、国際協力や地域のNGONPOの経験者を講師に招いて学ぶ。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「国際NPO起業とその実践Ⅰ」を履修していること、国際NPOの具体的な実践活動を通じてより専門的な知識とそのを修得することが求められる。 ＜オムニバス方式/全8回＞ （⑯ 重田康博／4回）（うち2回共同） 1　オリエンテーション 2　国際NPOの起業の現状 7　国際NPOの起業について（総論）　アジア学院野外実習（合宿） 8　国際NPOの起業に関する課題（まとめ）アジア学院野外実習（合宿） （169　荒川朋子／6回）（うち2回共同） 3　国際NPOアジア学院の起業 4　アジア学院の国際貢献 5　起業と持続可能性 6　起業における課題―どのように地域貢献を行うのか 7　国際NPOの起業について（総論）　アジア学院野外実習（合宿） 8　国際NPOの起業に関する課題（まとめ）アジア学院野外実習（合宿）	オムニバス方式 共同（一部）講義　10時間演習　5時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	エリアスタディーズ科目	タイの開発と地域社会Ⅰ	今日の多様な世界を構成する一地域として東南アジアとりわけ日本との関係の深いタイを取り上げ、開発と地域社会の関係という視点から、この地域が有する特徴を理解する。タイは日系企業の進出などにより工業化が進み、同時にバンコクを中心に都市化が進んでいる。急激な工業化・都市化にともない地域社会には種々の深刻な問題が発生するようになっている。 本科目では、タイの開発と地域社会の関係を専門的に理解・分析するための導入として、政府による地域社会開発政策、タイの工業化・都市化と地域社会の変化の実態などの基礎的な知識を修得する。	
			タイの開発と地域社会Ⅱ	今日の多様な世界を構成する一地域として東南アジアとりわけ日本との関係の深いタイを取り上げ、開発と地域社会の関係という視点から、この地域が有する特徴を理解する。タイは日系企業の進出などにより工業化が進み、同時にバンコクを中心に都市化が進んでいる。急激な工業化・都市化にともない地域社会には種々の深刻な問題が発生するようになっている。 本科目では、「タイの開発と地域社会Ⅰ」での基礎的な理解をふまえ、タイの開発と地域社会の関係を専門的に理解・分析する。政府による地域社会開発政策が具体的にどのように展開され、それを地域社会側がどのように受け止め、また主体的に捉え返しているのか、多くの事例をふまえて、分析する。その際、行政（国家および自治体）、住民（地域住民組織）、ＮＧＯなどアクター間の関係に注目することにより、タイ社会の構造的・主体的な特質への理解を深める。	
			東アジアの国際政治と歴史Ⅰ	東アジア国際政治の歴史を専門的に理解・分析するための導入科目であり、当該地域の国際秩序が歴史的にどのように形成されてきたのかを専門的に理解・分析するための基本的知識を修得することが目的である。（１）世界戦争と戦後平和秩序という近現代国際政治史全体のダイナミズム、（２）第二次世界大戦後の地域秩序の特徴、（３）冷戦後の地域秩序の特徴について理解を深める。 具体的には、専門文献の輪読と相互討論（近現代国際政治史の全般、国際政治理論、近代東アジア国際政治史、現代東アジア国際政治史、東アジア冷戦と冷戦後）、受講生の個別研究報告、などの授業を計画している。	講義　5時間 演習　10時間
			東アジアの国際政治と歴史Ⅱ	今日の多様な世界を構成する一地域として東アジア地域を取り上げ，歴史と文化の側面から，この地域が有する特徴を理解する。その上で，国際的に評価の高い論文・学術書のレプリケーションを通じて，東アジア地域を対象とする歴史文化研究の知識と手法を理解する。 具体的には、専門文献の輪読と相互討論（戦後東アジア国際政治史全般、冷戦下の危機、戦争、大国間政治、東アジア冷戦の終焉）、受講生の個別研究報告、などの授業を計画している。	講義　5時間 演習　10時間
			東アジアの歴史と文化Ⅰ	今日の多様な世界を構成する一地域として東アジア地域を取り上げ，主に歴史と文化の側面から，この地域が有する特徴を理解する。 本科目は東アジア地域の歴史的展開と文化的な接触，交渉，そしてその変容過程を専門的に理解・分析するための導入科目であり，この地域の歴史的関係性を理解し，そこで展開した文化の諸相を専門的に理解・分析するための基本的な枠組みを修得することが目的である。特に（１）東アジアに広く普及した宗教である仏教の東アジア地域における相互接触，交渉，衝突，変容，受容過程，（２）近代東アジアの歴史的展開，（３）日本による植民地統治と宗教との関連性，について理解を深める。 グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には，本科目とともに「東アジアの歴史と文化Ⅱ」を履修し，より専門的な知識を修得することが求められる。	講義　10時間 演習　5時間
			東アジアの歴史と文化Ⅱ	今日の多様な世界を構成する一地域として東アジア地域を取り上げ，歴史と文化の側面から，この地域が有する特徴を理解する。 本科目は東アジア地域の歴史・文化現象の理解を促進し，その分析を可能とするための高度に専門的な知識を修得するためのするための科目である。国際的に評価の高い論文・学術書のレプリケーションを通じて，東アジア地域を対象とする歴史文化研究の知識と手法を理解する。 本科目は「東アジアの歴史と文化Ⅰ」を履修した者のみ，履修可能であり、「東アジアの歴史と文化Ⅰ」の知識を前提として進められる。東アジア地域をより高度な専門性の観点から学習するための科目である。	講義　5時間 演習　10時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	エリアスタディーズ科目	日本の自然と地域生活Ⅰ	「僻地」や「田舎」と呼ばれる日本の村落社会においても、グローバリゼーションの影響は大きい。モノ・ヒト・カネの流れはもちろん、そこに住む人々の考え方や行動にも大きな影響を与えている。そのため、現在の村落社会は、外部からイメージされるような固定した一枚岩の存在ではなく、多様かつ複雑な社会となっているのである。 村落社会学や人類学、民俗学などの学問分野において、日本をはじめとした村落社会を研究するためには、この多様かつ複雑な社会を理解していかなければならない。そのためには、現地を深く知るためのフィールド・ワークは不可欠であるが、それと同時に積み上げられてきた学問の成果に対する見識も不可欠である。これらの学問成果を理解しなければ、地域社会を見る目は平板なものとなってしまうからである。そこで、本講義では、当該学問の研究史を確認することにより、学問成果の流れを理解することを目的としている。 なお、グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「日本の自然と地域生活II」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。	講義　5時間 演習　10時間
			日本の自然と地域生活Ⅱ	本科目は、「日本の自然と地域生活I」で学んだ、村落社会学、人類学、民俗学などの学問成果の流れをもとに、その中でもっとも興味深いと思われる古典を選択し、輪読することを目的としている。 古典となっている研究は、長く読み継がれてきたものであり、その後の学問に深い影響を与えているものである。それを深く読み込み、理解することは、学問を行うものにとって基本的なことである。そのうえで、ただ理解するだけでなく、その後の研究および現在の視点から検討する。このことによって、批判的精神を養成することを、この授業では目的としている。 なお、本科目は「日本の自然と地域生活I」を履修した者のみ、履修可能であり、「日本の自然と地域生活I」の知識を前提として進められる。地域生活をより高度な専門性の観点から学習するための科目である。	講義　5時間 演習　10時間
			アメリカの経済と金融Ⅰ	グローバルな諸問題を理解する上で、経済問題は重要な分野である。本講義は地域的にはアメリカを、領域的には金融問題に焦点をあてて行う。具体的には1980年代以降のアメリカ経済を対象として、（1）経済発展の概要（2）金融と経済発展の関係、といった側面に関し、アメリカ金融・資本市場の概要と特徴、資金循環からみるアメリカ経済の特徴、企業の多国籍展開とその影響、経済発展と金融との関係（特に新興企業・産業支援という点で金融・資本市場が果たした役割）、資金供給源としての年金基金、等について講義する。	
			アメリカの経済と金融Ⅱ	本講義は「アメリカの経済と金融Ⅰ」の受講を前提として、引き続き地域的にはアメリカを、領域的には金融問題に焦点をあてて行う。Ⅱでは、主として制度的側面に焦点をあて、1980年以降の金融自由化・規制緩和の背景・要因・影響について考察する。特に1980年代以降の金融自由化・規制緩和における大きな論点の一つは業際規制をめぐるものであったが、それは国際的にも大きな影響を与えたリーマンショックにつながるものでもあり、具体的経過や論点等について検討を加える。	
			ラテンアメリカの経済と社会Ⅰ	After a decade of neoliberal economic policies in most countries of the region, in the 2000s a trend to implement leftist and populist policies was observed amongst several governments. This pendulum-like movement, from pure free-market strategies to regulatory government intervention, has been one of the most salient characteristics of the region in the last quarter-century, and it serves as a framework to study the effects and multiple responses from domestic and foreign actors. This class is open to graduate students interested in Latin American issues, particularly Latin American politics, economy and society. 【和訳】本地域における自由主義政策の世紀の後、2000年代には、複数の政府が、左派ポピュリズム政策がみられた。純粋な自由主義政策から、政府の規制・介入政策へのの振り子のような動きは、この地域の四半世紀の顕著な特徴として挙げられる。また国内・海外アクターの複数の対応や影響を研究する枠組みにも寄与している。本授業は、ラテン・アメリカ、特にラテン・アメリカの政治・経済・社会に関心のある大学院生を対象とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	エリアスタディーズ科目	ラテンアメリカの経済と社会Ⅱ	Having as prerequisite Economy and Society in Latin America I, this class will focus on specific countries where the swing between the left and right have been associated with some endemic issues in the region such as, corruption, weak rule of law and dependent judiciary. This class is open to graduate students interested in Latin American politics, economy and society. 【和訳】Economy and Society in Latin America Iの受講を前提とする。 本授業は、左派から右派への揺れが、腐敗・法治の弱さ・司法の従属性などといったこの地域に特有の問題と関連しているいくつかの国々に焦点を当てる。本授業は、ラテン・アメリカの政治・経済・社会に関心がある大学院生を対象とする。	
			中東地域の政治と社会Ⅰ	今日の多様な世界を構成する一地域として中東地域を取り上げ、主に政治と経済の側面から、この地域が有する特徴を理解する。 本科目は中東地域の政治・経済現象を専門的に理解・分析するための導入科目であり、この地域の政治システム、経済・産業構造の基本を理解し、これを専門的に理解・分析するための基本的な枠組みを修得することが目的である グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「中東地域の政治と経済Ⅱ」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。	
			中東地域の政治と社会Ⅱ	今日の多様な世界を構成する一地域として中東地域を取り上げ、政治と経済の側面から、この地域が有する特徴を理解する。 本科目は中東地域の政治・経済現象の理解を促進し、その分析を可能とするための高度に専門的な知識を修得するためのするための科目である。国際的に評価の高い論文・学術書のレプリケーションを通じて、中東地域を対象とする政治経済研究の知識と手法を理解する。 本科目は「中東地域の政治と経済Ⅰ」を履修した者のみ、履修可能であり、「中東地域の政治と経済Ⅰ」の知識を前提として進められる。中東地域をより高度な専門性の観点から学習するための科目である。	
			東アフリカの社会開発と文化Ⅰ	社会開発に関する基礎的な理論理解とともに，東アフリカにおける社会開発の状況と，該当地域における文化について学ぶことを目的とする。 授業においては，以下の4点について学ぶ。（1）「社会開発」に関する先行研究に基づき，複数の視点を学ぶ。（2）東アフリカの地理・言語・民族・歴史・文化について学ぶ。（3）東アフリカの事例としてタンザニアを取り上げ，社会開発の状況について時代を追って，独立以降，構造調整時代，貧困削減・経済自由化時代における状況を分析する。具体的には，それぞれの時代の政策を精査するとともに，経済，生計戦略，教育，保健などの分野における統計的を分析する。（4）タンザニア国内における地域差とその背景を理解する。 グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には，本科目とともに「東アフリカの社会開発と文化Ⅱ」を履修し，より専門的な知識を修得することが求められる。	講義　5時間 演習　10時間
			東アフリカの社会開発と文化Ⅱ	本科目は「東アフリカの社会開発と文化Ⅰ」を履修した者のみ，履修可能であり，「東アフリカの社会開発と文化Ⅰ」の知識を前提として進められる。東アフリカ地域をより高度な専門性の観点から学習するための科目である。 「東アフリカの社会開発と文化Ⅰ」で学んだ基礎的知識をもとに，本授業においては，以下について学ぶ。（1）開発の歴史における社会開発の位置づけ。（2）東アフリカにおけるスワヒリ文化の形成。（3）タンザニアにおける開発と文化の葛藤の事例。その上で，関連したテーマについて受講生はレポートを作成する。	講義　5時間 演習　10時間
			特別臨地研究Ⅰ	グローバルな諸問題の調査及びその解決のための実務能力の養成をめざす。本科目の履修にあたっては、臨地研究に関する基本的な知識・技術の習得を行う地域創生リテラシー科目の「臨地研究」を受講済みであることが求められる。修士論文を提出せずに修了する院生にとっては、本科目は必修科目となる。 調査地、調査対象団体、調査方法等の選別・決定については、指導教員と綿密に相談しながらこれを行う。調査開始前に調査実施計画書を作成し、それを指導教員に提出して承諾を得ることが必要となる。 １週間程度（合計研究時間30時間）の現地滞在と、調査実施後に調査報告書の作成と提出が求められる。より長期にわたって調査を実施する場合には、「特別臨地研究Ⅱ」を履修し、一貫した調査活動につなげることが可能である。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	エリアスタディーズ科目	特別臨地研究Ⅱ	グローバルな諸問題の調査及びその解決のためのより高度な実務能力の養成をめざす。本科目の履修にあたっては、臨地研究に関する基本的な知識・技術の習得を行う地域創生リテラシー科目の「臨地研究」と、プログラム科目の「特別臨地研究　Ⅰ」を受講済みであることが求められる。「特別臨地研究Ⅰ」の時間を超えてさらに１週間程度（30時間）の現地滞在を行う場合には、本科目を履修してより綿密な報告書を作成することで、一貫した研究活動を実施することが可能である。 「特別臨地研究Ⅰ」と同様に、調査地、調査対象団体、調査方法等の選別・決定については、指導教員と綿密に相談しながらこれを行う。調査開始前に調査実施計画書を作成し、それを指導教員に提出して承諾を得ることが必要となる。	共同
			グローバル・エリアスタディーズ特別演習	主指導教員とのディスカッションを基盤にして，専門知識・技術の深化を図る。これには、境界領域、学際領域の観点から地域社会デザイン分野及び多文化共生の分野に関する内容も含むものとする。主な内容は，次のとおりである。 ●世界各地の多様性と国家間・国家-社会・国家と非国家主体関係を普遍的な視座から理解するための古典的な研究を含めた先行研究のサーベイを行い，体系的に専門的知識を理解する。 ●適切な資料・データ収集や分析手法について演習を行う。 ●設定した課題に対して，理論と実態・実践との往還を深め，成果の取り纏めを行う。 （⑯　重田康博） 国際協力やグローバル市民社会に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力・分析能力を修得する。 （⑰　磯谷　玲） アメリカ経済および金融市場・制度に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑱　湯本浩之） グローバル教育、開発教育、ＥＳＤなどの地球的課題に取り組む教育活動に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力、分析能力を修得する。 （⑲　倪　永茂） 情報ネットワーク技術がグローバル社会に対する影響等に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑳ Malee Kaewmanotham） 東南アジアとりわけタイの開発と地域社会に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力、分析能力を修得する。 （㉑　松金公正） 東アジア、特に中国、台湾を中心に歴史、宗教、思想に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力、分析能力を修得する。 （ ㊻ sueyoshi Ana） ラテンアメリカの政治経済に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力、分析能力を修得する。 （ ㊼ 栗原俊輔） 貧困削減、ガバナンス、紛争解決等国際開発に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的な課題発見・解決能力を修得する。 （ ㊽ 古村　学） 日本の村落社会に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ ㊾ 阪本公美子） アフリカの社会経済、開発、歴史・文化・生活に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力，分析能力を修得する。 （ ㊿ 松尾昌樹） 中東地域の政治経済に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力、分析能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	グローバル・エリアスタディーズ特別演習	（ (61) 髙橋若菜） 環境問題や持続可能な発展に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (62) 清水奈名子） 人間の安全保障に関する国連機関の文書並びに論文を調査し、資料調査と問題分析に関する手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (63) 松村史紀） 東アジア国際政治史に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力、分析能力を修得する。 （ (92) 飯塚(栗原)明子） 国内外の災害に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力、分析能力を習得する。 （ (93) 藤井広重） 紛争後の平和構築において国際人権法や国際刑事法が果たす、もしくは期待されている役割に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力、分析能力を修得する。 （⑬ 齋藤　潔） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係るアグリビジネス学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉒　柄木田　康之） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る文化人類学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉓　田巻　松雄） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る国際社会学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉔　佐々木　一隆） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る言語普遍性に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉗　丁　貴連） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る比較文学比較文化に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉘　吉田　一彦） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉚　中村　真） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る感情と対人コミュニケーションに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	グローバル・エリアスタディーズ特別演習	（㉜　湯澤　伸夫） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る音声英語学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉞　松井　貴子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る日本文化に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉟　米山　正文） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るアメリカ合衆国の文化に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊻　三田　妃路佳） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る公共政策や政治過程に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊿　西山(鈴木) 未真） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る地域資源管理論に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 53 児玉　剛史） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る食料経済学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 64 Barbara Morrison） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るジェンダーに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 65 戚　傑） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る多文化教育に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 67 鎌田　美千子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る日本語教育学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 70 Andrew Neal Reimann） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る比較文化論に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	グローバル・エリアスタディーズ特別演習	（71　髙山(中村）道代） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る日本語史，日本語学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （72　田口　卓臣） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るフランス思想・文学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （77　大野(神長）斉子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るロシア文化・文学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （78　出羽　尚） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るイギリス文化，芸術に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （88　閻　美芳） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農村社会学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （89　立花　有希） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る比較教育学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	
		グローバル・エリアスタディーズ特別研究	「グローバル・エリアスタディーズ特別研究」は，修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。これには、境界領域、学際領域の観点から地域社会デザイン分野及び多文化共生の分野等に関する内容も含むものとする。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを専攻する学生の研究テーマは，分析対象地域や分析手法によって様々に異なるため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては，まず研究テーマを決定し，研究内容を十分に把握した上で，到達目標に向けた種々の内容を，研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。成果は随時とりまとめ，主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。１年次前期と２年次の前期には、研究の進捗状況に関する報告を行い、２年次後期には研究成果の模擬発表を行う。これらの報告会・発表会には，プログラム担当教員が参加し、助言と評価を行う。 （⑯　重田康博） 国際協力やグローバル市民社会に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 （⑰　磯谷　玲） アメリカ経済および金融市場・制度に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑱　湯本浩之） グローバル教育、開発教育、ＥＳＤなどの地球的課題に取り組む教育活動に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑲　倪　永茂） 情報ネットワーク技術がグローバル社会に対する影響等に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑳　Malee Kaewmanotham） 東南アジアとりわけタイの開発と地域社会に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	グローバル・エリアスタディーズ特別研究	（㉑　松金公正） 東アジア、特に中国、台湾を中心に歴史、宗教、思想に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑤⑥ sueyoshi Ana） ラテンアメリカの政治経済に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑤⑦ 栗原俊輔） 国際開発に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑤⑧ 古村　学） 日本の村落社会においてフィールド・ワークにもとづいた研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑤⑨ 阪本公美子） アフリカに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑥⓪ 松尾昌樹） 中東地域の政治経済に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑥① 髙橋若菜） 環境問題や持続可能な発展に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑥② 清水奈名子） 人間の安全保障に関わる国際機関並びに国際規範に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑥③ 松村史紀） 東アジア国際政治史に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑨② 飯塚(栗原)明子） 防災に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 （ ⑨③ 藤井広重） 紛争後の平和構築と司法の働きに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （⑬ 齋藤　潔） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係るアグリビジネス学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉒　柄木田　康之） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る文化人類学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉓　田巻　松雄） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る国際社会学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉔　佐々木　一隆） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る言語普遍性に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉗　丁　貴連） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る比較文学比較文化に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉘　吉田　一彦） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	グローバル・エリアスタディーズ特別研究	（㉚　中村　真） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る感情と対人コミュニケーションに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉜　湯澤　伸夫） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る音声英語学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉞　松井　貴子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る日本文化に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉟　米山　正文） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るアメリカ合衆国の文化に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊻　三田　妃路佳） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る公共政策や政治過程に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊿　西山(鈴木) 未真） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る地域資源管理論に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 53 児玉　剛史） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る食料経済学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 64 Barbara Morrison） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るジェンダーに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 65 戚　傑） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る多文化教育に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 67 鎌田　美千子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る日本語教育学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 70 Andrew Neal Reimann） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る比較文化論に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ 71 髙山(中村) 道代） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る日本語史，日本語学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	グローバル・エリアスタディーズ特別研究	（ ㉒ 田口　卓臣） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るフランス思想・文学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㉗ 大野(神長) 斉子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るロシア文化・文学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㉘ 出羽　尚） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係るイギリス文化，芸術に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊽ 閻　美芳） 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農村社会学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊾ 立花　有希） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る比較教育学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	
		グローバル・エリアスタディーズ実践プロジェクト	本科目は，修士論文を課さないコースワークを選択する学生が受講し，グローバルな諸問題と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明を，受講者の出身組織が抱える課題あるいはコースの専門教員が掲げる特定課題に沿って実施するとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。コースワークを希望する学生は，入学時点で，上記の課題に沿って，自らの２年間のプロジェクト計画を提示することが求められる。　プロジェクト計画の作成とその実施，修正必要箇所の確認と方針の更新を繰り返し，１年次前期の間にプロジェクト計画を確定させる。主に1年次後期～2年次前期にかけてプロジェクトを実施し，2年後期に実施したプロジェクトの成果についての検証を行う．プロジェクトの実施や成果の検証に必要な文献検討を通じて，成果に結びつくプロジェクトを立案・実施する能力を養う。 　受講者は，プロジェクトを通じて遂行されたグローバルな諸問題の解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明の成果を，ワーキングペーパーとしてまとめ上げる。具体的には，当該実践的活動あるいは，学的解明を先行する研究成果や活動報告の中に位置づけた上で，その対象・方法・プロセスなどを説明した上で，分析・考察・報告などを詳述し，結論づける。以上の作業を担当教員の指導の下に実施する。 （⑯　重田康博） 国際協力に関する政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに、実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑰　磯谷　玲） アメリカ経済および金融市場・制度に関する政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑱　湯本浩之） グローバル教育、開発教育、ＥＳＤなどの地球的課題に取り組む教育活動を調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑲　倪　永茂） 情報ネットワーク技術がグローバル社会に対する影響等に関する政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （⑳　Malee Kaewmanotham） 東南アジアとりわけタイの開発と地域社会に関する政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバル・エリアスタディーズプログラム	プログラム専門科目	グローバル・エリアスタディーズ実践プロジェクト	(㉑　松金公正) 東アジア、特に中国、台湾を中心に、文化、教育、宗教政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (56 sueyoshi Ana) ラテンアメリカにおける社会・経済開発政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (57 栗原俊輔) 国際開発に関するプロジェクトやNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶ。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (58 古村　学) 日本の村落社会においてフィールドワークを行い、村落社会の現状を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (59 阪本公美子) アフリカにおける社会・経済開発政策，NGO・NPO等の取り組み、村落調査を調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (60 松尾昌樹) 中東地域における社会・経済開発政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (61 髙橋若菜) 環境問題や持続可能な発展に関する政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (62 清水奈名子) 人間の安全保障に関わる国際機関並びに国際規範の機能と実行について調査し、国内外における問題解決のための調査・分析方法について学ぶとともに、実践的なコミュニケーション能力や課題発見能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (63 松村史紀) 東アジア国際政治に関する政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (92 飯塚(栗原)明子) 国内外の防災に関する政策やNGO・NPOの取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 (93 藤井広重) 平和構築により直接的に携わる国連平和維持活動をはじめとする国際機関やNGOなどの人道支援団体、また国際的な裁判所の取り組みを調査し、政策立案や国際協力・国際支援のための具体的な手法を学ぶとともに，実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	基盤科目	現代英語研究Ⅰ	現代英語の諸構文や語法・用法などを具体的な対象として、言語の形式と機能の結合様式に見られる画一性と多様性についての言語科学的な接近及び説明，すなわち経験科学としての現代英文法研究―に向けた研究への導入をはかる授業である。当該の言語現象にかかる先行研究の概観や日本語及びその他の言語との比較や歴史的事実の参照の他，英語の使用実態，とりわけ情報構造や発話行為，発話のモード等の機能的・語用論的な観点から興味深い一次資料を例とした事実観察・記述などを通して，英語の文法的諸特性を多面的によりよく理解し考察する方法を学び，言語事実という経験的基盤に立脚した文法記述の姿勢と方法を身につける。合わせて，一般言語理論構築の観点からの文法モデルの基礎的理解や，言語分析に必要な導入的・基礎的専門知識および言語一般に対する科学的思考法を身につけることをはかる。	
			感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ	社会的共生とは、文化、性別、ハンディキャップの有無など異なる背景をもつ複数の集団が、たとえ利害が対立していても相互に排他的にふるまうことなく、一定のレベルで対等な関係を維持しつつ生活している状況である。この授業では、社会的共生の基盤となる感情と対人コミュニケーションに関する研究分野において，とくに表情を媒体にした感情のコミュニケーションに焦点を当てる。まず、感情、コミュニケーション、共感をキーワードとし、これらのキーワードに関する基礎的知見と最新の研究に関する情報を提供するとともに、他者の感情や心理状態への共感のプロセスに関する近年の研究や理論を紹介する。これらの知見と理論に基づき、感情コミュニケーションと共感が、どのように社会的共生の実現に貢献しうるのか、もしくは阻害要因として作用するのかについて検討する。	
			日本表象文化研究Ⅰ	この授業では、ラジオ、テレビ、映画、演劇、文学などあらゆるメディアを横断しながら創作活動を展開した文学者たちの作品を考察する。安部公房、三島由紀夫、寺山修司といった作家たちのさまざまなメディアでの創作表現を、その歴史的背景・社会性・芸術理論・言語文芸論・メディア論などを踏まえ、学際的に分析しながら、高度で多面的な表象文化理解の力を養成する。安部公房は同じ題材・主題を、さまざまにメディアを変換しつつ実験的に展開していくことに熱心であり、ここでは文学とラジオ・映画との比較メディア論を試みることになる。また三島由紀夫をめぐっては、能や歌舞伎など、日本の古典を現代的な視点から、あらたな映画・演劇作品として創作していった事例について、「古典の再創造」という観点からも考察する。寺山修司については、ラジオドラマから映画・演劇への展開を、その実験理論とあわせて考察することになる。	
			グローバル化と国際的な人の移動Ⅰ	国際的な人の移動をめぐるアジア地域の今日的な（おおよそ25年）状況や問題点を大まかに探ったうえで、日本における外国人労働者問題と外国人児童生徒教育問題を中心に「地域のグローバル化にどのように向き合うか」について考える。外国人労働者問題については、「単純労働力分野」を主に担ってきた非正規滞在者、日系人、研修生・技能実習生の動向を整理し、「単純労働力分野での外国人の就労は原則認めない」としてきた日本の政策が生み出してきた問題や課題を見る。外国人児童生徒教育問題については、外国人労働力の受け入れを曖昧に進めてきた日本の政策が外国人児童生徒教育問題を生み出してきたことを明らかにするとともに、特に日本語指導を必要とする外国人生徒の高校進学が厳しい現実を主に「適格者主義」等の制度的な観点から問題視する。その上で、都道府県単位で実施されているポジティブ・アクションとしての進路保障の実態・成果・課題について検証する。	
			日本語論述表現法Ⅰ	本講義は、日本語で学術的なレポートや論文を作成するために必要な知識と表現技術を学ぶものである。その中でも、１）論理学の基礎とそれを応用した論述法、および、２）明瞭であいまいさのない文章の作成法を主たる内容とする。１については日本語母語話者の受講者と非母語話者の受講者とで異なる点は何もないが、２についてはコミュニケーション経験や登録時の日本語表現力に応じて目標設定をする。論文の各構成要素の有無や、注の内容、および注と文献情報の論文中の位置などは、研究分野ごとに異なっているので、受講者各人が自身の研究分野の代表的な論文の実物を持ち寄り、比較することで分野ごとの特徴をつかむとともに、効率性の観点からの検討も行う。また、その論文で行われている論証に関して、説得性の観点からの分析を行う。さらに、課題作文を行い、教師の添削を受けて改善を試みることで、説得性のある文章表現力を身に付ける。	講義　11時間 演習　4時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要					
（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	基盤科目	多文化教育研究Ⅰ	経済のグローバル化・ボーダレス化が進むにつれ、民族・文化等の違いがより強く意識されるようになってきている。従来、多文化論は、異なる文化背景を持つ人間同士が相互に「交流・理解できること」を前提に展開されてきた。ところが、紛争の絶えない世界の現実から、他者を理解したつもりのミスコミュニケーションが他者を理解する障害になるとも考えられる。そこで、本講義では、「理解可能な他者」を前提とすることよりも、越えられない「文化的な溝」について、歴史的、社会的および教育的見地から分析を試みると同時に、異なる民族や異なる文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と、その実現を確固たるものにするための教育の有り方について探求する。多文化教育の理論や方法論，日米欧における多文化教育の共通点・相違点が生まれた社会的・歴史的背景についても考察を加える。	
		応用科目	現代英語研究Ⅱ	一般言語理論の枠組みに立脚した現代英語文法の記述と説明という目標に向けた研究の従来の成果の概観的理解と今後の展望を探るための方法論を学ぶとともに，現代英語の総合的な言語科学的理解をはかるためのやや発展的な授業である。「現代英語研究Ⅰ」に引き続き，英語の諸構文や語法・用法などを具体的な対象として、言語の形式と機能の結合様式に見られる画一性と多様性を説明するための文法記述や理論モデルを追究する。とりわけ，情報構造や発話行為，発話のモード等の機能的な観点から興味深い事実に着目し，一次資料を活用した事実観察に基づく経験的基盤の強固な文法の記述及び説明を模索し，あわせてそのような観点からの現代英語の実態的な姿を幅広く理解する。また，発達心理学的な観点を取り入れた文法モデルという理論的観点から，構文間の関連や意味・機能や語用論，言語運用の観点を重視した事実観察及び文法記述の実際について学ぶ。	
			感情コミュニケーションと社会的共生Ⅱ	感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰでの学習を踏まえ、異なる背景をもつ複数の集団が相互に排他的にふるまうことなく、一定のレベルで対等な関係を維持しつつ生活している状況としての社会的共生を阻害する問題について分析し、対応策を立案するための能力を身につける。いじめ、差別、ヘイトスピーチのような社会的排斥行動の状況とその背景にある、感情や共感性の問題を取り上げ、最新の研究成果を確認するとともに、その成果に基づいて対応策を議論する。具体的な対応策の例として、社会的排斥行動を予防するための教育モデルの立案を検討する。その際、感情コミュニケーションの基礎である感情コンピテンス（感情の読み取り、表出、制御など）と道徳性を育成するための教育に注目し、その現状を確認しつつ、より適切な教育モデルを構築することを目的とする。	
			日本表象文化研究Ⅱ	この授業では、ラジオ、テレビ、映画、演劇、文学などあらゆるメディアを横断しながら創作活動を展開した文学者たちの作品を考察する。秋元松代、三島由紀夫、寺山修司といった作家たちのメディア表現を、その歴史的背景・社会性・芸術理論・言語文芸論・メディア論などを踏まえ、学際的に分析しながら、高度で多面的な表象文化理解の力を養成する。秋元松代はラジオドラマ・テレビドラマを重厚な戯曲へと発展させた。三島由紀夫については小説を自ら脚本・監督を手がけて映画化した事例を扱い、文学と映画との比較考察を試みる。寺山修司は、従来の映像概念・演劇概念を解体していくような実験的な創作活動を展開しており、その解読は芸術理念そのものの問い直しへと通ずるだろう。寺山が草創期のテレビ・ドキュメンタリーの分野において果たした歴史的・社会的意義についても考察を深めることになる。	
			グローバル化と国際的な人の移動Ⅱ	1980年代後半から国際的な人の受け入れが顕著になった東アジア（日本・韓国・台湾）を取り上げ、比較検討する。主な比較事項として、外国人労働者受け入れ政策、非正規滞在者問題、研修生・技能実習生、介護労働者を取り上げる。日本・韓国・台湾は世界的な動向からみれば外国人労働力受け入れの後発国であり、極めて厳格な管理政策を取ってきた。この管理政策がどのような問題と課題を生み出してきたかについて検証する。非正規滞在者問題については、資本が労働力をグローバルな観点から編成することと国家が国境を超える人々の移動を制限することとの乖離という視点から分析する。技能実習生については、「不自由な労働者」としての問題性を分析する。プッシュープル理論、移民ネットワーク論等の理論の妥当性と課題も検証する。各国の特色を捉えるとともに、東アジア的な特色も理解するために、欧米との比較も行う。	
			日本語論述表現法Ⅱ	本講義は、日本語で学術的なレポートや論文を作成するために必要な知識と表現技術を学ぶものである。その中でも、１）科学的思考法・探究法と論述との関連、２）論述に役立てるべき言語表現技術を主たる内容とする。１については日本語母語話者の受講者と非母語話者の受講者とで異なる点は何もないが、２についてはコミュニケーション経験や登録時の日本語表現力に応じて目標設定をする。論理学の基礎である演繹的証明を復習し、帰納的な方法としての質問紙調査や聞き取り調査のあり方について学ぶ。これをもとに、論文の実例を分析して論証の妥当性を検討し、作文練習をとおしてさまざまな論証技法の習得を目指す。さらに、学術的な文章作成のための接続表現や文末表現の使用法を学び、作文練習のなかで意識的に使ってみることで、それらの表現の獲得を目指す。	講義　4時間 演習　11時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	多文化教育研究Ⅱ	本講義では，異なる民族や文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と，その実現を確固たるものにするための教育の有り方について探求する。講義は三部構成からなる。第一部では、「文化」や「多文化」などについての内包と外延を再確認するすると共に、現在日本における多文化論争・多文化教育の現状を整理し、欧米における多文化論争・多文化教育の現状と比較検討する。第二部では、日米欧における多文化教育の共通点・相違点が生まれた社会的・歴史的背景について検証を行う。第三部では、「理解可能な他者」を前提とする多文化教育論から、越えられない「文化的な溝」を直視する多文化教育論まで、多様な多文化教育理論と方法について紹介し、日本の文化・歴史に照らし合わせてその可能性と限界について考察を加える。	
			国際交流と日本語教育Ⅰ	本講義では、いわゆる「日本語教育学」の内側に止まらず、言語・学習・教育を対象としたさまざまな研究領域の成果に学び、各受講者が自身の研究テーマとの関連で、現今の国際社会において〈日本語で意思疎通する〉ことの意義を明確にし、理解を深める。海外へ出てネイティブの日本語教師として活動する可能性のある人、および、帰国後に自国学習者に日本語を教えたいと考える留学生に対し、ひとつの問題発見・問題解決の場を提供する。言語コミュニケーションの特質について再考し、外国語教育学において重視されがちな4技能のバランス良い発達という方向性を懐疑的に見直す。また、世界の言語政策（特に言語普及政策）に関する資料購読とディスカッションをし、学習者にとってのニーズに関して考察する。さらに、中･上級の長文読解･聴解問題を取り上げ、文化論的検討を行うとともに、日本語能力を測る手段としての妥当性を検討する。	講義　11時間 演習　4時間
			国際交流と日本語教育Ⅱ	本講義では、いわゆる「日本語教育学」の内側に止まらず、言語・学習・教育を対象としたさまざまな研究領域の成果に学び、各受講者が自身の研究テーマとの関連で、現今の国際社会において〈日本語で意思疎通する〉ことの意義を明確にし、理解を深める。海外へ出てネイティブの日本語教師として活動する可能性のある人、および、帰国後に自国学習者に日本語を教えたいと考える留学生に対し、ひとつの問題発見・問題解決の場を提供する。日本政府の言語普及活動とそこにおける日本語能力のレベル設定に関する資料購読とディスカッションをすることで、妥当な学習成果の評価方法について考える。また、日本語とそれ以外の受講者の母語とを比較対照し、学習上の難点とされることの特質と原因を明らかにする。さらに、中･上級の長文読解問題を取り上げ、文化論的検討を行うことで言語理解とそれを助ける文化背景に関する知識との間の関係について考察する。	講義　4時間 演習　11時間
			アメリカ文化研究Ⅰ	アメリカ合衆国の文化や歴史について多元的な観点から概観する。特に民族的また地域的な多元性について考察する。言語については米国英語の歴史的発展（イギリスからの移民英語の混交と変遷）と地域的拡散、地域については北東部、南部、中西部、西部、（南西部）の歴史的発展、宗教については、北東部における清教徒の伝統、英国国教会以外の各セクトの移住と拡散、カトリックへの排斥、ユダヤ教の北東部を中心とした広がり、イスラム教など多元的に扱うが、市民宗教や国民統合としてのキリスト教の役割も考察する。さらに、思想については、米国で生まれたプラグマティズムの発展に注目し、民族については、旧移民（北西ヨーロッパ系）と新移民（南東ヨーロッパ系）、先住民、アフリカ系米国人、アジア系（主に日系）、ユダヤ系、アラブ系、ヒスパニック系などの多元的歴史を考察する。	
			アメリカ文化研究Ⅱ	「アメリカ文化研究Ⅰ」で学んだ知識をもとに、さらに合衆国の文化や歴史について、民族多元的な観点から考察する。まず植民地以前の先住民社会、スペインやフランスの植民を概観したうえで、英国植民地の起源と発展、その中での民族的分布や歴史を考察する。その際、奴隷としてアフリカから「動産」として運搬された人々も対象とする。次に、独立時、独立戦争における民族的な関わりを分析する。さらに19世紀前半、旧移民を中心としたナショナリズムと膨張主義の中での人種という疑似科学の発展、奴隷制の拡大、先住民の強制移住、メキシコ系の排斥などを扱う。19世紀後半から20世紀にかけては「新移民」（南東ヨーロッパ系）の流入による新たな民族構成と民族排斥、中国系や日系移民の流入によるそれを同時期の問題として考察する。20世紀後半については、公民権運動とそれがもたらした後半な少数民族の運動を扱う。	
			イギリス文化研究Ⅰ	芸術を中心にして、イギリスの文化を考察する。芸術には、絵画、彫刻、工芸、庭園、建築等が含まれる。文献、画像、映像等の資料を使い、イギリスの芸術の様式に注目して、基本的な情報をまずは確認することが大きな目標となる。これについては、講義が中心となるが、受講生の積極的な発言も求める。次に、イギリスの芸術についての基礎的な情報を元に、文化、芸術について、受講生の関心に基づいて考察・議論することによって、理解を深める。ここでは、とりわけ受講生同士の議論が求められる。議論の際には、イギリスのみならず、他地域の文化、芸術との比較も行う。このことで、イギリスの文化、芸術をより広い視点から理解することにつながる。また、本授業では、芸術作品についての様式分析を議論の中心にすえることによって、フィールドワークを含む専門的な調査研究を行うための基礎的な訓練も行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	イギリス文化研究Ⅱ	イギリス文化研究Iにおいて行った、様式分析に基づいた、基礎的な知識の獲得と議論とを踏まえて、より専門的な研究に進むために、学術文献の精読と発表、18世紀の美術理論書の精読と発表、議論を活動の中心とした演習を行う。あわせて、文化研究においては必須となる、歴史資料（本授業においては芸術作品）の活用についても、フィールドワークの方法論を念頭に議論する。 学術文献は、美術、建築、絵画、装飾芸術について、20世紀のイギリスで書かれた最も代表的な文献を選択する。また、一次資料については、ヨーロッパの議論を基礎に18世紀に理論化されたイギリスの美術理論書の中でも、美術アカデミーにおける基本書とされたレノルズのほか、イギリスの美を考える上での基礎資料であるホガースの理論書を選択する。これらの演習活動を、最終的なレポートにまとめて提出する。	
			フランス思想・文化研究Ⅰ	多国籍化・多民族化・多元主義化する２１世紀のグローバル社会の現実を見据え、複雑な諸仮説やその典拠を検証する「資料批評」の方法を学修するとともに、多文化共生の理念を探究するための知識と思考力の養成を図る。この目的に資するフランスの思想について、本授業では講義形式で取り上げる。具体的には、比較文明論的な視座に基づいて、フランスの合理主義とイギリスの経験主義を思想史的に対照し、西洋社会と未開社会の性習俗を比較する。また、価値多元主義の起源というべき宗教的寛容概念の理解を深めるため、フランスにおけるナント勅令の発布とその破棄に見られる寛容思想の変遷等について検証する。講義の要所要所で、原典の鑑賞を織り交ぜることで、資料批評に基づく多元的視点の意義を理解することを目指す。	
			フランス思想・文化研究Ⅱ	「フランス思想・文化研究Ⅰ」で学修した資料批評、価値多元主義、フランス思想史を核に据えた比較文明論や寛容思想に関する知識を踏まえて、より専門的な研究に進むために、演習形式の授業を通して、一次資料の精読と発表、とりわけ18世紀フランスを代表する思想家たちの小説作品の読解と検証を行う。具体的には、無神論哲学者のディドロが行なった一夫一妻制と多夫多妻制の比較、法社会学者のモンテスキューが行なった統治、習俗、倫理、法、風土等に関する比較文明論的な考察、理神論者のルソーが行なった共同体における「自然」と「人為」の関係性に関する考察について取り上げる。これらの原典の精読を通して、資料批評の実践訓練、価値多元主義的なアプローチを具体的に習得し、その成果を最終レポートでまとめる。	
			西洋史研究Ⅰ	本授業は西洋史・ヨーロッパ史・ドイツ史を専門的に学ぶための演習・授業である。とくに１６世紀から現代までを対象として、具体的には以下のようなテーマ・課題を扱い、文献理解と講義、討論を行い、総括する。（１）西洋史研究の方法、つまり文献探索、論文読解、先行研究理解などを教授すること、（２）宗教改革後のヨーロッパ宗教史を主要国別に整理し、国教会制という制度を理解させること、（３）フランス革命に始まる「世俗化」概念を説明すること、（４）１６世紀から１９世紀における民衆宗教、つまり制度化されたキリスト教とは異質の民衆レヴェルの信仰を説明、理解させること、（５）ドイツを例に、教区教会とは何か、その役割を理解させること、（６）世俗共同体とは別の教区共同体の意味と機能を理解させること、（７）教会が担った洗礼・結婚・葬儀の実態を理解させる。	講義　11時間 演習　4時間
			西洋史研究Ⅱ	本演習は西洋史、ヨーロッパ史、特にドイツ史を専門的に学ぶための授業である。ここではとりわけ、葬儀・埋葬・墓地の歴史について以下のようなテーマ・課題を取り上げ、基礎文献理解と講義、討論等を行い，総括する。（１）ドイツ・カトリック教会の葬儀規定についての理解をはかる、（２）死から埋葬までの過程の実態についての理解をはかる、（３）柵にも囲われず、世俗の様々な事象と混淆していた「荒れた」教会墓地の実態について理解する、（４）宗教改革によって聖人崇拝から解放されたプロテスタント墓地の実態について理解する、（５）１９世紀以降、墓地市街から郊外に移設されていった経緯と意味を理解する、（６）１９世紀の世俗化された墓地の実態を理解する、（７）ドイツにおいて、火葬が始まり、それが普及していく過程と意味を理解する。	講義　4時間 演習　11時間
			性と人権論Ⅰ	セクシュアル・ライツ（性的権利）は基本的人権であり、包括的性教育（comprehensive sexualityeducation）はセクシュアル・ライツを理解し、行使する主体となるために必須である。性に関する必要な知識とスキル、人間関係のあり方についての学びを踏まえ、性的自己決定能力を高めることがもとめられる。そこで本授業は、人間の性と人権を多角的に学ぶことを通して、人権を基軸としたセクシュアリティとは何かを科学的な知識を基に考察し、自らが性的主体者として自己形成をしていくことを目的としている。国際人権規約、女性差別撤廃条約、子どもの権利条約等における人権と性の記述を確認するとともにどのような勧告が出されているかを確認する。生理学的知見から関係性の学び、性の問題まで包括的な内容を押さえる。その際に世界と日本の実情を紹介するとともに、課題を解決するために様々なレベル（個人から政策レベル）でどのような取り組みが可能か具体化することを各回に設定する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	性と人権論Ⅱ	日本において、人工妊娠中絶率ならびに性感染症罹患率、性暴力問題の増加等、性に関わる様々な問題があるにもかかわらず性教育はナショナルカリキュラムとして位置づけられていない。そこで本授業では国際的なセクシュアリティ教育のスタンダード（ユネスコ等）の到達点と課題を確認する。そして栃木県を含む日本における制度上の特徴をインタビュー調査もしくはフィールド調査にて明らかにする。人間の性と人権をより多角的に学ぶことを通して、自らが性的主体者として人権を軸とした社会をどのように創っていけばよいかを具体的に考えることを目的としている。	
			東アジア比較文学比較文化研究Ⅰ	東アジアは植民地支配や戦争の時期を挟みながら、実に多様で豊かな人的かつ知的交流が行われていた地域である。例えば19世紀末から20世紀初頭においては、魯迅や李光洙、金東仁といった中国と朝鮮の若き知識人たちが日本に留学して日本文学や日本語に訳された西欧文学を手掛かりとして「近代文学」のあるべき姿を獲得するなど多くの知的な文学交流が行なわれている。反日政策下で政府同士の公式的な交流が絶たれた戦後においても、個人レベルでの知的な文化交流（映画など）が盛んに行なわれている。21世紀に入ると、韓国や中国、台湾他中華圏では日本のアニメや漫画、ゲーム、ドラマなど日本の大衆文化がブームとなり、とりわけ村上春樹の小説が各国でベストセラーになるなど「日流」とよばれる現象が巻き起こっている。一方、日本でも「韓流」「華流」とよばれる韓国や中国、台湾の大衆文化への関心が高まっている。そうした知的生産性を持った空間として東アジアは捉えられるべきだと考えている。 そこで本授業では、1910年代から20年代、30年代にかけて東アジア各国で翻訳（翻案）発表された日本人文学者の作品をとりあげ、それらの作品が東アジアの知識人たちに受容された背景と意図、そして社会と文化に与えた影響について考察を行なう。	
			東アジア比較文学比較文化研究Ⅱ	東アジアは植民地支配や戦争の時期を挟みながら、実に多様で豊かな人的かつ知的交流が行われていた地域である。例えば19世紀末から20世紀初頭においては、魯迅や李光洙、金東仁といった中国と朝鮮の若き知識人たちが日本に留学して日本文学や日本語に訳された西欧文学を手掛かりとして「近代文学」のあるべき姿を獲得するなど多くの知的な文学交流が行なわれている。反日政策下で政府同士の公式的な交流が絶たれた戦後においても、個人レベルでの文化交流（映画など）が盛んに行なわれている。21世紀に入ると、韓国や中国、台湾他中華圏では日本のアニメや漫画、ゲーム、ドラマなど日本の大衆文化がブームとなり、とりわけ村上春樹の小説が各国でベストセラーになるなど「日流」とよばれる現象が巻き起こっている。一方、日本でも「韓流」「華流」とよばれる韓国や中国、台湾の大衆文化への関心が高まっている。そうした知的生産性を持った空間として東アジアは捉えられるべきだと考えている。 そこで本授業では、韓国や中国など東アジア地域の近代文学の成立に深く関わった日本近代文学者の中でもとりわけ有島武郎に注目し、東アジアの近代文学者たちが有島武郎の何を、そしてそれをどのように受容したのかを解明することによって、「アジアの欠落」が指摘される有島武郎が東アジアの知識人たちと問題意識を共有していたことについて考察を行なう。	
			人権と法Ⅰ	われわれは、死刑制度、夫婦同氏制度、犯罪の被疑者の実名報道等、わが国で採られている制度や社会事象について、それを「当然のこと」ないし「絶対的なもの」として受け入れてしまいがちである。本講義では、まず、六法全書の使い方、文献収集およびリーガルリサーチの方法などの法学を学ぶ基礎を修得したうえで、法の解釈や法的意見表明の技術について学修する。 次に、わが国の法制度や社会事象を、憲法の人権保障の視点や国際的な議論などを踏まえて検討する。わが国の判例および学説の批判的考察ならびに比較法的観点からの考察を通じて、現行制度は法の理念に沿って運用されているのか、実務と理念との乖離はなぜ生じるのか等を検討したうえで、法の理念から「本来あるべき姿」を追究する。 なお、授業で取り上げるテーマについては、受講生との相談により決定する。	
			人権と法Ⅱ	わが国で採られている法制度は、われわれ主権者の選択の結果である。例えば、死刑制度に関しては、存置論および廃止論が存在するが、現在、死刑が存置されているのは、主権者の「存置すべき」という決断の結果である。しかしながら、その選択は、果たして「正しい」選択だったのか？対立する見解を十分検討し、メリット、デメリットを比較衡量したうえでの決断だったのか？憲法の人権保障の観点や国際的な議論を十分考慮した決断だったのか？ 現在、われわれが直面する問題には、いずれの選択にも、それを支える「正しい」根拠がある。しかし、われわれは、相反する正しい見解の中から、主権者としてひとつの答えを選択しなければならない。 本講義では、受講者が選択したテーマにつき、自己の主張を支える根拠を徹底的に調査し、検討を深める態度を修得するとともに、なぜ社会がそのような選択をしたのか、その選択は果たして適切なのかを法の理念から考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	ジェンダーとアイデンティティⅠ	この授業はジェンダーというテーマについて受講生が議論できるようにするための基礎的な文献や語彙を学ぶことを目的とした授業である。ジェンダーを論じる際、アイデンティティがどのように構築されるかという問題を議論してゆくが，より具体的には，フェミニズムの概観・俯瞰をはかりつつ，フェミニズムと世界の歴史的な事象や公民権などを巡る社会的変動との関連にかかる具体的な課題や論点，フェミニズムのこれまでの潮流と歴史的展望等についての理解をはかり、さらに，ジェンダーは受講生１人１人に関わるテーマでもあるという観点から、文献輪読解題や発表活動を通して受講生が批判的考察ができるよう促進する。その際、受講生がグローバルな視点を身につけると同時に、地域的な問題にも関与できるようになることも促進する。	
			ジェンダーとアイデンティティⅡ	この授業は「ジェンダーとアイデンティティⅠ」の履修を踏まえて、ジェンダーというテーマについて受講生がより専門的な議論できるようにすること、そのためにより専門的な文献や術語、概念，思考法等を学ぶことを目的としている。より具体的には、LGBTQI、性的アイデンティティ、女らしさと男らしさ、性的スペクトラム、男性上位社会を巡るテーマ・課題を論じる。ジェンダーは受講生１人１人に関わるテーマでもあるとの観点から、文献解題や郎論，報告・発表等の主体的な活動を通して，ジェンダーとアイデンティティの構築という問題について、受講生が批判的考察ができること、またその際、受講生がグローバルな視点から、地域レベルでも生産的な活動ができるようになることを促進する。	
			シティズンシップ教育Ⅰ	定住する外国人の増加や2020オリンピック・パラリンピックを契機とした多文化共生社会推進の機運の高まりを受け、多文化共生社会を形成する一員としての意欲や態度としてのシティズンシップ(市民性)を理解し、シティズンシップを育成するための教育、すなわちシティズンシップ教育が必要となってきている。本講義ではこのような社会の要請を前提に、シティズンシップ教育の在り方や進め方について理解を深めるために、主として日本での現状について文献や資料を読み議論を深める。また、日本のシティズンシップ教育の議論に影響を与えている英国におけるシティズンシップ教育の展開や、シティズンシップ教育の具体的実践領域として主権者教育、福祉教育、サービスラーニング、ボランティア学習をとりあげ、実践上の課題についても検討する。	
			シティズンシップ教育Ⅱ	本講義では、シティズンシップ教育Ⅰの理解を前提として、社会の形成に積極的に関わっていくことのできる人間の育成をめざすシティズンシップ教育への理解を深めることを目的とする。シティズンシップ教育が内包するシティズンシップの捉え方は多様であり、シティズンシップ教育を理解するためにも詳細な概念の検討が必要である。そこで本講義では英国のクリックレポート、オスラー、スタキーの『シティズンシップと教育：変容する世界と市民性』、小玉重夫の『シティズンシップの教育思想』などの文献の講読や受講生同士の討論を通じて、シティズンシップ教育で獲得されるべきとされるシティズンシップ(市民性)をどのように捉えるべきかを検討する。	
			日本文学研究Ⅰ	日本近代文学のメインジャンルとなった「小説」は，同時代の社会と深く切り結んで創出された。どんなに独創的な作家といえども時代と無関係ではない。むしろ独創的表現者は，時代の変化を鋭敏に捉え，独自の観点で作中に取り入れ，虚構の生成を通して様々な社会問題への批評的視点を提示している。本授業では，明治・大正・昭和戦前期にかかれた短篇小説を，年度毎のサブテーマに応じて，複数編取りあげ,同時代評や先行研究を提示しつつ,作中に描かれた社会事象や文化（戦争・法律・婚姻・教育・労働・職業・衛生・医療・交通・犯罪・出版・ジャーナリズム・思想・学術・芸術・芸能・観光・性風俗・服飾・食文化・建築などなど）への注釈的検証を行い,作品の表現機構を読み解くことで,文学と時代との関わり,その批評性を具体例に則して考察する。	
			日本文学研究Ⅱ	文学作品は時代と切り結んで生成される。どんなに独創的な作家といえども時代と無関係ではない。むしろ独創的表現者は，時代の変化を独自の観点で鋭敏に捉え，作中に摂取し，詩的言語を用いた虚構の生成を通して社会への批評性を持ち得ている。本授業では，明治・大正・昭和戦前期の約50年にわたり日本小説界の第一線で活躍し，「古今に独歩する文宗なり」（芥川龍之介）と称された泉鏡花の小説・戯曲を取りあげる。同時代評や先行研究を随時紹介提示しつつ,作中に描出，あるいは引用された事象・事物・文化（戦争・犯罪・貧民・都市・地方・風俗・地誌・災害・服飾・建築・動植物・出版・宗教・教育・学術・芸術・芸能・口碑伝説・歌謡等々）の詳細な検証を行い,作品成立の背景と受容の諸相を多角的に分析し，作品の表現手法や物語機構を読み解くことで,鏡花文学と同時代との関わり，さらには近代日本への批評性を具体例に則して考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	日本文化研究Ⅰ	日本文化は、伝統的には中国からの影響を受け、さらに、西洋からの影響を受けて近代化した。近代化を経て、現代に継承されている日本文化には多文化との融合性が内包されている。その一方で、日本文化には、同質性が高いという特徴があり、日本文化以外の文化、他文化を異文化として認識する傾向が強い。このような特質を持つ日本文化を基盤として、多文化共生を考えるためには、自己と他者の差異をとらえるのみにとどまることなく、他者との異質性と同質性の両面から考察することが重要である。多文化共生に関連する先行研究を検討し、自文化を土台として、他文化を相対化してとらえるための高度な思考訓練を行う。合わせて、文化を形成する重要な要素の一つである言語にも目を向け、日本語に対する感覚を高めることを通して、日本文化に対する理解を深める。日本文化研究と他分野の研究の異質性と同質性を活かし、融合して、多文化環境における日本文化について探究する。	
			日本文化研究Ⅱ	日本文化は、明治時代以降の近代化を経て、現代に至っている。近代化を経て、現代まで継承されてきた日本の伝統文化は、歴史の中で培われた特質を守りながら、新たに異質なものを取り入れることを試み、その享受者や研究者を、日本から世界に広げて国際化した。日本の文化的営為では、自らが存在する現実の世界から得られた素材に、個人の実感が重なり、思索が加えられ、時代の状況、社会の動きが反映される。このようにして、物事の本質をとらえて現前される文化現象では、人間が生きる世界の森羅万象の真実が表出され、普遍性が獲得される。日本文化が、近代化と国際化を経て、どのように多文化性を包含し、普遍性を内包する文化現象となり得て、多文化共生を具現できるか、そして、そこには、どのような限界があるか、先行研究を検討し、考察を進める。また、日本文化の軸となるものとしての日本語についても考察を加え、日本文化における多文化共生について、多角的に探究する。	
			文化人類学研究Ⅰ	文化人類学の理論における文化概念の違いと、それぞれの文化概念の社会背景と役割を、代表的な専門論文の発表・討論によって検討する。文化人類学研究Iでは参与観察に基づくフィールドワークと文化相対主義という近代人類学の理論貢献を検討する。始めに18世紀における「洗練された文化」を批判する生活様式としての文化観の成立、文化の多様性を発展段階とする19世紀文化進化論の成立の意義とこれにする批判を検討する。その後フィールドワークが切り開いた、社会構造の構造機能論的理解、文化を意味の様式の統合と捉える象徴人類学、文化社会多様性を深層構造の変換と捉えるフランス構造主義など、文化相対主義の基盤を構成する代表的な理論を検討し評価する。これらの検討により多文化共生に対する文化人類学の理論的貢献を評価する。	講義　8時間 演習　7時間
			文化人類学研究Ⅱ	フィールドワークと文化相対主義に基づく文化人類学的異文化理解に対するオリエンタリズム批判以降の文化人類学諸理論を検討し、グローバル化によって相互に連結した諸地域の文化を分析する代表的な論文を、受講生による発表と教員指導下の討論によって検討する。始めにグローバル化で変容する地域社会に不変の社会文化統合を想定する本質主義の政治性を批判し、研究者と調査地が協同に参与できる研究を検討する。具体的には、地域のアデンティティの主張が覆い隠す地域階の多様性への注目、資本主義・貨幣の地域社会への浸透と地域の交換システムとの接合、移民と母社会の関係の維持に基づくマルチサイト民族誌の可能性などの新しい民族誌の可能性を検討する。	講義　7時間 演習　8時間
			言語普遍性と英文法研究Ⅰ	多文化共生について考察するには，文化を内包している言語に着目することが有効である。そして，このような性質をもつ言語を研究する場合，すべての言語に共通する普遍的性質を仮定したうえで，個別言語の特徴を捉えていくことが重要である。本授業では，研究科としての言語研究に必要な基本的・一般的な内容の教授に重点を置き，言語普遍性の考えに照らして，英語という個別言語に焦点をあてて考察していく。具体的には，多文化共生における英語の役割，英語に見られる基本語順などの文法，子音と母音・文アクセント・イントネーションなどの音声，意味や文化背景を担う語彙，意味と形式の対応関係，英語によるコミュニケーションの観点から論じていく。また，こうした観点から英語と日本語などの言語比較を行い，外国語学習のための英文法についても取り上げる。最後に言語に関する課題の提出を求める。	
			言語普遍性と英文法研究Ⅱ	生成文法，言語普遍性，意味機能や外国語教育の立場からアプローチする英文法研究に関する各文献を英語の原書で読み、講義も行う。具体的には，生成文法の原理とパラメターによる英文法の分析，言語類型論に見られる言語普遍性，語用論や認知言語学が扱う意味機能を重視した英文法，外国語学習のための英文法について取り上げる。また，多文化共生と言語の関係にも留意する。さらに、受講者ひとり一人に現在興味をもっている文献を選んでもらい、内容についての報告を求めてからクラス全体で討論するという場も設ける。 こうした個人別の文献購読では，対象言語を英語に限定せず，理論的な枠組みも任意とする。英語と日本語などの言語比較，言語と文化の関係，多文化共生における言語の役割，外国語教育を扱った文献なども可能とする。最後に言語に関する小論文の提出を求める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	英語音声学Ⅰ	英語の音声に関する文献を読んだり，実際の音声を聞いたりしながら，英語音声学の重要な概念を英語音声と英語音声教育の両面から学修する。本コースでは，英語音声では，生成，知覚，強勢，リズム，イントネーションに焦点を当て，英語音声教育では問題点と方法論に焦点を当てる。扱う文献をもとに，受講生が英語を学習する際に，母語の影響のためにモデルとしている英語音声とどのような違いが生じているか，また，どのくらい正確に英語音声を修得すべきかなど受講生が現実に直面する課題に関する議論も行う。受講に当たり，英語の発音記号が正確に読めることと，標準イギリス英語と標準アメリカ英語の音声に関する知識とある程度の運用能力を前提条件とする。文献の内容を単に理解するだけでなく，書かれている例文を正確に読めることも重要な学修項目である。そのため，発表では発音の正確さも評価対象とする。	
			英語音声学Ⅱ	英語音声学Ⅰで学修した英語のイントネーションに関して，指定教科書と付属の音声資料を活用しながら，詳細に学修する。教科書に基づき授業を進めるので，教科書の購入は必須である。本コースでは教科書の説明に従い，英語のイントネーションをtone（音調），tonicity（音調核の位置），tonality（音調単位への分割）という概念に分け，その順番で多くの例を用いながら分析する。英語のイントネーションの特徴を正確に理解することに加えて，音声資料に録音されている例文を正確に聞き取り，モデルと同じように発音できることも重要な学修項目である。さらに，録音されていない例文を，そのイントネーション記号を見ながら正確に発音できることも大切である。そのため，発表では発音の正確さも評価対象とする。本コースで学修する英語のイントネーション理論を英語教育にいかに応用できるかに関しても議論を通して考える。	
			英語学研究Ⅰ	英語統語論と英語形態論への理解を深めながら，一般文法理論とのかかわりにも注意を払う。研究活動への基礎を固めるために，専門文献の読解力を養いつつ，いくつかの主要なアプローチについて，思考法の要諦を学ぶ。その際，現代英語を具体例に取り上げながら考察を深めるが，本コースで特に注意を払う点として，話し言葉と書き言葉の対比，標準的な言葉と非標準的な言葉の対比，自発的な言葉と準備された言葉の対比，および文法と使用（用法）の対比を挙げることができる。このような点から得られる知見は，構文，オンラインでの処理，言語類型論，第一言語習得理論などの様々な領域において，自発的な話し言葉の研究が不可欠であるということである。授業は主として講義形式であるが，第一次言語資料分析の練習を含むため，参加者は新聞，小説，脚本，会話の記録，映画，ラジオなど，英語の実態を広範に観察することが要求される。	
			英語学研究Ⅱ	現代英語を具体例に取り上げながら，統語論・形態論・意味論の概要を学び，いくつかのトピックについて各論的研究を行う。その際，現代の主要な文法理論を概観しながら，それらの問題点を指摘し，その代案となる内包的・非自律的・動態的な文法理論の可能性を探る。言語類型論・認知言語学・発達言語心理学・通時言語学の成果を援用する。より具体的には，英語学研究Iに引き続き，自発的な話し言葉に対して特に注意を払う。自発的な話し言葉における節や句などの統語構造は，規則的な生起が認められ，パフォーマンスにおける誤りとは捉えられず，また書き言葉における統語構造とその複雑性や種類が大きく異なる。また，自発的な話し言葉におけるディスコースの体系も，書き言葉におけるそれとは異なり，独自の組織化を行っている。授業は主として講義形式であるが，第一次言語資料分析の練習を含む。	
			植民地教育史Ⅰ	本授業では、多文化共生問題の起源の一つとも考えられる植民地・占領地とその経営に関して、特に永続的な植民地・占領地支配に不可欠と考えられてきた教育の問題に注視して、植民地教育史を取り上げる。とりわけ内地の実験地として知られる「満洲国」と比較、植民地・占領地経営の産業開発・治安維持として重要な機能をもつと考えられた職業教育・訓練の位置づけ及び内容に留意する。そして、（1）植民地・占領地問題の過去と現在、（2）わが国の植民地・占領地支配と教育の概要について、歴史的背景、現代との連続性・現状、論点、課題がわかるように講義を行う。また併せて、各回の授業において、関連するテーマの代表的な先行研究を批評し、研究の余地も明らかにしながら当該分野の研究を行うための準備ができるようにする。毎回の授業では受講者による意見発表・意見交換を行い、自ら考えざるを得なくなる機会を設け、理解を深めるようにする。	
			植民地教育史Ⅱ	本授業では、多文化共生問題の起源の一つとも考えられる植民地・占領地とその経営に関して、特に永続的な植民地・占領地支配に不可欠と考えられてきた教育の問題に注視して、植民地教育史を取り上げる。特に内地の実験地として知られる「満洲国」との比較、植民地・占領地経営の産業開発・治安維持として重要な機能をもつと考えられた職業教育・訓練の位置づけおよび内容に留意し、（1）わが国の植民地支配のモデルとなった台湾の植民地化、（2）台湾と朝鮮の統治方法の違い、（3）「満洲国」支配の方法について、歴史的背景、現代との連続性、論点、課題がわかるよう講義を行う。また併せて、各回の授業において、「植民地教育史Ⅰ」よりも詳細に関連分野の先行研究を紹介し、当該分野の研究を行うための準備ができるようにする。「植民地教育史Ⅱ」においても、毎回の授業において受講者による意見発表・意見交換を行い、受講者の理解が深まる配慮をする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ	本授業では、多文化共生に関して、わが国で現代的な課題になっている「外国人児童生徒教育」の問題を取り上げる。そして、（１）国際的な移民問題、（２）日本における在日朝鮮人と彼らに対する教育、（３）ニューカマーと彼らに対する教育、（４）就学や高等学校・大学進学問題、（５）先進地域（愛知県豊田市・小牧市、神奈川県大和市など）の教育実践、特に母語・母文化教育を重視し、より自分らしく生きられることをめざした教育実践、等に関して、意義、歴史的背景、現状、論点、課題がわかるように講義を行う。また併せて各回の授業において、関連するテーマの代表的な先行研究を批評し、研究の余地も明らかにしながら当該分野の研究を行うための準備ができるようにする。毎回の授業では受講者による意見発表・意見交換を行い、自ら考えざるを得なくなる機会を設け、理解が深まるようにする。	
			外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅱ	本授業では、わが国で「外国人児童生徒教育」として現代的な課題になっている、多文化共生に関する課題を取り上げる。そして、「外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ」での学習を基礎として、（１）適応指導・日本語指導・アイデンティティー形成のための指導の内容と方法、（２）日本語指導教室の果たしている役割および同教室の運営、（３）学級・ホームルーム担任の指導のあり方、（４）学校の指導体制・教育委員会等の教育行政の役割、等に関して、意義、歴史的背景、現状、論点、課題がわかるように講義を行う。また併せて各回の授業において、関連するテーマの代表的な先行研究を批評し、研究の余地も明らかにしながら当該分野の研究を行うための準備ができるようにする。毎回の授業では受講者による意見発表・意見交換を行い、自ら考えざるを得なくなる機会を設け、理解が深まるようにする。	
			芸術学研究Ⅰ	美術史・芸術学の体系的知識を軸として、美術史の変遷における近現代の美術概念の変容などを主要なテーマとして取り上げる。歴史と理論から美術作品と文化の生成を探究する。日本と西洋の近現代美術を対象に、個別の作家の作品変遷、複数の作家間、時代、文化の異なる作品等の比較研究を取り上げる。日本美術では、特に明治期から今日までの美術受容に焦点をあて日本における美術概念の生成とそれにかかわる作品や歴史的な変遷について捉える。そのために西洋美術史の詳細な理解を基盤とし、日本と西洋の美術の比較から、差異、独自性,共通性を導き出す。また、美術史学の成立とその変遷を各時代の概念から理解し、今日、美術史･芸術学に取組む上で必要な方法論を探究する。講義に加え、毎時間のテーマに沿った小レポートの発表と意見交換により、専門的な理解を深める。	
			芸術学研究Ⅱ	美術史・芸術学の体系的理解を活用し得る専門性の獲得を目指す。芸術学研究Ⅰで取り上げた近代の美術概念の変容を発展的に扱い、日本と西洋の美術の交流、日本における近代の西洋美術受容などを主要なテーマとし、歴史と理論から美術作品と文化の生成を探究する。日本と西洋の近現代美術や芸術学緒論の専門的な学的考察を行なう。近代を節目とする美術概念の大きな変容を歴史と理論、個別の美術作品から探究し、今日の美術が近代までの様式概念や近代以降の諸芸術運動とは異なる地平で展開されている状況を考察する。また、日本と西洋の対比的な見方に加え、美術におけるグローバリズムと個別性(地域性)を学術的に捉える。美術史･芸術学の文献屋や諸理論を、受講者の関心に基づく専門的研究に取り入れることができるよう学術研究にあたるための素養を高める。	
			音楽創作文化研究Ⅰ	人類の悠久の歴史において、音楽創作（作曲）行為が連綿と続けられてきた。それは、言葉に依らない修辞学（wordless rhetoric）、すなわち、表現の対象や自己の内面的真実や思考を相手（受容者・聴き手）に対して感覚・観念の両面から説得力をもって伝達するための行為、およびその技術にほかならない。そのような音楽創作が、人と人とのコミュニケーションおよびそれによって成立する文化的社会において、どのような意味を持つのかを探求する。中世から現代までの1000年以上の時間的範囲にわたる西洋音楽を中心とした歴史的なレガシー（各々の時代を代表・象徴する音楽作品）を教材として、その時代背景（社会的情勢および時代ごとの音楽理論の状況）を踏まえながら、作品の純音楽的な構造（作曲法や形式論）を分析することにより、それらのコミュニケーション媒体としてのありようを探り、それぞれの音楽創作の持つ文化的・社会的意味を考察する。	講義　7時間 演習　8時間
			音楽創作文化研究Ⅱ	人類の悠久の歴史において、音楽創作（作曲）行為が連綿と続けられてきた。それは、言葉に依らない修辞学（wordless rhetoric）、すなわち、表現の対象や自己の内面的真実や思考を相手（受容者・聴き手）に対して感覚・観念の両面から説得力をもって伝達するための行為、およびその技術にほかならない。そのような音楽創作が、人と人とのコミュニケーションおよびそれによって成立する文化的社会において、どのような意味を持つのかを探求する。「音楽創作文化研究Ⅰ」におけるレガシー（西洋音楽史上さまざまな時代を代表・象徴する音楽作品）の分析・考察を踏まえ、当授業では、多様な作曲法や形式理論を駆使して、音楽創作を実践する。それにより、音楽創作のコミュニケーション媒体としてのありようを探り、音楽創作の持つ文化的・社会的意味を、実際の行為を経験することを通して考える。	講義　4時間 演習　11時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	西洋近現代哲学研究Ⅰ	「西洋」とは何か、「哲学」とは何か、という大前提を問うことから始め、次に、古代ギリシャから現代哲学にいたるまでを概観する。その際、ヘーゲルの『歴史哲学講義』（英訳と日本語訳を併用）を講読しながら、哲学史そのものの意味についても考える。その上でとくに「近代」と「現代」に着目し、「科学」と「自由」を主軸に、「西洋哲学」の本質およびその問題点を探っていく。併せて、古典テキスト（カント「啓蒙とは何か」）、および、現代哲学のテキスト（ヨナス『責任という原理』）を講読する（英訳と日本語訳を併用）。そのことを通じ、先人たちの哲学・思想と現代社会に生きる我々のそれとの比較および前者から後者への影響について考えながら、我々が直面する現代社会における応用倫理の諸問題（生命倫理・医療倫理・環境問題・情報倫理等々）を最終的に考察する。	
			西洋近現代哲学研究Ⅱ	「西洋哲学史研究Ⅰ」の講義を前提に、引き続き「近代」と「現代」の哲学に着目し、「科学」と「自由」を主軸に、哲学的思考法を身につける。そのために、専門テキスト講読に取り組む（ヘーゲル『精神現象学』『大論理学』および、ヨナス『生命の哲学』）。哲学のテキスト(英訳と日本語訳を使用）は、早く多く読むことは求められず、むしろ、少しずつ一つ一つの「概念」の意味を履修者相互の対話を通じてじっくり読む説くことが目指される。テキストの選択は、履修者の希望関心に応じて変更する場合もあるが、いずれにしても、哲学・思想のテキスト講読を通じ、「問題」を言葉で論理的に整理し、その言葉ないし概念が担う哲学・思想史的背景を学ぶ。最終的には、現代社会が直面する応用倫理の諸問題（生命倫理・医療倫理・環境問題・情報倫理等々）にアプローチするための一つの手立てとして、「生命とは何か」という問題を、哲学の立場から学際的視点において考察する。	
			日本史研究Ⅰ	本授業では、日本史の原始・古代、中世、近世、近現代の各分野における最新の専門書や学術論文を読解し、日本史研究の現場ではどのようなことが注目され、なにが議論されているのかを学ぶ。 近年の日本史研究の現場では、弥生時代の開始期が通説の紀元前3世紀に対して紀元前8世紀までさかのぼるとされたり、源頼朝像と伝わる肖像画が実は足利直義を描いたと考えられると指摘されたり、江戸時代の農民統制法令として著名な慶安の触書が実は存在しなかったとされるなど、従来の通説に対して新たな歴史像・歴史解釈が提起されている。なぜこのようなことが起こるのか、実際に専門書や学術文献を取り上げながら考え、日本史研究の現場を知り、日本史について理解を深める。 各回の授業では、各時代の専門文献の探し方や読み方も解説し、各時代に対する歴史の理解を深める。毎回の授業では教員と受講者の間で議論を行い、研究に必要な力を養う。	講義　10時間 演習　5時間
			日本史研究Ⅱ	本授業は、歴史研究（文献史学）の根幹である史料（古文書・古記録）について、日本史を事例に理解を深めるためのものである。 日本史の研究とは、多くの史料を調査・収集し、解読・分析し、歴史像を構築する営みである。本授業では日本史の中でも江戸時代の古文書を取り上げ、和紙に筆で書かれた文字（くずし字）の解読、その解読を通して活字化された史料の読解、史料の成立事情や内容を考証する史料批判と史料解釈、そして史料から読み取れる歴史像の構築、という日本史の研究現場で行われている一連の過程を学ぶ。 本授業を通して、史料の探し方や読み方、関連する辞書や文献の調べ方という、専門的な技能を身に付けるだけではなく、史料調査・史料解読・史料批判・史料解釈という史料をめぐる日本史研究の一連の過程を体得することで、日本史研究の営みを学び、日本史に対する理解を深める。	講義　10時間 演習　5時間
			日本語教育学研究Ⅰ	本科目では，日本語教育学の研究と実践に関わる専門知識を深めるために，日本語を母語としない人の言語環境や言語使用，言語習得，言語学習をめぐる諸問題に関して理論と実践の両面から考究する。具体的には，以下の二つに取り組む。第一に，多文化共生社会における言語環境として自然習得と教室習得の双方に着目し，第二言語としての日本語によるコミュニケーションの特徴と困難点を言語習得研究の知見に基づき考察する。また，コンピューターを用いた学習環境についても検討する。第二に，日本語を母語としない子どもたちへの学習支援を考えるにあたって，教科書の日本語のどのような点が難しいのか，またどのような解決方法があるのかを，コンテクスト，レジスター，ジャンルといった基本概念を軸に分析する。これらを通して，学習者の多様な教育方法及び教材について自ら考えながら判断できるようになることを目指す。	講義　8時間 演習　7時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	日本語教育学研究Ⅱ	本科目では，日本語教育学の研究と実践に関わる専門知識を深めるために，日本語を母語としない人の言語環境や言語使用，言語習得，言語学習をめぐる諸課題に関して理論と実践の両面から考究する。日本語教育の変遷を見ると，行動主義を基底とする教授法から認知的アプローチ，機能主義的アプローチ，社会文化的アプローチの教授法へと移り変わってきた。各回の授業では，この点をふまえて，各アプローチによる主要な研究事例を概観した後，それぞれの基本概念と内容が実際の教育実践及び教材にどのように反映されているのかを分析し，日本語教育の課題とその解決について議論する。「読む」「書く」「聞く」「話す」を中心とした学習活動のほか，学習者オートノミーの観点から教室の枠を超えた学習についても理解を深め，これからの日本語教育のあり方と方法を探る。	講義　8時間 演習　7時間
			ヨーロッパ表象文化研究Ⅰ	主にロシアを対象に、ヨーロッパ地域を視野に入れながら、19世紀から20世紀における文学・文化を多角的に分析する方法を学ぶ。 講義と合わせ、文学・文化理論の論文を講読し、対象となるテクストや文化事象をそれ自体として精密に分析するため、さらには隣接する諸領域との関連の中で捉え直すために必要な理論を習得する。また、歴史的・社会的事象、当該地域の文化史について、理解を深めるための講義も合わせて行う。 ロシア・フォルマリズムや構造主義、神話理論などを取り上げるが、概論の把握にとどまらず、理論の実践例となる論文の講読を行い、議論を通じて深い理解に到達することを目指す。 受講者には、理論の学習と合わせ、ゴーゴリ、ドストエフスキイの作品を題材に、理論を適用し、その整合性を批判的に検証する分析作業に取り組んでもらい、専門的な研究に向けた思考力を養う。	
			ヨーロッパ表象文化研究Ⅱ	主にロシアを対象に、ヨーロッパ地域を視野に入れながら、19世紀から20世紀における文学・文化を多角的に分析・解読する方法を学ぶ。文学史・文化史の展開を時系列にたどりつつ、ロシア革命やモダニズムなど、各時代に特徴的な社会的事象・方法論を重層的に考察できるテーマを各回に設定し、当該テーマを扱う論文の講読と議論を通じ、多角的に資料を分析する能力を養う。 授業では、論文講読と合わせて、分析対象となる作品・テクスト自体の精読、研究の補助となる一次資料（同時代のメディア、芸術作品、論文等）を分析する。 具体的には、１９世紀末のロマン主義文学から20世紀のロシア・アバンギャルド等の作品を題材として取り上げるほか、同時代の関連する社会、思想等の論文や資料を用いて検討する。受講者には、授業で得た知見を元に、領域横断的な視点を設定した上で作品を分析し、その整合性の検証作業も合わせておこなう。	
			Comparative Study of Contemporary CulturesⅠ	この授業では、ジェンダー、人種、ステレオタイプ、環境、コンフリクトといったさまざまなトピックにふれ、文化やアイデンティティがいかに現代社会において構築され、維持されているかについて理解を深める。それぞれのテーマについて講義を行うが、受講者には自身の経験や研究に基づいて積極的に各テーマに関する理解を深めることが求められる。授業では人類学、歴史学、文学など様々な学問領域を利用し、また様々な方法を分析ツールとして利用する。方法については質的および量的な方法の両方を用い、様々な文化現象を分析し、自文化および他文化の理解を目指す。また、様々な文化の分析や理解のため比較というアプローチを取り入れる。受講生は考察のため現代的な問題に関わる教材を提示される。	
			Comparative Study of Contemporary CulturesⅡ	クラスの多様性を「資源」として用い、ジェンダー、人種、ステレオタイプ、環境、コンフリクトといったさまざまなトピックについて探求し、文化やアイデンティティがいかに現代社会において構築され、維持されているかについてさらに理解を深める。それぞれのテーマについて講義を行うが、受講者には自身の経験や研究に基づいて、各テーマに関する理解を深めることができるよう貢献することが期待される。授業では人類学、歴史学、文学など様々な学問領域を利用し、また様々な方法を分析ツールとして利用する。方法については質的および量的な方法の両方を用い、様々な文化現象を分析し、自文化および他文化のより深い理解を目指す。また、様々な文化の分析や理解のため比較というアプローチを取り入れる。受講生は現代的な問題に関わる教材を提示され、授業では様々な国内外の問題に関する議論を行う。	
			日本語史と日本語研究Ⅰ	この授業では日本語学および日本語史の各領域（音声・音韻、語彙、文法、社会言語学、歴史言語学等）のいずれかの領域に関する基礎的な専門文献をとりあげ（参加者の希望により年度ごとにとりあげる領域を選定する）、文献の精読と検討をおこなう。例えば、文法領域の文献をとりあげる場合、「音韻と文法との関係」、「語彙的なものと文法的なもの」「言語の形式」「語形変化システム」等、各回のテーマを設定し、それぞれのテーマにそって演習形式で授業をおこなう。授業活動をとおして、当該専門領域における学問的状況と課題とを理解するとともに、各自の母語の言語変化に関する現象について主体的に観察するとともに、自らが理解、考察した内容を、他の受講者とともに検討できるように整理し、表現する力を身につける。こうした活動をとおして、主体的に研究を進めていくための思考力、表現力の基礎を養うことを目標とする。	講義　8時間 演習　7時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	日本語史と日本語研究Ⅱ	この授業では「日本語史と日本語研究Ⅰ」で学んだ知識に基づき、言語の通時的変化について一次資料を用いて自ら調査をおこない、現象の背景にある要因について日本語学および言語学の方法を用いて考察する。具体的には、明治期に書かれた言語資料と現代語で書かれた言語資料の対照分析を通じて、近代から現代における言語変化の実態を観察し、その背景となる要因を日本語学および言語学の方法を用いて考察する。言語変化の一例として、接辞における機能変化、単語における形態変化、単語の意味変化、単語の待遇的価値変化、語彙の社会言語学的変化などがあげられるが、上記の言語資料の対照分析を通じてこれらの諸現象を含むいずれかの現象について参加者自身が課題を選定し、調査をおこなうとともに、言語変化の要因について考察し、その内容を整理して授業時に報告してもらう。	講義　7時間 演習　8時間
			古代日本言語文化研究Ⅰ	本授業では、主に上代から平安時代にかけて、日本における言語文化がどのように形成され、どのような特徴を持っていたのかについての基礎知識を習得することを目的とする。 上代以前において、日本列島には固有の文字文化が発達しなかったとされている。日本語が初めて出会った文字は、中国語を書くための漢字であった。この漢字の日本列島への伝来と日本語への受容過程を知ることで、日本語を書く行為の成り立ちと発展を学ぶ。さらに、日本語固有の文字である平仮名・片仮名の成立へとつながる文字文化はなぜ生じたかについても考えていきたい。「漢字文化圏」や「漢文文化圏」と言われる東アジアの東端において、日本語が漢字を用いてどのように固有の言葉を書きあらわしたのか、中国語のための漢字が日本語のための文字へと作り替えられていくその過程と原理について考察する。	
			古代日本言語文化研究Ⅱ	本授業は、「古代日本言語文化研究Ⅰ」の発展的な内容となる。 上代から平安時代にかけて、日本における言語文化は漢字の受容とともに発達した。中国語のための漢字が日本語のための文字へと作り替えられていくその過程と原理が、古代の資料に現われている。例えば、『万葉集』には、表意・表音の各方面における漢字の用法が、かつてないほど多岐にわたって試みられている。また『古事記』には、漢文的な語順や助字の使い方が見られる中で、万葉仮名も用いられるなど、漢文式と和文式の混淆が実現されている。平安時代に成立し平仮名で書かれた『土左日記』には、後の仮名文学作品には見られない漢文の書き方に根差した表現が見られる、などである。 「Ⅰ」で学習した知識を踏まえて、古代日本の言語を反映した実際の資料やそれに関連する論文を読む具体的な活動を通し、内容の理解を深め、それら資料の日本語史的な価値を考察する。	
			グローバル時代の学校教育Ⅰ	グローバル化の進展に伴い、学校教育はどのような変容を遂げてきたのか、どのような変革を迫られているのかについて、比較・国際教育学的視点から検討する。具体的には、OECDのPISAに代表される国際学力調査の影響、国際バカロレア認定校の拡大、増加する移民・難民への教育的対応などを切り口として、各国の取組の個別性および普遍性を明らかにすると共に、グローバルな関係性について考察する。その際に注目するのは、多文化に開かれた市民社会の形成という論点である。言語的、宗教的、社会的に多様な背景を持つ諸個人がひとしく尊重されるために必要な改革について、教授言語が母語ではないこどもの教育や正規の学校とは別の体系に置かれている外国人学校などの事例を通して整理する。また、グローバル人材の育成、シティズンシップ教育などの今日的課題を多文化共生の観点から検証し、多文化に開かれた市民社会のありかたについて検討する。	
			グローバル時代の学校教育Ⅱ	「グローバル時代の学校教育Ⅰ」を受講していることを前提とし、その内容を発展させた講義である。 ドイツにおける理論と実践を中心に欧州の移民教育を比較・国際教育学的視点から分析する。特に、移民背景のある児童生徒の学力向上政策、宗教的多元社会における宗教教育、言語的・社会的・宗教的に多様な背景を持つ子どもの教育に携わる教員に必要な知識・能力という３つの観点を題材として、グローバル時代における学校教育の責務と課題を確認する。これらの今日的課題を含め、ドイツの異文化間教育のこれまでの展開をアメリカにおける多文化教育の歩みと重ねながら把握した上で、欧州レベルの教育政策分析を通じてグローバル時代の学校教育について総合的に考察する。 最後に、日本の現状と課題を国際的視野から検討し、そのあるべき方向性について受講生全員で議論するものとしたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学特別演習	指導教員とのディスカッションを基盤にして，専門知識と技能の深化を図る。主な内容は，次のとおりである。 ●多文化共生に関する先行研究のサーベイを行い，体系的に専門的知識を理解する。 ●多文化共生学の視点から，実態を把握し現状分析するための，適切な資料・データ収集や分析手法について演習を行う。 ●設定した課題に対して，理論と実態・実践との往還を深め，成果の取り纏めと発表を行う。 ●主指導教員と副指導教員は、多文化共生学の分野に関連する学生の研究テーマ・修士論文に即して、ディスカッションやリサーチワーク等を行い、専門知識の深化を図る。なお、境界領域・学際的領域の観点から、グローバル・エリアスタディーズや地域人間発達支援学に関するディスカッション等も含む。 （㉒　柄木田康之） 文化人類学の視点に基づき論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉓　田巻松雄） 東アジア主な対象として、国際社会学的な観点から、多文化共生が問われる社会状況、多文化共生に関する取り組み等を比較検討する。 （㉔　佐々木一隆） 英語や日本語で書かれた言語に関する専門文献を読んで知識を獲得しつつ，学生や教員との討論を通じて課題発見・解決能力やコミュニケーション能力を修得する。理論的考察，資料分析，口頭発表などの機会も設ける。 （㉕　守安敏久） 歴史的・社会的背景を踏まえ，日本の表象文化解読のための多角的な知識と思考を身につける。研究論文を読みこみ，学生や教員等との討論を通じて，多文化共生のための実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉖　下田　淳） 歴史学・西洋史に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉗　丁　貴連） 比較文学比較文化の観点に基づき、東アジアの文学と文化に関連する文献（日中韓の原典）調査と読解能力、専門知識を学ぶと共に、学生や教員との討論を通じて自国文学や民族文学を超えた幅広い視点から東アジアの文学史を包括する考察能力を修得する。 （㉘　吉田一彦） 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉙　鈴木啓子） 多文化共生の観点に基づき，日本言語文化（主に日本近代文学）に関連する文献を博く収集調査するとともに，学生や教員との討議や検証を通して，研究発表や論文執筆の方法とスタイルを修得する。 （㉚　中村　真） 感情と対人コミュニケーションに関する大学院レベルの研究を行うための準備段階として，先行研究の検討とまとめ，研究方法の立案，分析方法の検討などを行う。 （㉛　天沼　実） 英語学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉜　湯澤伸夫） 音声英語学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉝　長谷川万由美） 共生のまちづくり、社会福祉、シティズンシップ教育に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉞　松井貴子） 日本文化を核として，多文化環境における文化の諸様相について考察を進める。日本の文化、社会の動きと関連する事象をとらえ、各自が関心を持つテーマについて、多方面から検討し，発展させる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学特別演習	（㊺　米山正文） アメリカ合衆国の文化に関する論文を調査し課題を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 64 Barbara Morrison） ジェンダーに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 65 戚　傑） 多文化教育に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 66 木下大輔） 史料批判・様式批判およびエクリチュールと作曲法の実践的修業を通して，音楽創作の歴史・理論・実践研究能力を身に付けるとともに，学生や教員等との討論を通じて音楽創作文化をめぐる諸問題の分析・考察能力を修得する。 （ 67 鎌田美千子） 日本語教育学及び関連領域に関する文献講読を通して課題解決手法を学び、専門的見地から分析及び考察できる能力を修得する。研究の進捗を報告し、当該分野における自らの研究の位置づけと意義を明確にする。 （ 68 谷　光生） 現代英語を具体例に取り上げた最近の理論言語学関係の専門文献を取り上げ，研究成果の一端を確認する。資料分析の練習も行う。 （ 69 丸山剛史） 青年と教育、植民地教育史に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 70 Andrew Neal Reimann） 比較文化論に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 71 髙山(中村)道代） 日本語史、日本語学領域の研究論文の分析をおこない、演習をとおして他の受講者とともに検討をおこなう。さらに、演習での検討内容に基づいて１次資料の分析を精緻化し、考察した内容をレポートとしてまとめる。 （ 72 田口卓臣） フランス思想・文学に関連する研究テーマに即して、一次文献（原典）の読解能力、二次文献（学術論文等）の検証能力を修得し、学生や教員等の討論を通じて、資料批評の手法と問題の考察能力を身に付ける。 （ 73 本田悟郎） 美術史、芸術学研究の専門的、体系的知識を獲得し、研究に必要な理論体系の理解を深める。研究対象とする美術作品や美術概念について、各時代の文化状況や現代社会が直面する問題等と照合し、論文や資料等の検討を重ね研究に着手する。 （ 74 山田(高橋)有希子） 哲学と倫理学に関する研究テーマに関連した文献収集と研究方法（質的調査と量的調査）について、学生や教員等との討論を通して学び、個々の課題意識を明確にする。 （ 75 髙山慶子） それぞれの研究テーマに則して，史料（古文書）の読解・分析や，学術文献の講読・批判を行い，学生や教員等との討論を通じて日本史の研究能力を修得する。 （ 76 艮　香織） 性と人権に関する研究テーマに関連した文献収集と研究方法（質的調査と量的調査）について、学生や教員等との討論を通して学び、個々の課題意識を明確にする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学特別演習	（ ㊼ 大野(神長)斉子） ロシア文化・文学に関する研究テーマを、専門領域の文献を読み進め、演習を通じて検討を加えながら深めていく。合わせて一次資料の種類に応じた精読・分析の方法を理論の学習と実践を通じて習得する。 （ ㊽ 出羽　尚） イギリス文化、芸術に関しての研究を進めるが、文献の講読と同時に、芸術作品等の史料を使った文化研究の方法を身に付けるために、実地調査を行い、各自、あるいは共同で調査の準備・報告を行う。 （ ㊾ 黒川享子） 各自の研究テーマに即して、判例や学説の調査や理論的検討を行い、学生や教員等との討論を通じて、自説を確立する。 （ ㊾ 立花有希） 多文化共生の観点から学校教育の現代的課題を検討するために必要な知識と方法を国内外の理論・政策・実践の調査・分析によって獲得する。 （ ㊿ 澤﨑(吉野)　文） 古代の日本語に関する研究書を輪読し、受講者が意見を出し合うことによって、研究対象への見方や考え方を養う。併せて、当該分野の研究における資料の作り方や、議論の方法も学んでゆく。 （④ 中島　望） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る生活文化デザインに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑳ Malee Kaewmanotham） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る東南アジアとりわけタイの開発と地域社会に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊴　小原　伸一） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る声楽発声及び歌唱指導を中心に声楽や音楽学習に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊵　松島　さくら子） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る工芸美術を中心にその表現や材料・技術に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊶　佐々木　和也） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る生活環境学および衣生活を中心に生活科学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊼　若園　雄志郎） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る地域社会教育に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ ㊽ 古村　学） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る日本の村落社会に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学特別演習	（ (60) 松尾　昌樹） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る中東地域の政治経済に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (61) 髙橋　若菜） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る環境問題や持続可能な発展に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (63) 松村　史紀） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る東アジア国際政治に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (80) 川島　芳昭） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る情報科学および情報技術を中心にしたICT活用や開発に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (81) 上原　秀一） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る教育学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (83) 石川　隆行） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る発達心理学および子どもの社会性を中心にした心理学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。具体的には、子どもの社会性について、地域・コミュニティから多文化間にわたる様々なレベルに関する知見と方法を融合し、問題解決に資する論文の作成に向けて指導する。 （ (85) 株田　昌彦） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る芸術学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (91) 平井　李枝） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る音楽表現（ピアノ），音楽教育学および音楽鑑賞法に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ (93) 藤井　広重） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る紛争後の平和構築と司法の働きに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	
		多文化共生学特別研究	「多文化共生学特別研究」は，修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。多文化共生学プログラムを専攻する学生の研究テーマは，政治・経済・文化・教育及び言語分野と広範囲に渡るため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては，到達目標に向けた種々の内容を，研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。２年次前期終了時には，プログラム担当教員の参加のもと，研究成果の模擬報告・発表を行う。世界の様々な国と地域におけるグローバル化と多文化共生に関する現状と課題についての知識を有し、それらの問題構造を理解し、論理的な考察を加えた研究成果を論文としてまとめる。主指導教員と副指導教員は、多文化共生学の分野に関連する学生の研究テーマ・修士論文に即して、ディスカッションやリサーチワーク等を行い、専門知識の深化を図る。なお、境界領域・学際的領域の観点から、グローバル・エリアスタディーズや地域人間発達支援学に関するディスカッション等も含む。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学特別研究	（㉒　柄木田康之） 文化人類学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㉓　田巻松雄） 東アジアを主な舞台とする国際的な人の移動をテーマととして、問題意識の明確化、先行研究の整理検討を踏まえた課題設定、研究の目的と方法、オリジナリティの探求、論旨の一貫性と体系性、明確な結論という一連の流れと関係性を重視した指導を徹底する。 （㉔　佐々木一隆） 言語普遍性の視点から英語や日本語などの個別言語に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。日英語以外の言語も研究可能とし，比較の視点や外国語教育なども歓迎する。 （㉕　守安敏久） 多文化共生の観点から，日本のさまざまな表象文化に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで考察を深めながら，その成果を学位論文にまとめる。 （㉖　下田　淳） 歴史学・西洋史に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㉗　丁　貴連） 比較文学比較文化の観点から日中韓の近現代文学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 （㉘　吉田一彦） 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㉙　鈴木啓子） 多文化共生の観点に基づく個々の研究テーマに即して，日本言語文化（主に日本近代文学）に関する研究活動を主体的に遂行し，教員の指導のもとで，その成果を学位論文にまとめる。 （㉚　中村　真） 感情と対人コミュニケーションに関する具体的な研究を，自分自身で計画，実施し，さらに，収集したデータを分析して論文としてまとめる。 （㉛　天沼　実） 英語学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㉜　湯澤伸夫） 音声英語学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㉝　長谷川万由美） 共生のまちづくり、社会福祉、シティズンシップ教育に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㉞　松井貴子） 日本文化にかかわる事象から，各自が特に関心を持つテーマを選び，深く追究する。各自が，広範に収集した資料を的確に解釈，分析し，論理的かつ明晰に論じることを，自発的かつ着実に実践する。 （㉟　米山正文） アメリカ合衆国の文化に対象に、文献調査を中心とした研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ (64) Barbara Morrison） ジェンダーに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ (65) 戚　傑） 多文化教育に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ (66) 木下大輔） 作曲・音楽学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学特別研究	（ ⑥⑦ 鎌田美千子） 日本語教育学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑥⑧ 谷　光生） 現代英語を主たる対象に理論言語学的手法を用いた分析・研究を行い，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑥⑨ 丸山剛史） 青年と教育、植民地教育史に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑦⓪ Andrew Neal Reimann） 比較文化論に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑦① 髙山(中村)道代） これまでに進めてきた日本語史、日本語学に関する研究内容について研究会等で発表をおこない、その成果を踏まえて研究内容全般を再検討する。さらに、言語学や日本語教育等の関連領域における研究内容について検討し、論文の執筆をおこなう。 （ ⑦② 田口卓臣） フランス思想・文学に関する研究活動を実践し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 （ ⑦③ 本田悟郎） 美術史、芸術学研究に携わる専門性を向上させるため、作品の現物調査や一次文献の読解、諸理論の応用、比較研究などの手法を身につける。美術作品や美術概念、芸術理論等をテーマに沿って探究し、成果を論文でまとめる。 （ ⑦④ 山田(高橋)有希子） 哲学と倫理学に関わる個々の研究テーマを深め、教員の指導のもとで学位論文としてまとめる。 （ ⑦⑤ 髙山慶子） 日本史に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ⑦⑥ 艮　香織） 性と人権に関わる個々の研究テーマを深め、教員の指導のもとで学位論文としてまとめる。 （ ⑦⑦ 大野(神長)斉子） ロシア文化・文学分野の研究テーマを明確化し、分析方法と資料の妥当性について、研究発表を通じて検討しながら、教員の指導のもとで研究成果を学位論文にまとめる。 （ ⑦⑧ 出羽　尚） 特別演習において行った文献の講読と実地調査の経験に基づき、イギリス文化、芸術に関連する自らのテーマを設定し、必要な文献の収集、調査等を行う。また、研究対象の実地調査の計画、遂行等も必要となる。 （ ⑦⑨ 黒川亨子） 法律学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。 （ ⑧⑨ 立花有希） 多文化共生に関わる教育課題の中から自身で設定した主題についての研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ⑨⓪ 澤﨑(吉野)　文） 古代日本語を対象とし、受講者それぞれの興味に沿った形で研究発表をおこなう。自らの設定したテーマに基づいて調査をしたうえで論を組み立て、議論を経て内容を洗練することで、最終的には研究成果を学位論文にまとめる。 （④ 中島　望） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る生活文化デザインに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学特別研究	（⑳ Malee Kaewmanotham） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る東南アジアとりわけタイの開発と地域社会に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊴　小原　伸一） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る声楽発声及び歌唱指導を中心に声楽や音楽学習に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊵　松島　さくら子） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る工芸美術を中心にその表現や材料・技術に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊶　佐々木　和也） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る生活環境学および衣生活を中心に生活科学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊼　若園　雄志郎） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る地域社会教育に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊺ 古村　学） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る日本の村落社会に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊻ 松尾　昌樹） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る中東地域の政治経済に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊶ 髙橋　若菜） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る環境問題や持続可能な発展に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊸ 松村　史紀） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る東アジア国際政治に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊽ 川島　芳昭） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る情報科学および情報技術を中心にしたICT活用や開発に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊶ 上原　秀一） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る教育学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊸ 石川　隆行） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る発達心理学および子どもの社会性を中心にした心理学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。具体的には、子どもの社会性について、地域・コミュニティから多文化間にわたる様々なレベルに関する知見と方法を融合し、問題解決に資する論文の作成に向けて指導する。 （ ㊺ 株田　昌彦） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る芸術学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊶ 平井　李枝） 境界領域・学際領域の地域人間発達支援学分野に係る音楽表現（ピアノ），音楽教育学および音楽鑑賞法に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊸ 藤井　広重） 境界領域・学際領域のグローバル・エリアスタディーズ分野に係る紛争後の平和構築と司法の働きに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学実践プロジェクト	指導教員とのディスカッションを基盤にして，専門知識と技能の深化を図るとともに，研究者として必要な倫理観を養成する。主な内容は，次のとおりである。 ●多文化共生に関する先行研究のサーベイを行い，体系的に専門的知識を理解する。 ●多文化共生学の視点から，実態を把握し現状分析するための，適切な資料・データ収集や分析手法について演習を行う。 ●設定した課題に対して，理論と実態・実践との往還を深め，成果の取りまとめと発表を行う。 　世界の様々な国と地域におけるグローバル化と多文化共生に関する現状と課題についての知識を有し、それらの問題構造を理解し、論理的な考察を加えた研究成果をまとめる。 （㉒　柄木田康之） 文化人類学の視点に基づき論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉓　田巻松雄） 東アジア主な対象として、国際社会学的な観点から、多文化共生が問われる社会状況、多文化共生に関する取り組み等を比較検討する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉔　佐々木一隆） 英語や日本語で書かれた言語に関する専門文献を読んで知識を獲得しつつ，学生や教員との討論を通じて課題発見・解決能力やコミュニケーション能力を修得する。理論的考察，資料分析，口頭発表などの機会も設ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉕　守安敏久） 歴史的・社会的背景を踏まえ，日本の表象文化解読のための多角的な知識と思考を身につける。研究論文等を読みこみ，学生や教員等との討論を通じて，多文化共生のための実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉖　下田　淳） 歴史学・西洋史に関する論文等を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉗　丁　貴連） 比較文学比較文化の観点に基づき、東アジアの文学と文化に関連する文献（日中韓の原典）調査と読解能力、専門知識を学ぶと共に、学生や教員との討論を通じて自国文学や民族文学を超えた幅広い視点から東アジアの文学史を包括する考察能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉘　吉田一彦） 言語を対象とした科学全般、および、外国語教育学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉙　鈴木啓子） 多文化共生の観点に基づき，日本言語文化（主に日本近代文学）に関連する文献を博く収集調査するとともに，学生や教員との討議や検証を通して，研究発表や論文執筆の方法とスタイルを修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉚　中村　真） 感情と対人コミュニケーションに関する大学院レベルの研究を行うための準備段階として，先行研究の検討とまとめ，研究方法の立案，分析方法の検討などを行う。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学実践プロジェクト	（㉛　天沼　実） 英語学に関する論文等を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉜　湯澤伸夫） 音声言語学に関する論文等を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉝　長谷川万由美） シティズンシップ教育に関する論文等を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉞　松井貴子） 日本文化を核として，多文化環境における文化の諸様相について考察を進める。日本の文化、社会の動きと関連する事象をとらえ、各自が関心を持つテーマについて、多方面から検討し，発展させる。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㉟　米山正文） アメリカ合衆国の文化に関する論文等を調査し課題を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ ⑥④ Barbara Morrison） ジェンダーに関する論文等を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ ⑥⑤ 戚　傑） 多文化教育に関する論文等を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ ⑥⑥ 木下大輔） 史料批判・様式批判およびエクリチュールと作曲法の実践的修業を通して，音楽創作の歴史・理論・実践研究能力を身に付けるとともに，学生や教員等との討論を通じて音楽創作文化をめぐる諸問題の分析・考察能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ ⑥⑦ 鎌田美千子） 日本語教育学及び関連領域に関する文献講読を通して課題解決手法を学び、専門的見地から分析及び考察できる能力を修得する。研究の進捗を報告し、当該分野における自らの研究の位置づけと意義を明確にする。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ ⑥⑧ 谷　光生） 現代英語を具体例に取り上げた最近の理論言語学関係の専門文献を取り上げ，研究成果の一端を確認する。資料分析の練習も行う。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化共生学プログラム	プログラム専門科目	多文化共生学実践プロジェクト	（ (69) 丸山剛史） 青年と教育、植民地教育史に関する論文等を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (70) Andrew Neal Reimann） 比較文化論に関する論文等を調査し課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (71) 髙山(中村)道代） 専門分野の研究論文等の分析をおこない，演習をとおして他の受講者とともに検討をおこなう。さらに、演習での検討内容に基づいて１次資料の分析を精緻化し、考察した内容をレポートとしてまとめる。 （ (72) 田口卓臣） フランス思想・文学に関連する研究テーマに即して、一次文献（原典）の読解能力、二次文献（学術論文等）の検証能力を修得し、学生や教員等の討論を通じて、資料批評の手法と問題の考察能力を身に付ける。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (73) 本田悟郎） 美術史、芸術学研究の専門的、体系的知識を獲得し、研究に必要な理論体系の理解を深める。研究対象とする美術作品や美術概念について、各時代の文化状況や現代社会が直面する問題等と照合し、論文や資料等の検討を重ね研究に着手する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (74) 山田(高橋)有希子）哲学と倫理学に関する研究テーマに関連した文献収集と研究方法（質的調査と量的調査）について、学生や教員等との討論を通して学び、個々の課題意識を明確にする。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (75) 髙山慶子） それぞれの研究テーマに則して，史料（古文書）の読解・分析や，学術文献の講読・批判を行い，学生や教員等との討論を通じて日本史の研究能力を修得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (76) 艮　香織） 性と人権に関する研究テーマに関連した文献収集と研究方法（質的調査と量的調査）について、学生や教員等との討論を通して学び、個々の課題意識を明確にする。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (77) 大野(神長)斉子） ロシア文化・文学に関する研究テーマを、専門領域の文献を読み進め、演習を通じて検討を加えながら深めていく。合わせて一次資料の種類に応じた精読・分析の方法を理論の学習と実践を通じて習得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (78) 出羽　尚） イギリス文化，芸術に関しての研究・リサーチを進めるが，文献の講読と同時に，芸術作品等の史料を使った文化研究の方法を身に付けるために，実地調査を行い，各自，あるいは共同で調査の準備・報告を行う。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (79) 黒川享子）各自の研究テーマに即して、判例や学説の調査や理論的検討を行い、学生や教員等との討論を通じて、自説を確立する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (89) 立花有希） 多文化共生の観点から学校教育の現代的課題を検討するために必要な知識と方法を国内外の理論・政策・実践の調査・分析によって獲得する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ (90) 澤﨑(吉野)　文） 古代の日本語に関する研究書等を輪読し、受講者が意見を出し合うことによって、研究対象への見方や考え方を養う。併せて、当該分野の研究における資料の作り方や、議論の方法も学んでゆく。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	基盤科目	人間発達支援方法論	本授業科目では，地域人間発達支援学プログラムの基盤科目として、人間発達支援の方法論について授業を行う。人間発達支援の方法に関する諸問題を人間発達支援諸科学（教育思想史，比較教育，教育哲学）の手法を用いて学修を進める。人間発達支援の方法に関する諸問題とは，例えば，人間の知的・道徳的・身体的な発達をどのような方法によって相互に連関させるかという問題や，人間の発達における個性・個人差にどのような方法で対応するかという問題，人間の道徳的発達に関して地域社会で生じる諸問題（いじめや体罰，虐待など）にどのように対応するか，といった問題のことである。こうした諸問題に，人間発達支援に関する諸科学を基盤としながら，個人・組織・社会がどの様に向き合うのかの視点と，問題解決のための取組・方法について考究する。	
			社会的思考支援論	本授業では，子どもたちや青少年の社会的思考，なかでも就学後の発達段階を中心とした社会認識の発達に関する理解と関心を深めていく。その上で，これまでの社会の中で人が生きていく上で必要となる知識・理解・判断力を個の発達段階に応じて学習しながら子どもや青少年の社会的思考とその支援のあり方について考えていく。具体的には，1950年代以降における社会認識の発達論的研究を取り上げた上で，これまでの学校で中心に行われてきた「地域学習」における「地域教育計画」の実践，コア・カリキュラム連盟・日本生活教育者連盟による実践，さらには，近年において盛んに主張・実践がなされている「社会参加学習」，「シチズンシップ教育」などの実践事例を参照軸にして，子どもや青少年の発達・成長と地域との関連やその支援のあり方について考究する。	
			生涯発達支援論	発達心理学およびその周辺諸科学に関する図書，文献を読み，胎児期から老年期におけるさまざまな研究成果を理解する。その際，討議を重ね，生涯発達心理学の視点から，地域や学校，地域と学校が連携した教育的取り組みに発達心理学の知見が応用できるよう学習を進める。また，生涯発達支援論は，発達をめぐるさまざまな問題をかかえた子どもから大人の支援のために，必要な知見の提供をめざす応用科学と考える。そのため，社会生活や学校教育場面にて発達的な学習や生活支援について適切な指導が行えるよう専門的知識，特に子どもの社会情緒的発達の様相，ライフサイクルから生じる発達障害について考究する。 生涯にわたる人間の発達において生じる諸問題に関する基礎的ならびに高度な知識を考察することにより，自らが立案した手法で，今後求められる発達心理学的な研究や実践，および支援が社会や学校現場で可能となるよう目指す。	
			共に生きるかたちの心理学特論	人はひとりでは生きることができない，ネオテニーとして生まれ落ち，関係を紡ぎながら人として成長する存在である。そこに障害があるとかないとかは関係がない，それぞれがそれぞれの今の時点で持っている力を使って生きる。相互志向的，相互主体的な関係の中で生きあう中で，自分ではない自分（他者）との混淆関係から，自‐他が分化し，自己という意識が生じる。信頼できる他者との関係は，自分に向けられた声という意味をもたない音の世界を意味を持つ言葉の世界に変える。このような関係から生み出される人の発達は，障害とかかわりなく共に生きる関係の中で育つ。 人が人と共に生きる中で自分としての個性をもちつつ育つ過程を，できうる限り事例を取り上げて説明し，共に生きあうかたちとしてとらえる理論や方法について対話を深める。 インクルーシブ社会の形成を目指す人と人の生きあうかたちを臨床発達心理学的視点から読み解く。	講義　20時間 演習　10時間
			ヘルスプロモーション特論	本授業科目では，地域人間発達支援学プログラムの基盤科目として，人々の健康の保持増進のための支援に関する理論や方法を学ぶ。ヘルスプロモーションとは，WHOにより「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし，改善することができるようにするプロセス」と定義されており，人々の健康を保持増進するための個人的な技能や能力を高めることと併せて，それを支援する社会的，経済的，政治的な環境を作り出すことが強調されている。本授業では，前半に，ヘルスプロモーションの理念の土台となる，健康の概念，健康と社会の繋がり，国際社会における健康課題への取組，健康教育の考え方などについて理解を深める。中盤には，ヘルスプロモーション活動の実践に向けて理解しておくべき，健康教育に関する教材論・方法論・評価論，保健行動科学の理論やモデルなどについて実践的に理解する。後半は，それまでの学びを踏まえて，受講生が属するフィールドを基盤としたヘルスプロモーション活動を考案し，受講者同士での議論を通じてその可能性を探求する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	基盤科目	生活環境創造支援論	家族や地域社会の教育力の低下やコミュニティの崩壊は近年とくに指摘されている。少子高齢社会の本格的な到来により，人生100年時代の「生活の豊かさ」を実感できる地域づくりが必要となる。このことは，「よりよい生活」を創造する実践力の育成が，家庭や地域支援の実践者には必要不可欠であることを示唆している。生活の基盤となる環境を捉えるために，学際的な知見から生活環境学に関する理解を深め，家政学の主たる各領域における環境の取り扱いについて議論する。同時に，生活を環境学の視点から総合的に捉えることの必要性について，ESD(Education for Sustainable Education)，ESC(Education for Sustainable Consumption)，Biodiversity,SDGs等の学術的トピックスをとりあげ，環境教育をめぐる議論から検討する。 ＜オムニバス方式/全15回＞ （㊶　佐々木和也/6回） （第１回）イントロダクション 　概要　授業設置の社会的背景に関する講義と授業の進め方等のガイダンス （第5回）衣生活と環境① 　概要　繊維および衣服の生産における環境負荷とファストファッション （第6回）衣生活と環境② 　概要　衣生活の使用と廃棄における課題とアップサイクル事情 （第7回）衣生活と環境③ 　概要　伝統染織の視点から見た衣生活の課題と展望 （第14回）総合討論① 　概要　衣食住と環境の関係性をテーマにした討論 （第15回）総合討論② 　概要　家庭科教育が担う環境教育をテーマにした討論 （㊲　赤塚朋子/3回） （第2回）消費者教育と環境 　概要　持続可能な消費(ESC)とエシカル消費をめぐる議論 （第3回）家庭経営と環境 　概要　家庭経済の観点から見た環境問題 （第4回）生活福祉と環境 　概要　弱者支援の観点からみる生活・社会環境問題 （㊻　艮香織/3回） （第8回）食生活と環境① 　概要　食教育（食育）をめぐる課題と展望 （第9回）食生活と環境② 　概要　調理の観点からみた環境問題 （第10回）食生活と環境③ 　概要　食品ロスとフードバンク及び地域連携の課題と展望 （① 陣内雄次/3回） （第11回）住生活と環境① 　概要　環境配慮型住宅と伝統建築 （第12回）住生活と環境② 　概要　まちづくりと地域コミュニティ （第13回）住生活と環境③ 　概要　こどもの居場所（こども食堂等）と地域コミュニティの再生	オムニバス方式
			地域アートマネジメント（美術）	現在地域に根差した美術展が日本各地で開催されている。近年では作品を展示するだけではなくアーティストによるワークショップの企画や、レジデンス形式による制作現場や制作過程の公開など、運営の方法も多様化している。また、いかに美術展が地域や地域の人々に根差したものとするかが大きな課題となっている。また、地域の美術館やギャラリーといった展示施設での従来型の美術展も数多く開催され、現在でも地域の芸術家や愛好家の活動発表の場として重要な位置を占めている。この授業では、そのような地域に展開する美術展のマネジメントの方法に焦点を当て、地域における美術展の文化的役割について考察する。授業の中で受講者は展覧会の運営に実際に参加し、マネジメントの実態を経験する。それを通し自ら展示案やワークショップ案を企画することで、美術展による文化振興や鑑賞支援のスキルアップを図る。	
			地域アートマネジメント（音楽）	現在、地域密着型の音楽イベント（音楽祭、合唱祭、音楽公演、舞台公演、子供の音楽会等）が地域の文化振興や観光振興、地域コミュニティーの再生等、地域社会の発展に大きく寄与している例が多々ある。本授業では、音楽の文化芸術と社会をつなぎ、様々な音楽的公演を実現するために必要な、アートマネジメントについて学ぶ。「人」と「人」をつなぎ、「人」と地域社会をつなぐツールとして、音楽をどのように活用できるかを考察する。そして、音楽制作の現場での活動体験を通して、専門的な技能として、音楽のコンサート、イベントの運営、企画、マーケティング、渉外、広報等のスキルやノウハウなどを習得する。またよりよい公演企画を目指し、自己の鑑賞能力も高める。芸術家と社会をつなぎ、鑑賞者のニーズとプレゼンテーションの方法を学び、公演等を企画制作する能力、舞台関係の施設・設備を運用する能力等、専門的能力を身に付ける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	認知心理的支援論	人を「支援」する，と一言で言っても，その一連の活動の中には様々な要素が含まれ，それぞれの特徴について理解しておくことが必要です。本授業科目ではまず，認知心理学の知見や理論的枠組みについて概観し，人間発達の理解のために認知心理学的な視点がどのように役立てられるのかについて議論します。それから「支援」とは何か，という点について考え・議論し，支援においてどんな観点が重要かについて学びます。またこうした場面において不可欠な，周りと意見を交換し協働するという活動についても，グループワークを通し模擬的に体験してもらいます。こうした授業を通し，「人の支援」あるいは「地域社会・社会システムの支援」の在り方について検討を行います。またこうした視点が，現在求められている，地域全体での協働を促進する「地域コーディネーター」という人材養成へどうつなげられるか，その可能性と課題点について追及します。	
			遊びと感情の社会学特論	従来、人の感情は生物としての「ヒト」の問題であり、また個々人の経験の問題として、実験系や臨床系の心理学で扱われることが多かった。しかし近年、感情に関する様々な分野の研究が進み、複合分野としての性格を強めつつある中で、これらの分野の知見の統合が求められている。この授業ではまず、感情社会学の成果について、従来の感情の心理学の考え方と比較対照するようなかたちで学んでいく。特に感情社会学の二つの立場、ケンパーらの実証主義派、ホックシールドらの相互行為論派について説明し、それらをいかに統合していくかをともに考察する。後半は感情の中でも特に「楽しい」「面白い」という感情にスポットをあて，そうした感情を説明する心理学，大脳生理学などの諸理論と感情社会学との関係を学ぶ。特にゴフマンの「遊びの社会学」が、チクセントミハイのフロー理論との補完的関係にあることを中心に考察を進める。	
			地域環境システム論	地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題，居住・都市問題などの解決や，自然災害への備えや対応について，自ら思考・判断できる公民的な資質・能力の育成は，環境共生社会の構築に欠かせない市民力である。本講義をつうじて，地域や学校の様々な教育活動に求められる，生活空間や居住市町村の自然的基盤，人間の活動を介した土地利用や景観の移り変わり，都市型災害の発生メカニズム，水田の多面的機能について深く理解し，人間活動と自然環境の相互作用を地図やGISを用いて多角的に考察する。また，野外巡検に向けて，中山間地域における水田・山林の管理問題，災害への脆弱性，高齢者の食料調達問題などのトピックに関して，巡検対象地域についての資料収集やディスカッション，必要に応じて自治体職員や農業者に対するヒアリングを行う。	
			衣環境学特論	1990年代から台頭してきた「ファストファッション」は，アパレル産業の構造や価値観を大きく変容させてきた。そこで，地域における生活環境や教育環境を考える視点として「人間が衣服を纏う意味」を切り口に，学際的な知見と地域における事例から理解を深め，衣服をめぐる最新情報はもちろんのこと，伝統的な衣生活を取り入れる視点を教授する。授業では，被服材料学，被服構成学，被服管理学，被服生理学および伝統染織学をベースに，地域の教育現場，市民活動現場，伝統産業現場の事例を通して，21世紀における人類の共通課題である環境共生社会を実現していくための人・生活・社会のあり方を議論する。また，指導教員が長年研究で携わっている幼児教育，NPO，伝統産業における現場でアクティブラーニングを通して，衣生活の視点から地域を創造する手法や意義について理解を深め，最終的に地域での実践計画を構想することで，実践力を身につける。	
			生活経営支援論	21世紀の人間社会をとりまく諸課題についてグローバル，ローカルの両視点から深くかつ融合的に考えるために文・理を問わず必要な高度な知的基盤の形成を見据え，生活諸課題に対応するための生活経営を支援する総合的な力を涵養する。生活を経営する環境は、生活をめぐる多様な状況が反映されて、多様で複雑である。それぞれの生活経営課題への支援が喫緊となっている。 具体的には，以下のようなトピックに沿って，グローバル社会と地域の生活に焦点をあて，問題を適確に理解し思考を深めるための導入的講義・演習等を行う。 ○グローバルな課題と国内の諸課題の解決というローカルなガバナンス政策との関係を生活ガバナンスの視点から理解する。 ○現代社会の様々な課題に対する課題解決の方法を理解する。 ○人間の発達・成長を踏まえ，生活経営支援の観点から社会との関係性を理解する手法を理解し身につける。	
			消費者教育支援論	21世紀の人間社会をとりまく諸課題についてグローバル，ローカルの両視点から深くかつ融合的に考えるために文・理を問わず必要な高度な知的基盤の形成を見据え，消費者の生活諸課題に対応するための消費者を支援する総合的な力を涵養する。消費者教育推進法によれば、消費者市民社会の構築が目指されているが、グリーンコンシューマー、エシカルコンシューマー、持続可能な社会、ESD、SDGsなどを視野とする国際的な方向での消費者教育支援を考察する。 具体的には，以下のようなトピックに沿って，グローバル社会と地域の生活に焦点をあて，問題を適確に理解し思考を深めるための導入的講義・演習等を行う。 ○グローバルな課題と国内の諸課題の解決というローカルなガバナンス政策との関係を消費者教育の視点から理解する。 ○現代消費社会の様々な課題に対する課題解決の方法を理解する。 ○人間の発達・成長を踏まえ，発達段階に応じた消費者支援の観点から社会との関係性を理解する手法を理解し身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	健康管理支援論	我が国の高齢者の割合は総人口の3割にも達し超高齢化社会へと進んでいる。死亡死因の上位にある悪性新生物，脳卒中，心筋梗塞などの生活習慣病が大きな問題となっているが，その主要な原因は運動・栄養・休養などの個人の生活習慣の乱れにある。この様な状況の中で，人生100年時代をアクティブに生きるためには，健康に対する意識のみならず，職場や行政が市民の健康活動を積極的に推し進める一次予防が重要となる。そのためには，健康増進に向けた正しい知識と科学的根拠に基づいた実践的指導力を身につけることが不可欠である。本講義では健康の保持・増進という面から健康管理の意義を理解し，疾病予防の観点から健康管理の方法を考え，職場や行政で貢献できる能力を身に付けることを目標にスポーツ指導の場面で問題となっている事象について，身体科学や健康科学の立場から解決策について議論を行う。	
			身体科学特論	厚労省は生活習慣病予防を目的として運動・栄養・休養の３つの柱を掲げている。その中でも運動実践の効果については高血圧，２型糖尿病，肥満をはじめ基礎研究から臨床研究にわたり高い評価が得られており，大規模な疫学的調査においても実証されてきた。さらに最近では痴呆症，うつ病などの精神性疾患に対しても薬物と同様の効果が期待できるエビデンスが公表され，運動の効果が注目を集めている。そこで，本講義では地域の住民を対象に運動を主体とした健康の維持・増進活動を実施する際に必要となる運動の意義・効果について最新の科学的知見を紹介する。また，地域でのスポーツ指導の場面において問題となっている健康事象やその対応策について身体科学及び健康科学の立場から解説を行う。さらにアンケート調査法や得られたデータの活用・評価法について統計的解析法を交え解説を行う。	
			運動発達特論	近年，子どもの運動能力，社会性，学力，言語力などの低下や，体罰や虐待などの増加から「子どもの育ちの危機」が指摘されている。とくに子どもたちが，未来に希望を持って他の人々や，様々な環境・地域と良好な繋がりを持ちながら，様々な社会問題を解決し，自らの身体や感情を適切に処して逞しく生きていく力を育むことが課題となっている．一方，高齢化が進む中で，加齢にともなってQOLを重視した生き方も重要な問題である。このような背景をもとに，現代の子どもから高齢者までの体力・運動能力の経年的な推移を把握し，その特徴や課題を浮き彫りにし，それらを解決するための方策を探る。また，現代社会の生活の中で問題となっている体育やスポーツについて考え，その原因を明らかにする。本授業では発育発達学の立場からスポーツの果たす役割に基づき，地域での指導現場で活用できる能力や資質を身につける。	
			身体運動学演習	体育やスポーツなどの運動の指導場面では，学習者の動きを分析して，適切に評価・診断し，動きを改善するための最良の方法を見つけることが求められる。そのためには，良い動きのモデルを有形無形に関わらず多く蓄積しておくこと，目のつけどころを心得ておくこと，質的分析の能力を高めておくことが必要となる。しかし，実際の運動の評価は，瞬時に行われるため，質的分析だけでは限界が生じる。そのため，動きを観察する目を養い，質的分析能力を高めるとともに，時間や労力はかかるが，動きを量的に分析することも必要となる。本授業では，ビデオカメラなどのICTを用いた学習機器を利活用しながら，運動の質的評価能力を高めるための方法について学習する。そして，様々な運動やスポーツの指導場面で応用できる資料を作成する。	
			スポーツ指導支援論	生涯スポーツ社会の実現に向けて、国や地方（都道府県・市町村）が進めるスポーツ政策等を理解し、スポーツ指導者の実状と支援体制について概説する。現在、国のスポーツ基本計画に見られるように、スポーツの意義や価値が広く共有され，「新たなスポーツ文化」の確立が多くの都県市等で謳われています。地域においては、それぞれに地域の特性を反映し独自のスポーツ振興策が見直され、「スポーツ振興計画」等として展開されています。しかしながら、近年「働き方改革」が注目される社会において「学校における部活動指導のあり方」や、「地域におけるスポーツ指導とその支援体制」の再構築が求められています。本講義では、国の政策に基づいた地域におけるスポーツ政策を中心課題に、スポーツ指導支援というカテゴリーからその現状を検討し、課題学習を通して考究します。	
			生涯身体発達支援論	子どもを取り巻く身体の問題は、運動習慣の低下や体力の二極化などに加え、体力の精神的な要素まで範疇に入れると危機的状況にあるといえる。そのため、地域での身体活動や学校での体育の担う役割は、ますます重要になり、家庭や地域との連携はより一層不可欠になってきている。 本講義では、子どもの身体、子どもを取り巻く環境など、今日的な課題を適切に理解した上で、現在の体力の現状について議論を深めていく。授業では、最新の研究知見に触れながら、受講者自身が生涯スポーツとどのように関わっていくかという視点を探っていくことを試みる。その過程で、体力や身体活動に対する既成概念を問い直し、豊かなスポーツライフを支える知見を得ることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	情報コミュニケーション演習	この授業は，情報を適切に扱ったコミュニケーションを通して，地域と協働し，より良い社会生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識・技能を養成し，現代社会に対応できる人間形成を行う事を目的とする。特に，近年の主たる情報源となるネットワークを介したコミュニケーションでは，氾濫する情報の真偽を確かめる批判的な思考，ネットワーク・リテラシー，情報モラルなど多岐にわたる能力が求められる。特に，他者との認識の違いから起こるすれ違いの仕組み，顔の見えない相手とのコミュニケーションに必要な知識・技能，日々進化する情報コミュニケーション・ツールへの対応など現在だけでなく，将来的な社会の変化に対応できる人材育成にも視野に入れた内容を取り扱う。これらの内容を演習を通して修得することで，知識だけでなく体験を通して実践できる能力を育成する。	
			情報科学技術特論	情報通信社会における人間形成を，情報科学技術の理論に基づき検討する。情報科学技術は，情報モラルや情報リテラシー等の知識基盤を基に情報を数理的，論理的に捉えた情報科学，情報科学の論理的思考を具体化する情報技術を相互に関連付けた考え方である。そのため授業は，情報に関する知識基盤を育成するための講義と課題解決の手順を論理的に設計し，その手順を具体化する演習によって構成し，修得した知識を活用できる実践的な人間形成を目指す。さらに，日本と諸外国における情報通信社会に対する取り組み（プログラミング教育などを含む）を比較検討し，これからの国際社会に対応できる人間形成に必要な要素を情報科学技術の観点から考察する。また，教育の情報化を踏まえた課題解決能力の育成や情報を活用する実践力，情報の科学的な理解，情報社会に参画する態度等の指導も行う。	
			科学コミュニケーション演習	現代社会は科学技術社会であると言われています。また，現在の科学技術はこれからも発展・変化を続けていくことが予想されます。そのため，私たちや次世代がこれからも地域社会においてよりよく発達・成長し，よりよく生きていくためには，自然環境や生活環境における「科学」の在り方を考えていく必要があります。授業では，まず私たちを取り巻くそうした「科学」について基礎的な内容を確認します。具体的には，生命や地球，物質やエネルギーにまつわる身の周りの科学事象に対する科学的認識の発達・形成，科学的な見方・考え方の育成，そうした認識や見方・考え方を踏まえた科学コミュニケーションの在り方といったトピックについて，文献の輪読などを通して受講者同士で議論しながら考えていきます。その後，地域社会における科学的な問題解決，将来に渡る持続可能な開発等に関わる課題について，先行研究事例等を参照しながら検討していきます。	
			造形表現支援演習	児童から高齢者まで一生涯にわたり、美術や工芸を通して人々が生きがいを持ち、より心豊かな生き方を歩む手立てを構築していくことはこれからの社会に大変意義のあることと考える。国内外の文化事業の企画や運営を通し、美術・工芸を活かし人と人、人と地域を繋ぐコミュニケーションをいかに構築するのか造形表現を通して学ぶ授業である。具体的には、美術・工芸の歴史的ムーヴメントを概観し美術・工芸の多彩な表現や、地域社会における美術・工芸に関する活動実践例を調査し、社会との関わりや役割について議論し理解を深める。各自の専門に沿った課題をもとに，地域の芸術祭への協働参加、デザインや表現の提案、ワークショップや交流作品展への企画・立案・実践・参加を通して、世代を超え美術・工芸を体験して学び合う楽しさや喜びを支援できる力や、実際の課題解決に取り組み、多様な価値を理解し、社会に向けた新たな価値を創造する力を養っていく。	
			平面表現技法分析論	美術作品の鑑賞には図像的解釈や図像学に加え、技法面の分析も重要な位置を占める。展覧会に陳列された作品は完成されたものが多数を占め、その制作過程に焦点を当てた例は少ない。作品の背景にある複雑な工程や意匠を知るには、実際に素材を使用した経験や造形的な物の見方が必須となる。 この授業では平面表現（油彩画，日本画，水彩画，素描など）に見られる素材面での構成要素（支持体，地塗り，顔料，媒材など）と描画法（遠近法，陰影法，配色）の関係を図版やサンプル、文献を基に解説し、素材特性の把握が表現を支えている事を示す。それを実感するため，受講者は地域の美術館に展示されている作品の実見調査や文献の精査を経て模写やサンプル制作などを行い、工程を記録する。この授業を通し，受講者には素材と表現の関係性について理解を深め、作品鑑賞能力の発達を促す。ひいては、地域の文化振興を担う人材としての資質向上に繋げる。	
			地域デザインプロジェクト	特定の地域を対象として、自然環境や文化遺産、特産品や空き家などの地域資源に着目し、それを生かすための実践的なデザイン・プロジェクトに取り組むことで、地域にとってのデザインの役割・可能性を探求する。商品・サービスやその広報活動などの経済活動におけるいわゆるコマーシャルな観点と住民のコミュニティや生活環境・福祉などソーシャルな観点の双方から地域を観察・調査し、持続可能な地域社会の創生に資する具体的なテーマを各自設定して取り組んでいく。商品や情報発信のブランディング・デザイン、観光拠点や店舗のリデザインや商店街の空き家のリノベーションデザイン、通りや水辺の景観デザイン、さらに潜在する風景の掘り起こしによる発見のデザインなど、住民とコミュニケーションを取りながら、モノ・こと・場のスタディを進め、図や模型などを制作し、課題に応答するプレゼンテーションを行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	応用科目	舞台芸術分析論	多様な地域の音楽活動を支えるのは音楽経験であり，その経験の積み重ねから得た音楽に対する深い理解が重要である。音楽活動支援は活動全体の運営力はもとより，何よりも芸術作品における美的価値を見出す分析能力を有することが必要である。支援者としての分析能力は活動の主体となる演奏理解をはじめ，その鑑賞方法や楽曲に対する深い知識・理解といった内容が含まれる。それらを総合芸術作品である舞台芸術楽曲の分析を通して、幅広い視点から音楽を捉える能力と結びつけていく。本科目では，音楽に関わる地域支援に欠かせない人材となるために必要な芸術作品の価値創出力を習得すると同時に，音楽を含む総合芸術作品の理解能力を高めることを目標にしている。これらを身につけ，それを有効に活用し多様な地域支援のあり方を実現する能力を身につけておく必要がある。そのため，演奏面と楽曲研究の双方向から作品分析の内容と方法について学ぶ。	
			音声デザイン支援論	地域の芸術表現活動を通した音楽コミュニティーの構成、多様な芸術文化活動の企画や運営に携わるために必要な音楽に関わる資質・能力を習得する。個別実技指導ではヒトの身体発達を踏まえた声の表現技能を伸ばすとともに、様々な芸術表現を支援する力や、課外活動、個人指導、多様な芸術団体での声を使った表現指導を行う力、あるいは情操教育を担う民間教育などでの指導力を含め、音楽を通して豊かな地域社会創生に貢献できる音楽能力を伸ばす。身体を楽器として用い多様な音声の表現体験から生み出される「人間の思考」「生活」「健康」等の観点から「歌うこと」がもたらす「人・ヒト」の「心とからだ」に関する社会システムをデザインする思考力も高める。音楽の専門知識や多面的理解から「地域の人と人をつなぐ」ための企画力や実践力、高度なリーダーシップ、コミュニケーション能力の基盤を習得する。	
			サウンド・コラボレーション	本授業では、地域社会と音・音楽との関わりを、サウンド・コラボレーションという視点から研究する。豊かな日常を送るために、音・音楽は不可欠である。社会の様々な場面において、音・音楽がどのように連携し活用されているかをまず調査する。商業施設でのＢＧＭ、行事の音楽、展覧会の音楽、ドラマや舞台での効果音等、様々なサウンドによる心理的効果を研究し、分析を行うことで、地域社会において音楽を適切に活用できる高度な能力を持つ人材を育成する。また音楽が与える心理的効果についても、高齢者施設や福祉施設、教育施設、病院、飲食店、商業施設等の多種多様な環境において、実地調査から考察し、人間発達に必要な音・音楽について、現在の課題を分析する。地域社会で音楽を適切に活用できるための実践スキルを身につける。	
			外国語コミュニケーション演習	持続可能で豊かな地域社会の創生を支える新しい課題を解決するためには，多様な人々との共生と協働が必要であり，外国語を使っての情報発信力とコミュニケーション能力が必須となる。本講座では，多様な人々と共生するための外国語の実践的コミュニケーション能力を養う。具体的には、英語による相互文化理解能力の育成を目的とし、国際補助言語としての英語の役割、コミュニケーション能力とはなにか、外国語でのコミュニケーションによる認知技能の育成、第２言語習得理論研究からの言語習得研究より言語学習過程においての理解を促す。外国語の学びを通して、異文化を理解する際に、自国の文化や考え方を認識しつつ、自分の視点や考え方についても内省的に考え、相対的視点を持って、差別・偏見にとらわれず、相互的文化交流ができる能力の育成を促す。	
			論理表現コミュニケーション演習	論理的な思考や表現は学術的な研究活動に必要不可欠だが、同時に地域生活のコミュニケーションにおいても必要となる。様々な相手や物事・事象に対し、「好き・嫌い」で判断したり感覚的な評価を下したりするだけでは、議論はかみあわず相互理解は成立しない。他者や対象をよく理解し、それに基づきながら自らの考えを形成し表現する方法を身につけることが、研究活動においても、地域の諸課題を解決するためにも、必要な方法となる。 そこで本授業では、研究するために必要な論理表現の技術を修得することを基本としながら、受講生のニーズに応じてより実践的なコミュニケーション技能の修得も視野に入れる。具体的には、読むことのレッスン、要約のレッスン、論証のレッスンなどを演習形式で行う。「読む・書く」の実技を中心に、受講生の表現力や論理的思考力を高める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	地域人間発達支援学特別演習	本科目は，研究科共通の「地域創生リテラシー」と本学位プログラムの専門科目の履修によって得られた地域人間発達支援に関する専門知識・技術を基盤として，高度な専門的・学際的思考力と創作力及び実践力を養成するために，学生のテーマに即して地域人間発達に関する先行論文の熟読・批判的検討，統計学的データ解析，フィールド調査設計，作品創作の指導・評価，などを行う。また，修士論文あるいは地域実践プロジェクト（ワーキングペーパー含む）の遂行を想定しながら，それに必要な分析手法や資料・データの探索方法・表現技法等を修得し，研究計画の立案・実施能力に結びつける。なお，他分野からの学際的思考力を養成する観点から，他の学位プログラム（コミュニティデザイン学，多文化共生学）の教員が第2副指導教員として指導・助言を行う。 （㊱　小宮秀明） 生活習慣病予防および健康管理に関する学術的論文の購読や地域での健康増進活動を実践・調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊲　赤塚朋子） 生活経営および消費者教育を中心に生活科学に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （㊳　加藤謙一） 発育発達学を中心に体育科学をベースにした論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （㊴　小原伸一） 声楽発声及び歌唱指導を中心に声楽や音楽学習に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （㊵　松島さくら子） 工芸美術を中心にその表現や材料・技術に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （㊶　佐々木和也） 生活環境学および衣生活を中心に生活科学に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （ (80) 川島芳昭） 情報科学および情報技術を中心にICT活用や開発に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （ (81) 上原秀一） 教育学に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （ (82) 小原一馬） 社会学および遊びに関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （ (83) 石川隆行） 発達心理学および子どもの社会性を中心に心理学に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （ (84) 熊田禎介） 社会科教育学および歴史教育に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	地域人間発達支援学特別演習	（ 85 株田昌彦） 芸術学に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （ 91 平井李枝） 音楽表現（ピアノ）、音楽教育学および音楽鑑賞法を中心に音楽に関する論文や実践研究を調査し，課題解決手法を学ぶとともに，学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を習得する。 （① 陣内　雄次） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る住環境・まちづくりに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑦ 黒後　洋） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る地域スポーツ行政に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （⑨ 大森　玲子） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る地域食生活に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉕　守安　敏久） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る日本の表象文化に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉖　下田　淳） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る歴史学・西洋史に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉙　鈴木　啓子） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る日本言語文化に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉛　天沼　実） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る英語学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㉝　長谷川　万由美） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る共生のまちづくり，社会福祉，シティズンシップ教育に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊷　石川　由美子） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る活動・発達心理学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	地域人間発達支援学特別演習	（㊺　髙島　章悟） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る合奏による参加型デザインに関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊽　中川　敦） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る福祉会話分析に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （㊾　白石(菅村) 智子） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る地域住民の意識・行動に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 66 木下　大輔） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る作曲・音楽学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 68 谷　光生） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る理論言語学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 69 丸山　剛史） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る青年と教育，植民地教育史に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 73 本田　悟郎） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る美術史，芸術学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 74 山田(高橋) 有希子） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る哲学と倫理学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 75 髙山　慶子） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る日本史に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 76 艮　香織） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る性と人権に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 79 黒川　亨子） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る法律学に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。 （ 90 澤﨑(吉野) 文） 境界領域・学際領域の多文化共生学分野に係る古代日本語に関する観点から，研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて，学際的思考力，コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	地域人間発達支援学特別研究	「地域人間発達支援学特別研究」は，高度な専門知識・技術と実践力及び研究力を養成する集大成として，修士論文の作成に向けた研究授業を行う。地域人間発達支援学プログラムを専攻する学生の研究テーマは，心理学，生活科学，社会学，環境学，身体科学，保健学，芸術学ほか広範囲に渡るため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。人間発達支援に関する地域社会の実態と課題の把握を基盤にして，予備考察と関連論文の整理等から研究課題・テーマを設定する。この研究テーマに即して，フィールド調査・分析，関連統計分析，作品の創作，を行う。学生の研究発表とディスカッション，及び指導教員の指導・助言を通して，修士論文への取り纏めを行う。また，高度専門職業人・研究者として必要な倫理教育も行う。なお，他分野からの学際的思考力を養成する観点から，他の学位プログラム（コミュニティデザイン学，多文化共生学）の教員が第2副指導教員として指導・助言を行う。更に，研究室単位ではなくプログラム全体で1年次に中間発表会（研究計画，予備考察，試作品等）を行い，2年次に中間発表会（中間纏め等）と最終発表会を実施する。 （㊱　小宮秀明） 生活習慣病の予防や健康増進に向けた研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊲　赤塚朋子） 生活経営学および消費生活を中心に生活科学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊳　加藤謙一） 発育発達学を中心に体育科学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊴　小原伸一）声楽発声及び歌唱指導を中心に声楽や音楽学習に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊵　松島さくら子）工芸美術を中心にその表現や材料・技術に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （㊶　佐々木和也） 生活環境学および衣生活を中心に生活科学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ㊀ 川島芳昭） 情報科学および情報技術を中心にICT活用や開発に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ㊀ 上原秀一） 教育学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ㊀ 小原一馬） 社会学および遊びに関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ㊀ 石川隆行） 発達心理学および子どもの社会性を中心に心理学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ㊀ 熊田禎介） 社会科教育学および歴史教育に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ㊀ 株田昌彦） 芸術学に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （ ㊀ 平井李枝） 音楽表現（ピアノ）、音楽教育学および音楽鑑賞法を中心に音楽に関する研究活動を遂行し，教員の指導のもとで成果をまとめ，学位論文にまとめる。 （① 陣内　雄次） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る住環境・まちづくりに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	地域人間発達支援学特別研究	（⑦ 黒後　洋） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る地域スポーツ行政に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （⑨ 大森　玲子） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る地域食生活に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉕　守安　敏久） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る日本の表象文化に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉖　下田　淳） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る歴史学・西洋史に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉙　鈴木　啓子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る日本言語文化に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉛　天沼　実） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る英語学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㉝　長谷川　万由美） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る共生のまちづくり，社会福祉，シティズンシップ教育に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊷　石川　由美子） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る活動・発達心理学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊺　髙島　章悟） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る合奏による参加型デザインに関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊽　中川　敦） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る福祉会話分析に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （㊾　白石(菅村) 智子） 境界領域・学際領域のコミュニティデザイン学分野に係る地域住民の意識・行動に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊻ 木下　大輔） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る作曲・音楽学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊽ 谷　光生） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る理論言語学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊾ 丸山　剛史） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る青年と教育，植民地教育史に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㉓ 本田　悟郎） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る美術史，芸術学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㉔ 山田(高橋) 有希子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る哲学と倫理学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㉕ 髙山　慶子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る日本史に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㉖ 艮　香織） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る性と人権に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （地域創生科学研究科　社会デザイン科学専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域人間発達支援学プログラム	プログラム専門科目	地域人間発達支援学特別研究	（ ㊾ 黒川　亨子） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る法律学に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。 （ ㊿ 澤﨑(吉野) 文） 境界領域・学際領域の多文化共生の分野に係る古代日本語に関する観点から，研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。	
		地域人間発達支援学実践プロジェクト	本科目は，修士論文を課さないコースワークを選択する学生が受講し，NPO、生活環境学および衣生活、工芸美術、音楽などの地域生活の中における課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明をコースの専門教員が掲げる特定課題に沿って実施する。研究を進めるにあたって、実践プロジェクト研究を実施する際に必要となる研究倫理に関する教育を徹底する。 コースワークを希望する学生は入学時点で，主指導の教員が提示する特定課題に沿って，自らの２年間のプロジェクト計画を提示することが求められる。プロジェクト計画の作成とその実施，修正必要箇所の確認と方針の更新を繰り返し，１年次前期の間にプロジェクト計画を確定させる。主に1年次後期～2年次前期にかけてプロジェクトを実施し，2年後期に実施したプロジェクトの成果についての検証を行う．プロジェクトの実施や成果の検証に必要な文献検討を通じて，成果に結びつくプロジェクトを立案・実施する能力を養う。 また，学生は，プロジェクトを通じて遂行された地域の課題解決と結びつく実践的活動とその成果を，ワーキングペーパー(活動報告書)としてまとめ上げる。具体的には，当該実践的活動の先行研究・プロセスなどを説明した上で，活動内容とその分析・考察などを詳述し，結論づける。以上の作業を担当教員の指導の下に実施する。 （㊲　赤塚朋子） 生活経営学および消費生活を中心に生活科学をベースにしたESCに関する論文や実践研究を調査し，地域NPOや教育機関等の活動主体との討論を通じて地域課題を解決するためのプロジェクト研究を計画し，遂行する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊴　小原伸一） 声楽発声及び歌唱指導を中心に音楽の生涯学習や社会活動に関する論文や実践研究を調査し，地域の音楽団体や教育機関等の活動主体との討論を通じて地域課題を解決するためのプロジェクト研究を計画し，遂行する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊵　松島さくら子） 工芸美術を中心にその表現や材料・技術に関する作品・論文・実践研究を調査し，美術館,地域NPOや教育機関等の活動主体との討論を通じて地域課題を解決するためのプロジェクト研究を計画し，遂行する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （㊶　佐々木和也） 生活環境学および衣生活を中心に生活科学をベースにしたESDに関する論文や実践研究を調査し，地域NPOや教育機関等の活動主体との討論を通じて地域課題を解決するためのプロジェクト研究を計画し，遂行する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ ㊷ 小原一馬） 社会学および遊びに関する論文や実践研究を調査し，地域NPOや教育機関等の活動主体との討論を通じて地域課題を解決するためのプロジェクト研究を計画し，遂行する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ ㊺ 株田昌彦） 芸術学や美術に関する論文や実践研究を調査する。合わせて地域の美術館やギャラリー、美術団体等と連携し、美術展の運営に参加し、文文化振興面からの効果を検証する。もしくは、美術作品を制作し、展覧会を企画する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。 （ ㊾ 平井李枝） 音楽表現（ピアノ）、音楽教育学および音楽鑑賞法を中心に音楽に関する論文や実践研究を調査し，地域社会や教育機関、公共ホール等の活動主体との討論を通じて地域課題を解決するためのプロジェクト研究を計画し，遂行する。さらに，教員の指導のもとで特定課題の成果をまとめ，ワーキングペーパーにまとめる。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書　類を作成する必要はない。